

宮崎市文化財調査報告書第51集

# 北中遺跡 II

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002  
宮崎市教育委員会

## 序

九州の南東部に位置する本市は、温暖な気候で自然に恵まれた素晴らしい土地であることはいうまでもありません。この土地に古くから人々が生活を営んできたことは、これまでに発掘調査が行われてきた数多くの遺跡からも考えられます。

本書は、平成12年度から13年度にかけて宅地造成工事に伴う発掘調査が行われた北中遺跡Ⅱの調査報告書であります。今回の調査区の西側約1,400m<sup>2</sup>については平成11年度に発掘調査を行い、弥生時代、古墳時代の住居址を確認しました。今回は東側約1,400m<sup>2</sup>について調査を行い、古墳時代の竪穴住居16軒、地下式横穴墓10基そして溝状造構が確認されています。住居址からは、土師器の壺、高壺、壺が出土し、一部の住居址からは鉄滓が出土しました。地下式横穴墓からは、上師器、須恵器の壺、須恵器の壺、土師器の壺、刀子、鐵鎌、翡翠玉、耳環が出土しています。今回の調査は、宮崎市の平野部の歴史が解明されていく上で意味のあるものと考えられます。

宮崎市に限らず、全国的に開発行為が進められています。そのなかで、私達の貴重な財産である埋蔵文化財をはじめとする数多くの文化財が失われています。本市が携わる発掘調査で一人でも多くの方が関心を持ち文化財愛護の意識を高めてもらいたいと願っています。

最後になりましたが発掘調査にあたり、御配慮、御協力を頂きました関係機関の方々、ならびに、発掘調査に従事された作業員の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

宮崎市教育委員会

教育長 内 藤 泰 夫

## 例　　言

1. 本書は民間宅地造成工事に伴う、北中遺跡IIの発掘調査報告書である。.
2. 調査は平成13年1月10日～平成13年4月13日までの期間、宮崎市教育委員会が実施した。
3. 調査主体 宮崎市教育委員会 文化振興課

(平成12年度)

調査総括	課長	野間 重孝
	係長	永井 淳生
庶務担当	主事	竹野 隆司
調査員	主事補	仁尾 忠尊
	嘱託	河野 賢太郎

(平成13年度)

調査総括	課長	小掠 壽
	係長	永井 淳生
庶務担当	主任主事	竹野 隆司
調査員	主事	仁尾 忠尊
	嘱託	河野 賢太郎
整理担当	主事	仁尾 忠尊
	嘱託	河野 賢太郎
	椎 由美子	
	佐藤 小夜子	
	熊田原 被義	

4. 本書の執筆は河野が行った。
5. 掲載図面の実測、製図、図版の作成は仁尾、河野、椎、佐藤、熊田原が行った。
6. 現場での写真撮影は仁尾、河野が行った。
7. 本書の編集は河野が行った。
8. 本書で使用した空中写真は株式会社スカイサーベイによるものである。
9. 本遺跡出土遺物は宮崎市教育委員会が保管している。
10. 本書実測図中で使用した遺構略号は以下のとおりである。  
S A - 挖立柱建物 S B - 地下式横穴墓 S E - 溝状遺構 P - Pit  
11. 第3図中 、実測図中 は、擾乱である。
12. 実測図中、破線は復元推定ラインである。
13. 本文中の遺構の深さは検出面からのサイズである。
14. 報告書中の北はすべて磁北である。

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 立地と歴史的環境.....	1
第Ⅱ章 調査の結果.....	5
第1節 調査の概要.....	5
第2節 壴穴住居.....	5
第3節 土坑.....	29
第4節 溝状遺構.....	29
第5節 地下式横穴墓.....	38
遺物観察表.....	46
第Ⅲ章 まとめ.....	58

## 挿図目次

第1図 周辺地図①.....	3
第2図 周辺地図②.....	4
第3図 遺構配置図.....	4
第4図 1号住居実測図.....	5
第5図 1号住居出土遺物実測図.....	5
第6図 2号住居実測図.....	6
第7図 2号住居出土遺物実測図.....	6
第8図 3号・6号・7号住居実測図.....	7
第9図 3号住居出土遺物実測図(1).....	8
第10図 3号住居出土遺物実測図(2).....	9
第11図 4号・12号・13号住居実測図.....	10
第12図 4号住居出土遺物実測図(1).....	11
第13図 4号住居出土遺物実測図(2).....	12
第14図 4号住居出土遺物実測図(3).....	13
第15図 4号住居出土遺物実測図(4).....	14
第16図 5号住居実測図.....	15
第17図 5号住居出土遺物実測図.....	15
第18図 6号・7号住居出土遺物実測図.....	17

第19図	8号住居実測図	1 8
第20図	9号住居実測図	1 8
第21図	8号住居出土遺物実測図(1)	1 9
第22図	8号住居出土遺物実測図(2)	2 0
第23図	8号住居出土遺物実測図(3)	2 1
第24図	9号住居出土遺物実測図	2 3
第25図	10号住居実測図	2 4
第26図	11号住居実測図	2 4
第27図	10号住居出土遺物実測図(1)	2 5
第28図	10号(2)・11号住居出土遺物実測図	2 6
第29図	12号・13号住居出土遺物実測図	2 7
第30図	14号住居実測図	2 7
第31図	14号住居出土遺物実測図	2 8
第32図	15号住居実測図	2 8
第33図	16号住居実測図	2 8
第34図	15号住居出土遺物実測図(1)	3 0
第35図	15号住居出土遺物実測図(2)	3 1
第36図	15号住居出土遺物実測図(3)	3 2
第37図	16号住居出土遺物実測図(1)	3 3
第38図	16号住居出土遺物実測図(2)	3 4
第39図	16号住居出土遺物実測図(3)	3 5
第40図	16号住居(4)・1号土坑・1号溝状遺構川土遺物実測図	3 6
第41図	2号・6号・7号溝状遺構出土遺物実測図	3 7
第42図	1号地下式横穴墓実測図	3 8
第43図	2号地下式横穴墓実測図	3 9
第44図	2号地下式横穴墓出土遺物実測図	3 9
第45図	3号地下式横穴墓実測図	4 0
第46図	3号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 0
第47図	4号地下式横穴墓実測図	4 1
第48図	4号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 1
第49図	5号地下式横穴墓実測図	4 1
第50図	5号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 2
第51図	6号地下式横穴墓出土遺物実測図(1)	4 2
第52図	6号地下式横穴墓実測図	4 3
第53図	6号地下式横穴墓出土遺物実測図(2)	4 3

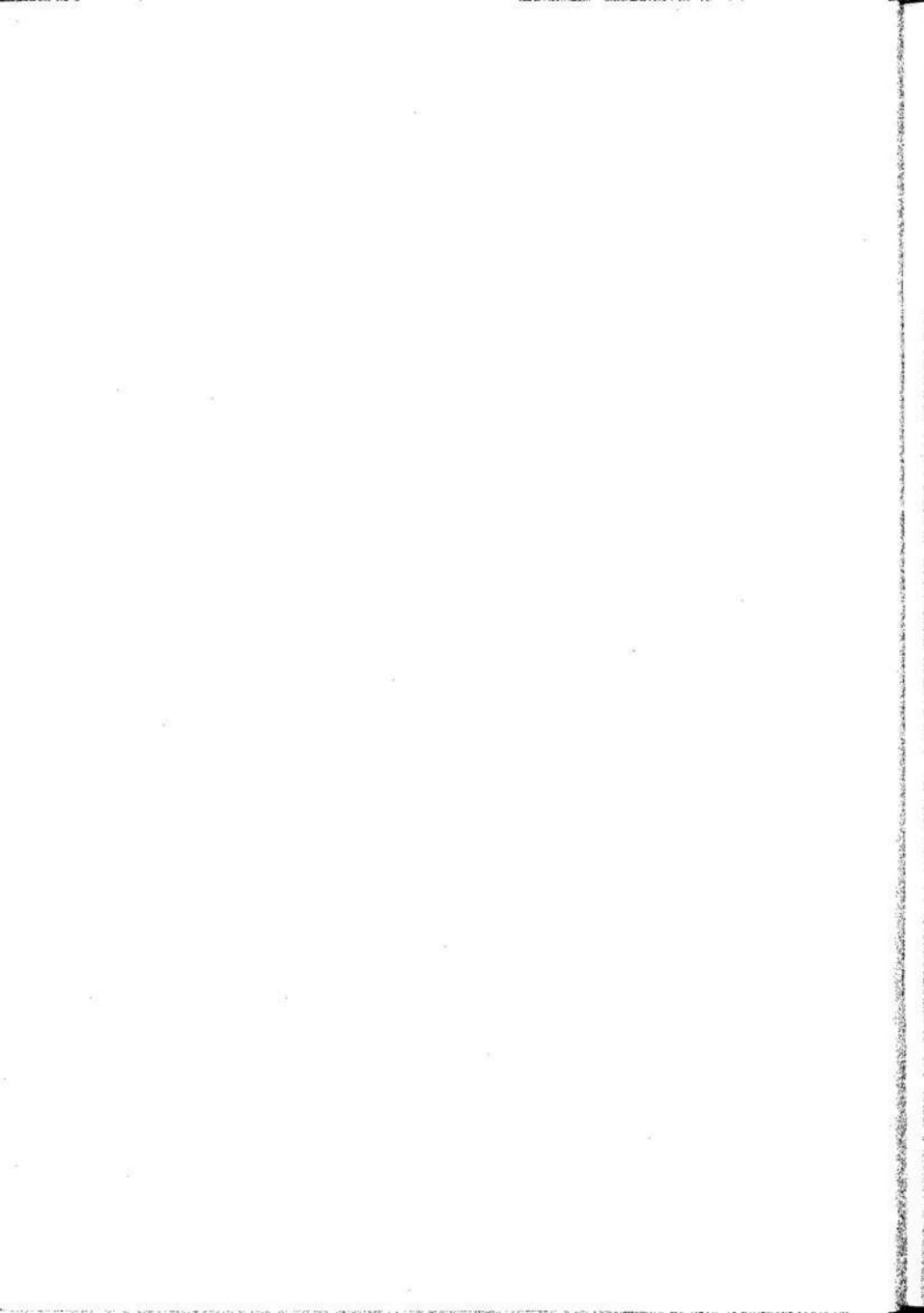
第54図	7号地下式横穴墓実測図	4 4
第55図	7号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 4
第56図	8号地下式横穴墓実測図	4 4
第57図	8号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 4
第58図	9号地下式横穴墓実測図	4 5
第59図	9号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 5
第60図	10号地下式横穴墓実測図	4 5
第61図	10号地下式横穴墓出土遺物実測図	4 5
第62図	1号Pit出土遺物実測図	4 5

## 写真図版目次

図版1	北中遺跡遠景	6 5
図版2	北中遺跡全景	6 6
図版3		6 7
	fig 1 1号住居完掘	
	fig 2 1号住居遺物出土状況	
	fig 3 1号住居焼土検出状況	
	fig 4 2号住居完掘	
	fig 5 2号住居遺物出土状況	
	fig 6 2号住居遺物出土状況2	
図版4		6 8
	fig 7 3号住居完掘	
	fig 8 3号住居遺物出土状況	
	fig 9 3号住居遺物出土状況2	
	fig10 4・12・13号住居完掘	
	fig11 4号住居遺物出土状況	
	fig12 4号住居遺物出土状況2	
図版5		6 9
	fig13 5号住居完掘	
	fig14 5号住居遺物出土状況	
	fig15 5号住居遺物出土状況2	
	fig16 6号住居完掘	
	fig17 6号住居遺物出土状況	
	fig18 6号住居遺物出土状況2	
図版6		7 0
	fig19 7号住居完掘	
	fig20 7号住居埋甕出土状況	
	fig21 7号住居遺物出土状況	

fig22	8号住居完掘	
fig23	8号住居遺物出土状況	
fig24	8号住居遺物出土状況 2	
図版7		7 1
fig25	9号住居完掘	
fig26	9号住居遺物出土状況	
fig27	9号住居検出	
fig28	10号住居遺物出土状況	
fig29	10号住居遺物出土状況 2	
fig30	10号住居検出	
図版8		7 2
fig31	11号住居完掘	
fig32	11号住居裏表出土状況	
fig33	11号住居検出	
fig34	12・13号住居土層	
fig35	12号住居裏検出	
fig36	14号住居遺物出土状況	
図版9		7 3
fig37	14号住居完掘	
fig38	14号住居遺物出土状況	
fig39	16号住居遺物出土状況	
fig40	1号地下式横穴墓完掘	
fig41	1号地下式横穴墓竖坑部分	
fig42	2号地下式横穴墓遺物出土状況	
図版10		7 4
fig43	3号地下式横穴墓完掘	
fig44	3号地下式横穴墓遺物出土状況	
fig45	3号地下式横穴墓遺物出土状況 2	
fig46	4号地下式横穴墓完掘	
fig47	4号地下式横穴墓遺物出土状況	
fig48	4号地下式横穴墓遺物出土状況 2	
図版11		7 5
fig49	5号地下式横穴墓完掘	
fig50	5号地下式横穴墓遺物出土状況	
fig51	6号地下式横穴墓遺物出土状況	
fig52	6号地下式横穴墓完掘	
fig53	6号地下式横穴墓竖坑	
fig54	6号地下式横穴墓遺物出土状況 2	
図版12		7 6
fig55	6号地下式横穴墓遺物出土状況 3	
fig56	6号地下式横穴墓遺物出土状況 4	
fig57	7号地下式横穴墓遺物出土状況	
fig58	8号地下式横穴墓完掘	

fig59	8号地下式横穴墓遺物出土狀況	
fig60	9号地下式横穴墓遺物出土狀況	
図版13	.....	7 7
fig61	9号地下式横穴墓完掘	
fig62	10号地下式横穴墓完掘	
fig63	1号PIT遺物出土狀況	
fig64	2・7号溝状遺構完掘	
fig65	2・7号溝状遺構遺物出土狀況	
fig66	2号溝状遺構遺物出土狀況	
図版14	川土遺物(1).....	7 8
図版15	川土遺物(2).....	7 9
図版16	出土遺物(3).....	8 0
図版17	出土遺物(4).....	8 1
図版18	出土遺物(5).....	8 2
図版19	出土遺物(6).....	8 3
図版20	出土遺物(7).....	8 4
図版21	出土遺物(8).....	8 5



# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

平成12年10月24日付で株式会社[ ]より、宮崎市吉村町北中甲1232番1、1232番2の一部について文化財の有無照会が提出された。それを受けて市教育委員会は、開発予定地内の西側2,000mについて平成9年度に発掘調査を実施し、弥生時代、古墳時代、中世そして近世の遺構、遺物が確認されているため、東側についても本発掘調査必要である旨回答した。その後、平成12年10月27日、30日に試掘調査を実施した。

設定した9本の全てのトレーンチで遺構が確認できた。その後、[ ]株式会社と協議を重ね、平成13年1月10日～平成13年4月13日までの期間発掘調査を実施した。

## 第2節 立地と歴史的環境

北中遺跡は大淀川左岸沖積地の微高地に、標高約3.5mの地点に立地する。東に約1.3kmで一つ葉入り江、南に約2.3kmで大淀川に至る。北300mを流れる新別府川を挟んで砂丘列に至る。

遺跡は微高地の北東の縁辺に立地し、北側の水田面との比高差は約1mである。本遺跡の立地する微高地は南方と西方に宮崎駅付近まで広がりがあり、西側は1m程高い。

当遺跡が立地する微高地には数多くの遺跡の存在が知られている。

南西約800mの微高地縁辺部には、平成8年に調査された大町遺跡が所在する。大町遺跡からは、弥生時代中期末～後期初頭の周溝状遺構、古墳時代後期の堅穴住居61軒、住居の床面から掘り込まれた地下式横穴墓3基が検出され、6世紀後半から7世紀初頭の集落が確認された。堅穴住居からは、埋葬炉や甕を付設したものがみられ、堅穴住居が屋外炉から埋葬炉の採用に至り、埋葬炉と甕の両方を付設したものへ移行し、最終的に甕のみを付設するという変遷を遂げたことが指摘され、出土須恵器から6世紀末には甕が導入されていたことが明らかとなつた。地下式横穴墓は3基とも同じ住居の床面から掘り込まれており、いずれも平入り楕円形プランを採用している。遺物は上師器の瓶、牛上りII式段階の須恵器が出土している。(註1)

大町遺跡の西方300mには、平成8年に調査された古墳～平安時代の遺跡である宮脇遺跡が所在する。宮脇遺跡では溝状遺構8条が検出され、そのうちの1条から布痕土器が出土している。

宮脇遺跡の西方300mには、昭和52～54年と、平成4年の4次にわたって調査された浄土江遺跡が所在し、33軒の住居、數十条の溝状遺構が検出され、古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器・須恵器が出土している。

この他、この微高地上には弥生～古墳時代の散布地である櫛小学校遺跡、上無田堤遺跡、上西中遺跡、柿本遺跡、北中第2遺跡(旧北中遺跡)が所在し、さらに古墳時代の散布地として微高地上に中原遺跡、曾師遺跡、東側の低地に下蔽遺跡、今村前遺跡、今村遺跡が所在する。(註2)

新別府川を挟んだ北側には下田島面群という海進海退の海成による低位の完新世段丘面群が一つ瀬川まで広がり、高位より下田島I面からIV面の4面に区分されている。下田島I面にあたる第1砂丘上には、古墳や多数の遺跡が存在し、そのうちのいくつかは発掘調査が行われている。

当遺跡の北約800mには櫛遺跡が所在する。櫛遺跡は、日本考古学協会の弥生式土器文化総合研究特別委員会の事業として昭和31年から3次にわたる調査が行われ、弥生時代前期の積石墓9基、小兒壇棺が出土した。

櫛遺跡の所在する櫛中学校の南には、未指定の前方後円墳である櫛1号墳(庵山古墳)が所在する。櫛1号墳は、平成12年に宮崎大学教育文化学部考古学研究室によって発掘調査が行われ、墳長約50m、前方部長17mを測る。前方部が異常に短い墳形で、左右非対称ではあるが前方部前端に向かって大きく開くことが明らかになり、後円部の平面形も正円ではなく倒卵形の可能性が高まり、纏向型類型の特徴を備えることが確実となった。遺物は古墳に伴うと思われるものは出土していない。(註3)

櫛1号墳の東方500mには麓2号墳、その東側の低地には櫛古墳(消滅)、櫛3号墳が存在し、下原

や村角・大島地区の古墳とともに樋古墳群を構成している。これらは、平野部に築かれた古墳群として注目される。(註4)

穂遺跡から北に400mの地点には、昭和62年に調査された江田原第1遺跡が所在する。江田原第1遺跡では、9世紀代の土師器や、弥生時代の磨製石斧が出土している。(註5)

江田原第1遺跡から北方150mには、平成13年度に調査された江田原第3遺跡が所在する。江田原第3遺跡では5世紀後半の古墳の周溝が確認され、土師器高坏、須恵器が出土し、擾乱土中ではあるが、直刀2振り、鉄斧、鉈が出土している。

同じく江田原第1遺跡から西に350mの低地には浮ノ城遺跡が所在する。浮ノ城遺跡では弥生時代の水田跡が検出された。水田跡は、穂遺跡から北東へ約750m、第1砂丘を越えた東側の低地にある穂北小学校校庭遺跡でも確認され、奈良時代の土師器が出土している。

この他、第1砂丘南端の低地には麓第1遺跡・麓第2遺跡といった、古墳時代の散布地が所在する。

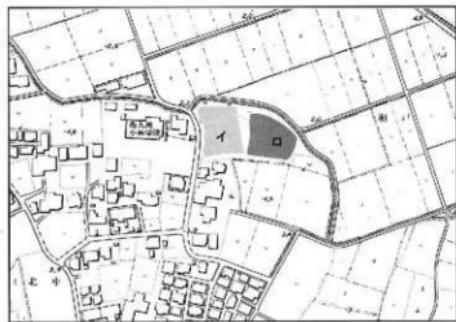
#### 註

- 1 宮崎市教育委員会 1998「大町遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第33集
- 2 宮崎市教育委員会 1990「宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書Ⅱ〔リゾート地区を中心として〕」
- 3 九州前方後円墳研究会 2001「九前研通信」第7号
- 4 宮崎県 1993「宮崎県史」資料編・考古2
- 5 宮崎市教育委員会 1989「柿木原地下式横穴墓56-1号 江田原第1遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』



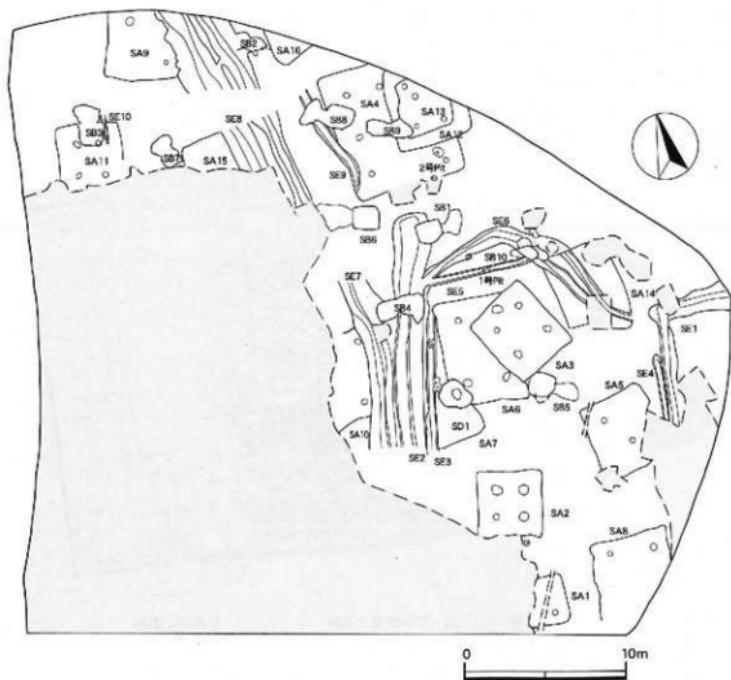
- |          |          |              |           |
|----------|----------|--------------|-----------|
| 1 北中遺跡   | 6 横1号墳   | 11 江田原第2遺跡   | 16 平原第2遺跡 |
| 2 大町遺跡   | 7 横遺跡    | 12 江田原第1遺跡   | 17 平原第1遺跡 |
| 3 宮脇遺跡   | 8 麗2号墳   | 13 江田原第3遺跡   | 18 大島9号墳  |
| 4 浄土江遺跡  | 9 横古墳    | 14 横北小学校校庭遺跡 | 19 萩崎第2遺跡 |
| 5 德小学校遺跡 | 10 浮之城遺跡 | 15 横3号墳      | 20 猿野遺跡   |

第1図 周辺地図① (1/25,000)



イ：平成9年度調査区  
口：平成12年度

第2図 周辺地図②



第3図 遺構配置図

## 第Ⅱ章 調査の結果

### 第1節 調査の概要

平成10年度の調査では、竪穴住居1軒、竪穴状造構2基、土坑2基、土坑墓3基、溝状造構12条が検出された。1号竪穴住居、2号竪穴状造構から出土した遺物は、それぞれ古墳時代前期末～中期初頭、古墳時代後期に比定される。2号竪穴状造構からは鉄滓が数多く出土し、鉄の生産活動が行われていた可能性を指摘している。

土坑墓はすべて近世のもので、1号、2号土坑墓からは人骨が出土した。溝状造構のうち5条は近世に、2条が中世に比定されている。

今回の調査では、竪穴住居16軒、溝状造構10条、土坑1基、地下式横穴墓10基、Pit数基を検出した。調査区の南西部は大きく擾乱されており、造構は検出できなかった。

### 第2節 竪穴住居

#### 1号住居

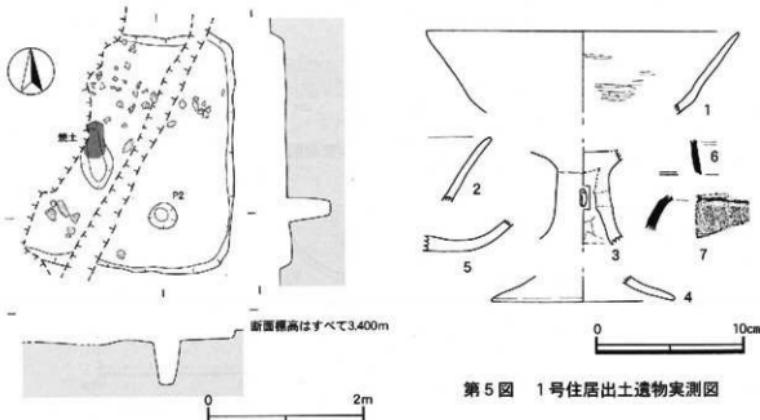
調査区南側で検出され、南北方向3.0m以上、東西方向2.6m以上、深さ10cmを測る方形か長方形プランを呈すと思われる。住居西側と中央部分や東側を擾乱される。主柱穴はP2を検出し、深さ55cmを測る。中央に炉跡と思われる85cm×40cm、深さ8cmの掘込みで焼土を検出した。遺物は少量であったが、北西部でまとまって出土した。

1～5は土師器である。1～4は高坏である。5は坏である。6、7は須恵器である。6は坏蓋で、天井部との境と口縁部端部に一段の段を有する。7は扇の口辺部で波状文を施してある。

6、7が埋土上部から、それ以外は床面か、それよりやや浮いた状態で出土した。

#### 2号住居

1号住居の北側で検出され、南北方向推定4.0m、東西方向4.1m、深さ14cmを測る方形プランを呈す。南西側を擾乱される。主柱穴はP1～P4の4本柱で、それぞれ深さ60cm、36cm、26cm、31cmを測る。住居中央付近には貼床が施してあった。炉跡等は検出されなかつた。遺物は少量であったが、



第4図 1号住居実測図

第5図 1号住居出土遺物実測図

南西部でまとめて出土した。

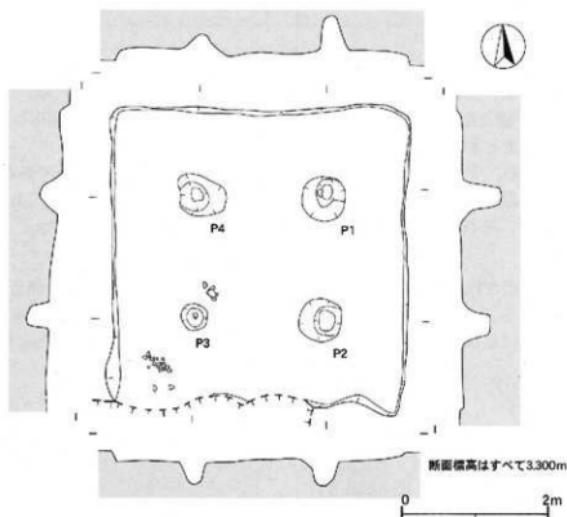
8～11は土師器である。8、9は甕で、同一個体である可能性がある。10、11は壺で、11は内外面共に磨きが施してある。12、13は須恵器である。12は壺である。13は壺蓋で、天井部との境、口縁部端部内面に段を有する。

10、11が床面より、12が埋土中位、その他が埋土上位で出土した。

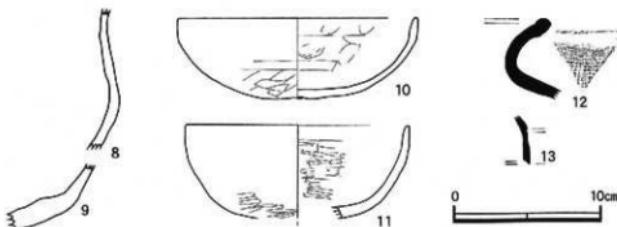
### 3号住居

調査区中央部で検出され、西側を6号住居に切られる。南北方向5.1m、東西方向4.4m、深さ24cmを測る長方形プランを呈す。主柱穴はP1～P4の4本で、それぞれ深さ24cm、42cm、27cm、34cmを測る。炉跡は検出されなかったが、床面で大量の炭化物と、まばらではあるが、焼土も確認された。

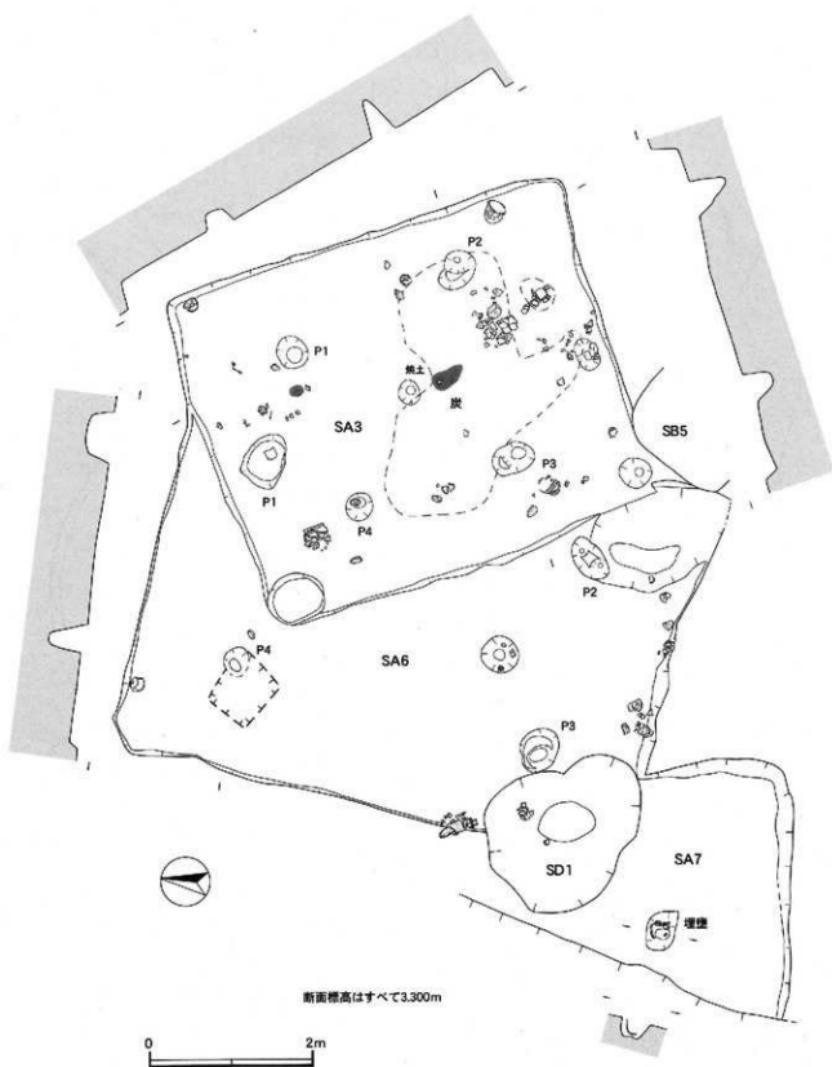
14～18は土師器の甕である。14～17はいずれも丸底で球形の胴を持ち、口縁部と頸部との境が不明瞭で短く外傾する。14、15が口径を最大径に、16、17が胴部を最大径に持つ。14は住居の北東部分



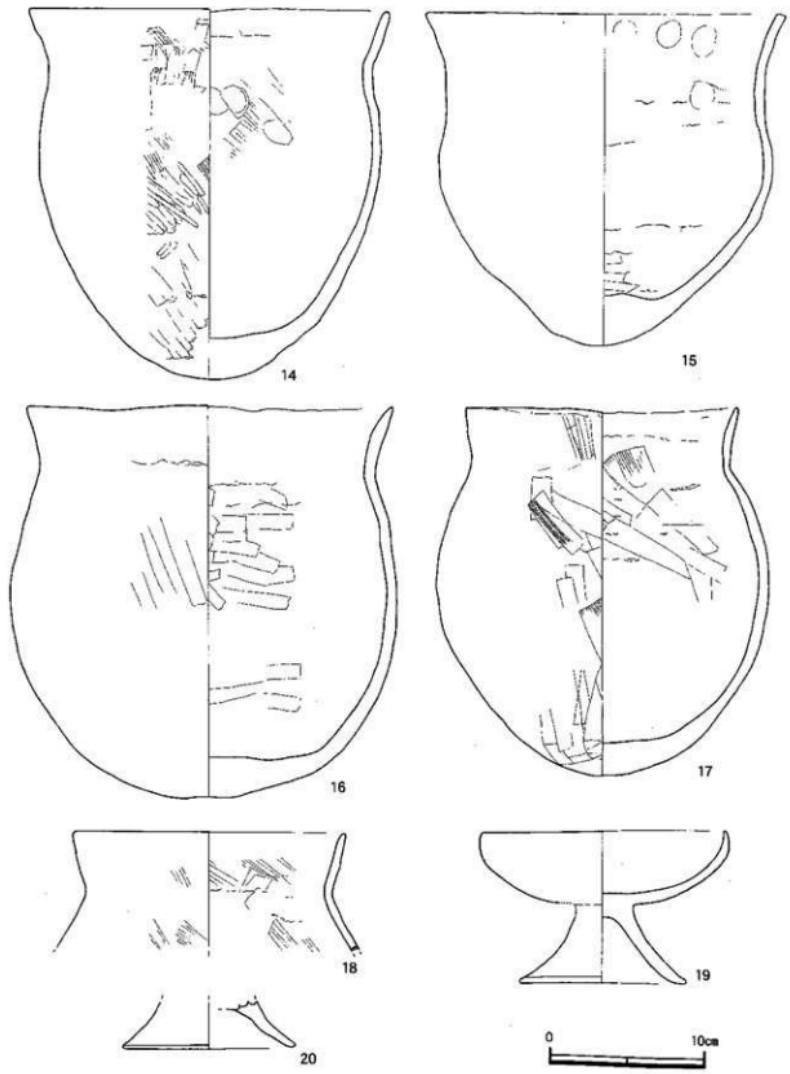
第6図 2号住居実測図



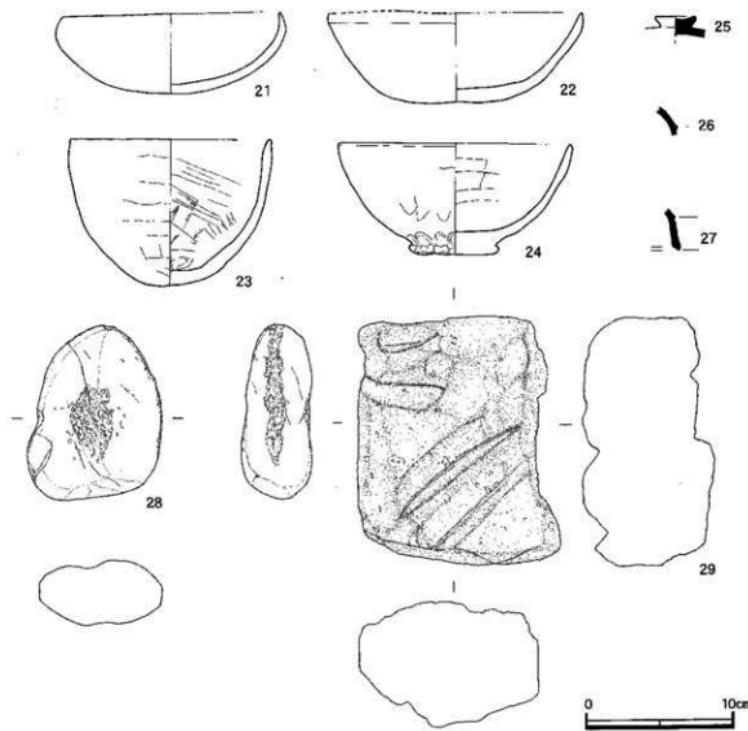
第7図 2号住居出土遺物実測図



第8図 3号・6号・7号住居実測図



第9図 3号住居出土遺物実測図(1)



第10図 3号住居出土遺物実測図(2)

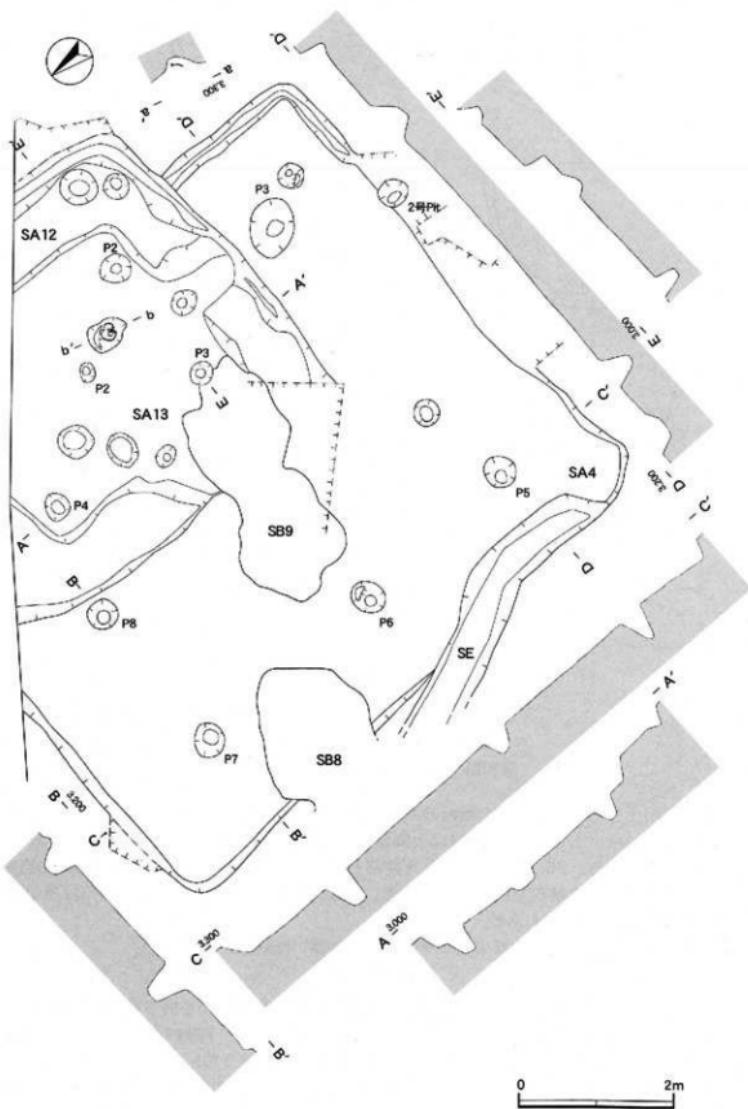
で傾いた状態で出土した。19、20は土師器の高坏である。19は脚部が「八」の字に開き、端部を摘んである。北西壁から出土した。21～24は土師器の坏である。25～27は須恵器の坏蓋である。25は、ボタン摘みを有する。26、27はいずれも大井部と口縁部の境に段を有し、27は口縁部端部にも段を有する。28は砂岩製の敲石でP2より出土した。29は軽石製の用途不明石器である。出土位置から6号住居に伴う遺物の可能性もある。

25～27が埋土上位より、その他は床面かそれよりやや浮いた状態で出土した。

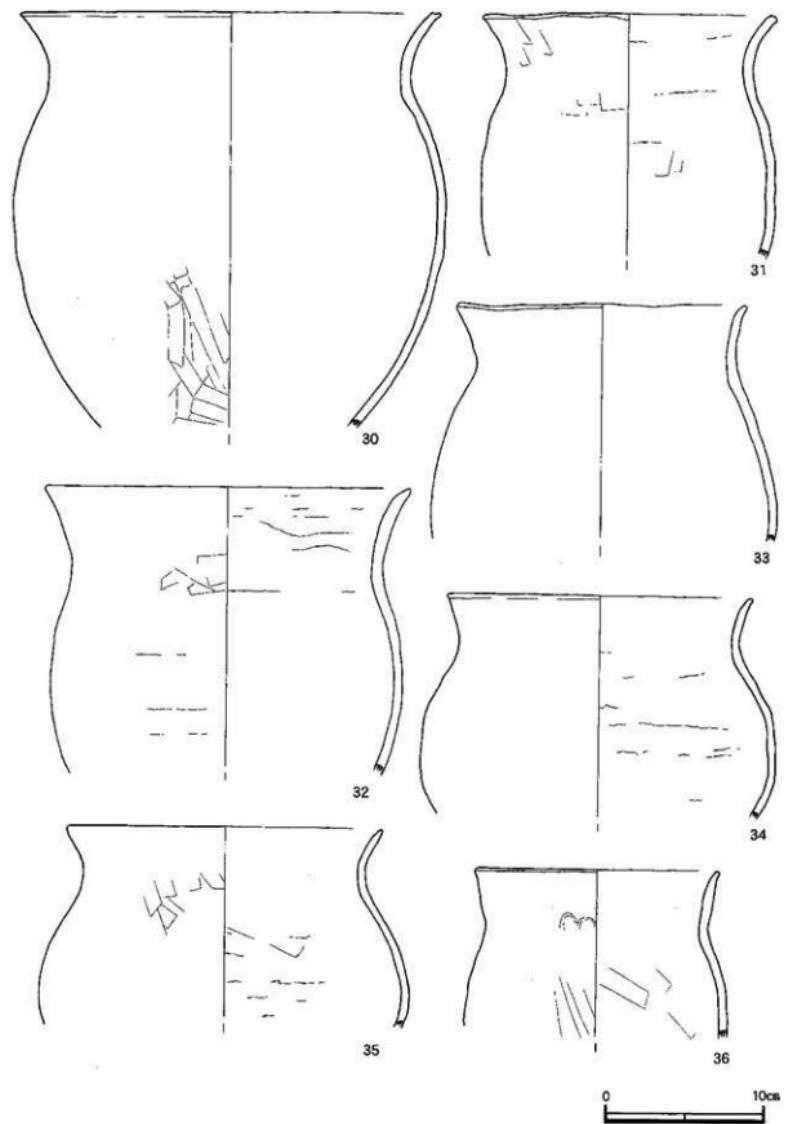
#### 4号住居

3号住居の北西側で検出され、南北方向7.9m、東西方向7m、深さ25cmを測る長方形プランを呈す。東側を12号住居、9号地下式横穴墓に切られ、13号住居と切りあい、西側を8号地下式横穴墓、9号溝に切られる。北東部分が一部調査区外に出る。主柱穴8本でそのうち、P2、P3、P5～P8の6本を検出し、それぞれ深さ10cm、26cm、35cm、26cm、45cm、33cmを測る。炉跡等は検出されなかった。南東側隅付近で幅25cm、深さ10cmの墻帶溝を検出した。遺物は北西部でまとまって出土した。

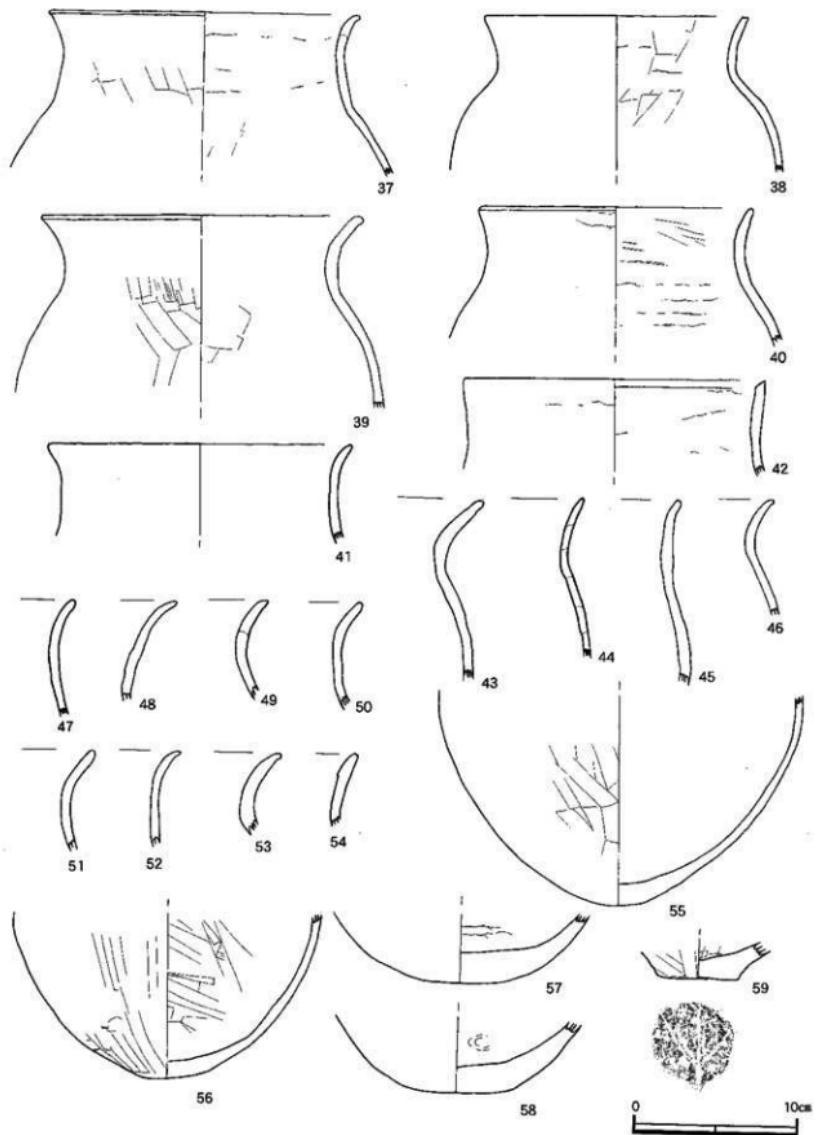
30～76は土師器である。30～59は甕である。30は丸く張った胸を持ち、口縁部は頸部との境の稜が不明瞭で、外反気味に立ち上がり、端部には沈線が観察される。33～35、37～40は、胴部中位



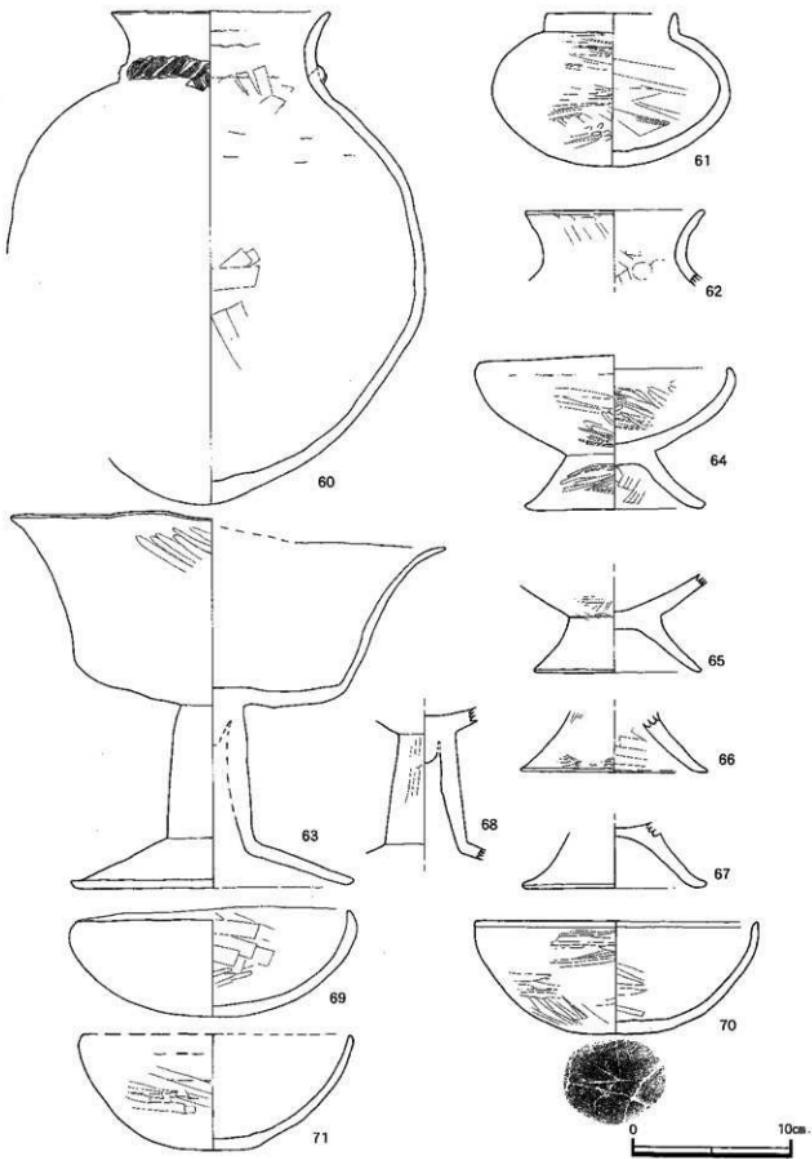
第11図 4号・12号・13号住居実測図



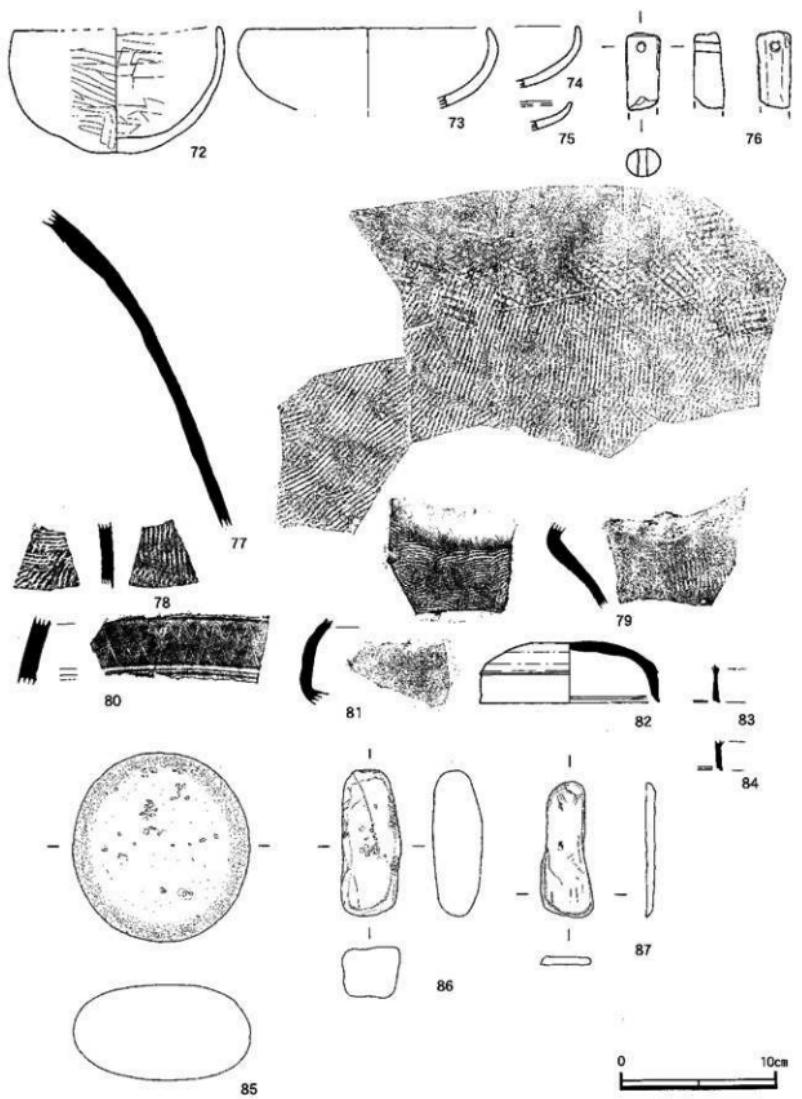
第12図 4号住居出土遺物実測図(1)



第13図 4号住居出土遺物実測図(2)

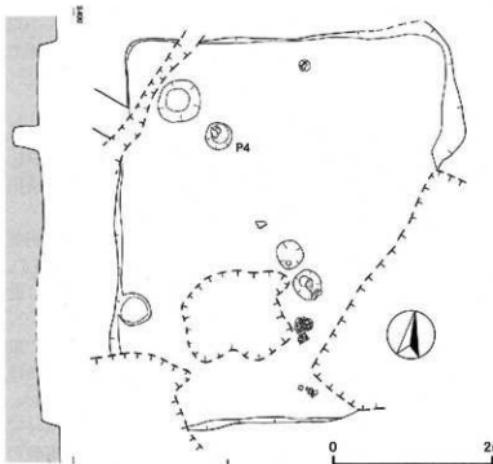


第14図 4号住居出土遺物実測図(3)



第15図 4号住居出土遺物実測図(4)

が著しく張り、頸部から垂直気味に立ち上がった後外傾する。端部は丸く收めるものがほとんどであるが、38は面で收める。最大径は30~32が口径、33~35、37~40が胴部最大径となる。60~62は壺である。60は丸底で丸く張った胴を持ち、口縁部は短く頸部から緩やかに外反する。頸部には、突帯を巡らし、突帯のくぼみには調整に用いた道具の布痕が観察される。61は丸底で扁球の胴を持ち、口縁部は極短く頸部からほぼ垂直に立ち上がり、外面には磨きが施してある。63~68は高壺である。63は壺部はほぼ水平に開いたのち、大きく外反しながら立ち上がる。ややエンタシス状を呈する脚柱部から、極僅かに内湾しながら開く。64~67は脚部で短く「ハ」の字に開くが、67は端部を摘んである。69~75は壺である。76は土鍤で最大残存長は5cmを測り、幅2.2cm、厚さ2cmを測る。77~84は須恵器である。82は、壺蓋で、天井部との境と、口縁部端部内面に一段の段を有し、口縁部端部は外に開く。85は凝灰岩製の擦石である。86は砂岩製の敲石である。87は砂岩製の砥石である。

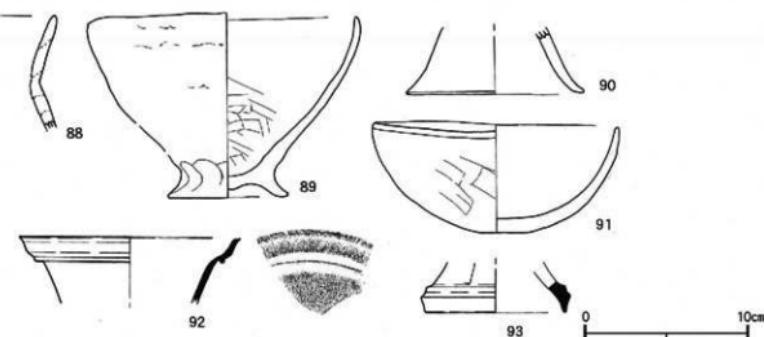


第16図 5号住居実測図

### 5号住居

調査区東側で検出され、南北方向6.5m、東西方向4.8m以上、深さ15cmを測る方形プランを呈す。東側、南西隅、住居中央南側を擾乱されている。主柱穴は4本柱と思われ、P4を検出し、深さ53cmを測る。炉跡は検出されなかったが、焼土を若干検出した。住居中央には貼床が施してあった。遺物は北側でまとまって出土した。

88~91は土師器である。88は甕である。89は鉢で高台をもつ。90は高壺である。91は壺で、住居北側で伏せた状態で出土した。92、93は須恵器である。92は脇で、波状文を施している。93は高壺である。88、89、93が床面かそれよりやや浮いた状態、その他は埋土中より出土した。



第17図 5号住居出土遺物実測図

## 6号住居

調査区のほぼ中央で検出され、南北方向6.5m、東西方向4.8m、深さ15cmを測る長方形プランを呈す。北東側で3号住居を切り、南西部を7号住居、1号土坑に切られる。主柱穴はP1～P4の4本で、それぞれ深さ30cm、39cm、39cm、50cmを測る。炉跡は検出されなかったが貼床が施してあった。

94～98は上師器である。94～96は高坏である。94、95は坏部で、水平気味に立ち上がった後、一端垂直気味に角度を変え、上方で開く。97、98は坏である。99～101は須恵器である。99は壺である。100は坏蓋である。101は坏である。99が埋土中位、100、101が埋土上位より出土し、その他は床面か、それよりやや浮いた状態で出土した。

## 7号住居

調査区のほぼ中央で検出され、深さ12cmを測る。規模は不明である。北側で6号住居を切り、1号土坑に切られ、西側を3号、2号溝に切られる。主柱穴は確認できなかったが、埋甕炉を検出した。

102、103は上師器である。102は壺で埋甕炉として使用されたもので、平底で長胴を呈する。103は坏である。104は須恵器の坏で、高台を有する。遺物はすべて床面か、それよりやや浮いた状態で出土した。

## 8号住居

調査区東側で検出され、南北方向4.5m以上、東西方向4.9m以上、深さ24cmを測る方形プランを呈す。南東隅は調査区外に出る。南側は壁が検出できなかった。主柱穴は4本と思われ、そのうちP1、P4を検出し、それぞれ深さ63cm、35cmを測る。住居西側に1.55m×1.3m、深さ20cmの土坑が検出された。遺物は、北側でまとめて出土した。

105～148は土師器である。105～118は壺である。105は最大径を胴部上半に持ち、球形の胴部を持つ。頸部には突唇を巡らし、突唇の直下には連続刺突が見られる。内外面共に刷毛目調整を施す。106は丸底で胴部に若干長胴化が見られる。頸部との境には不明瞭ながら稜が残る。119～128は壺である。119は丸底で丸く張った胴をもち、口縁部は短く直立気味に立ち上がり端部や下から崩く。120は平底で扁球な胴を持ち、口縁部は若干内湾しながら立ち上がる。124は丸く張った胴を持つ無頸壺である。129～131は高坏である。132～146は坏である。132は木の葉底である。132、133はヘラ記号を有する。147はミニチュアである。148は土錐で最大残存長は3.6cmを測り、幅2.03cm、厚さ1.6cmを測る。149～152は須恵器である。149、150は壺である。151は高坏である。152は坏で端部には沈線が巡る。153は軽石製の砥石(?)である。154は砂岩製の凹石である。155は軽石製の用途不明石器である。

## 9号住居

調査区北側で検出され、南北方向4.45m、東西方向3.25m以上、深さ20cmを測り、方形か長方形プランを呈すと思われる。東側を8号溝に切られる。主柱穴は4本と思われ、そのうちP2、P4を検出し、それぞれ深さ34cm、41cmを測る。炉跡等は検出されなかった。床面には貼床が施してあった。遺物は少量出土した。

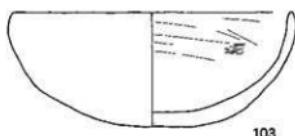
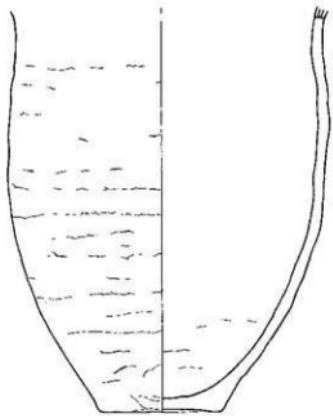
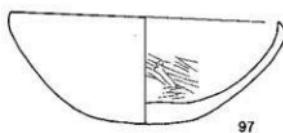
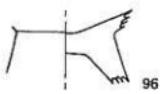
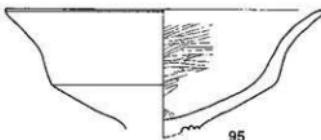
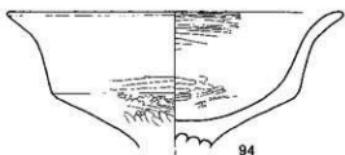
156～175は土師器である。156～166は壺である。167～168は壺である。169～173は高坏である。174、175は坏である。176、177は須恵器である。176は壺である。177は坏で、ヘラ削りは4分の1程度、内面には製作中にできた稜が4本観察された。178は砂岩製の敲石である。179は不明軽石製品である。160、162、167、169、175が埋土上位より、その他が床面か、それよりやや浮いた状態で出土した。

## 10号住居

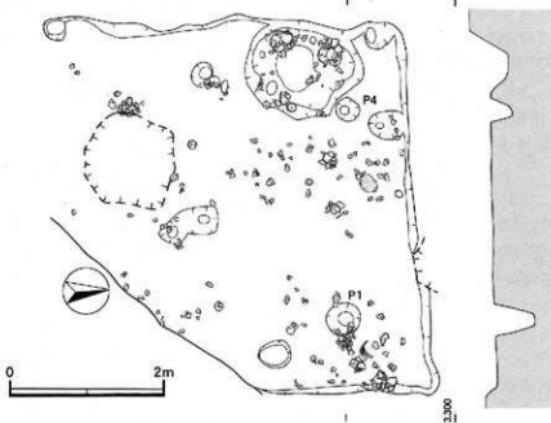
調査区中央で検出され、深さ35cmを測る。東側を7号溝に、西側を攪乱に切られる。貼床が施してあった。南壁で幅40cm、深さ10cmの壁帶溝を検出した。

住居北西側、南西側とともに床面が10cm程低くなることから、なんらかの別造構との切りあいの可能性もある。

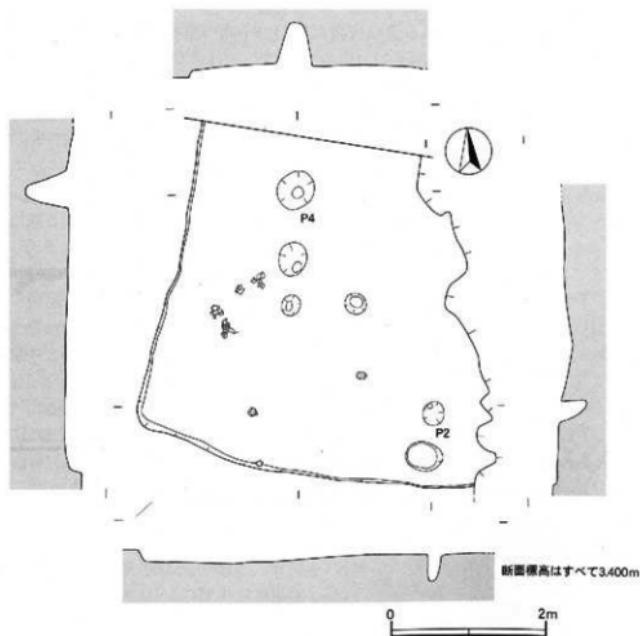
180～210は土師器である。180～191は壺である。192～195は壺である。196は鉢である。197



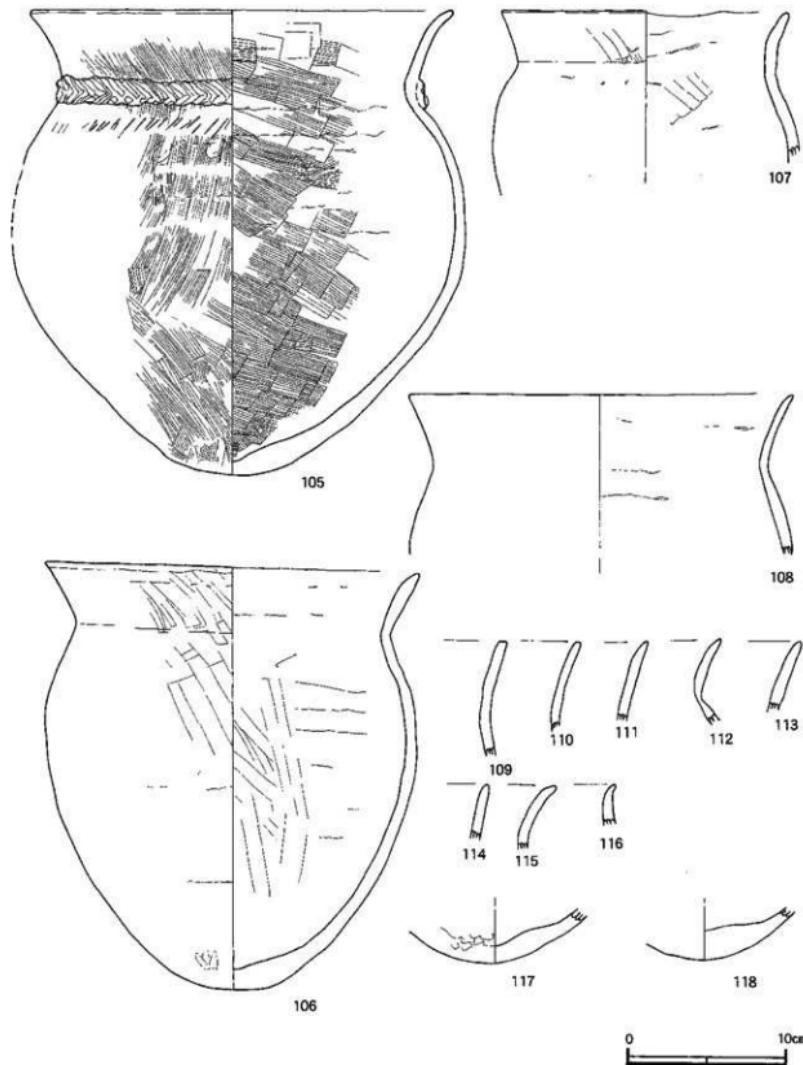
第18図 6号・7号住居出土遺物実測図



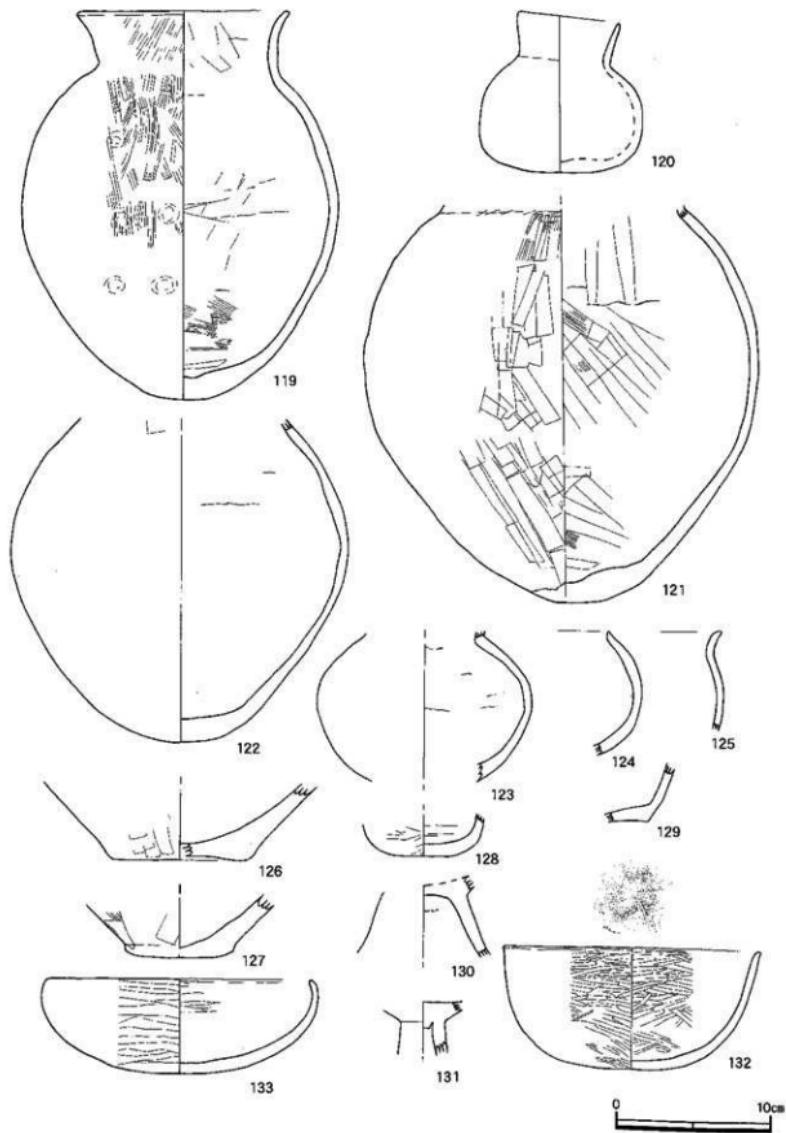
第19図 8号住居実測図



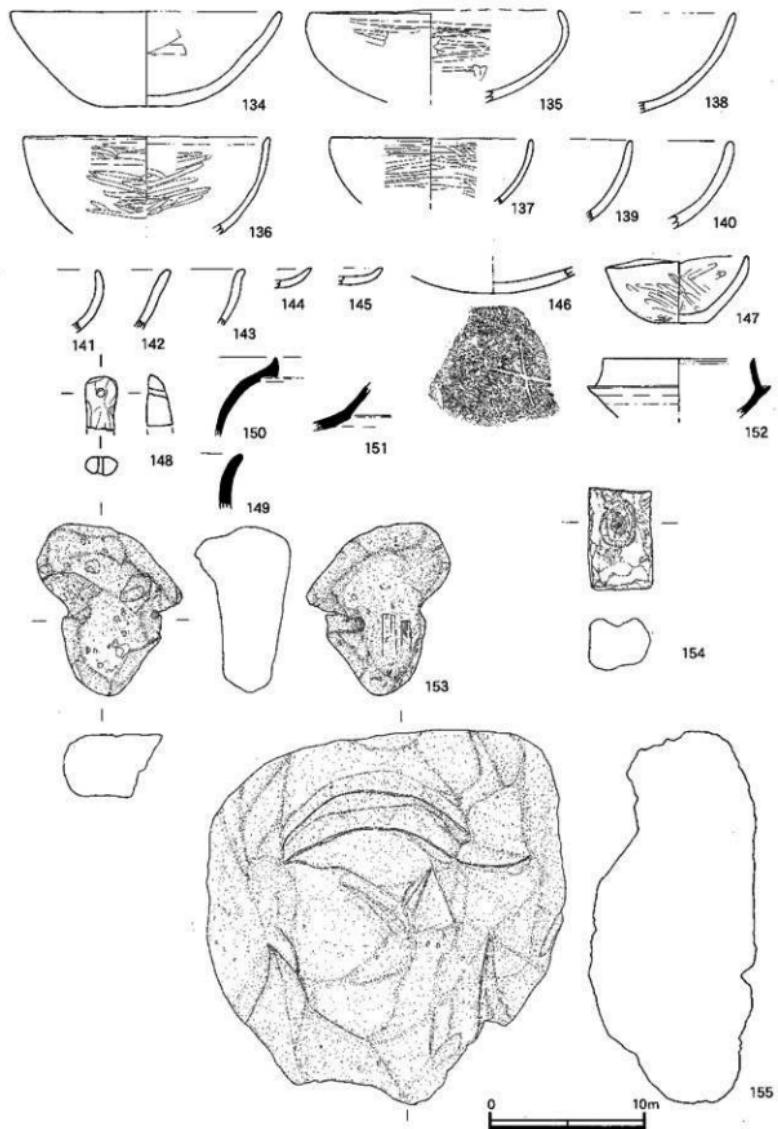
第20図 9号住居実測図



第21図 8号住居出土遺物実測図(1)



第22図 8号住居出土遺物実測図(2)



第23図 8号住居出土遺物実測図(3)

～203は高壺である。204～210は壺である。211～213は須恵器である。211は高壺で、三角の透かし孔を有する。212、213は壺蓋で、天井と口縁部の境に一段の段を有する。214は砂岩製の凹石である。この他砂岩製の台石が出土している。

### 11号住居

調査区西側で検出され、南北方向4.1m以上、東西方向4m、深さ6cmを測り、方形プランを呈すと思われる。北側を10号溝、3号地下式横穴墓に切られ、南側を擾乱される。主柱穴はP1～P4の4本でそれぞれ深さ43cm、29cm、27cm、44cmを測る。住居中央付近で埋甕炉を検出した。

215は土師器の甕で、埋甕炉として使用されたものである。遺物は極めて少量であった。

### 12号住居

4号住居の東側で検出され、南北方向5.1m以上、東西方向4.7m以上、深さ53cmを測る方形プランを呈す。4号、13号住居を切る。北東側の一部が調査区外に出る。主柱穴は4本で、そのうちP2～P4を検出し、それぞれ深さ40cm、56cm、58cmを測る。中央付近より埋甕炉を検出した。床面には貼床が施してあった。東壁から南壁にかけて幅40cm、深さ13cmの壁帶溝を検出した。遺物は少量出土した。

216～218は土師器である。216、217は甕である。217は埋甕炉として使用されたものである。218は壺である。219は須恵器の壺蓋で、端部に一段の段を有する。217以外はすべて埋土中より出土した。

### 13号住居

4号住居の東側で検出され、南北方向3.5m以上、東西方向3m以上、深さ30cmを測る方形プランを呈す。北東側の一部が調査区外にでる。上部を12号住居に切られ、4号住居と切りあう。遺物は土師器小片が少量出土したのみであった。

220～222は土師器である。220は甕である。221は高壺である。222は壺である。遺物は少量ですべて埋土中より出土した。

### 14号住居

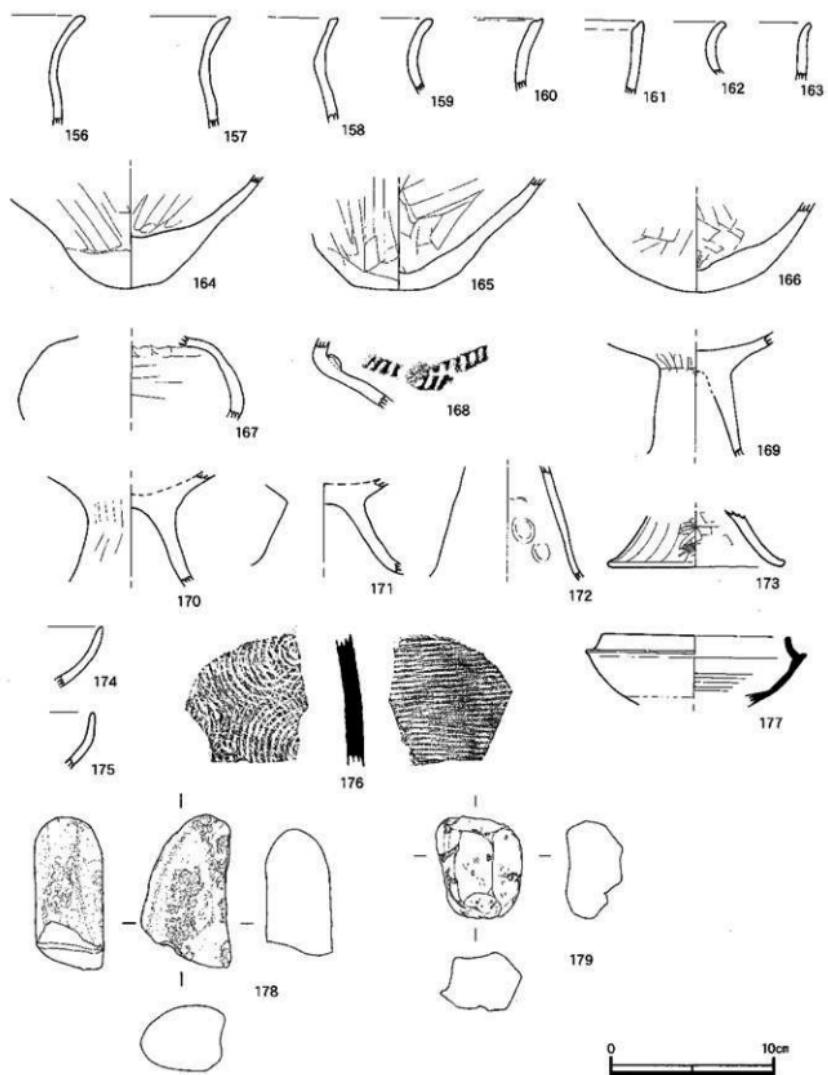
調査区東側で検出され、南北方向推定4.7m、東西方向推定4.1m、深さ30cmを測る方形プランを呈す。6号溝に切られ、南部を擾乱される。主柱穴はP2、P3の2本を検出し、それぞれ深さ24cmを測る。炉跡は検出されなかつたが、貼床を施してあった。東西と北壁では幅27cm、深さ5cmの壁帶溝が確認されたが、北壁は明確ではない。遺物は北側でわりとまとまって出土した。

223～234は土師器である。223～227は甕である。228、229は壺である。230、231は高壺である。232～234は壺である。235、236は須恵器である。235は壺である。236は壺蓋である。237は不明軽石製品である。238は砂岩製の台石である。

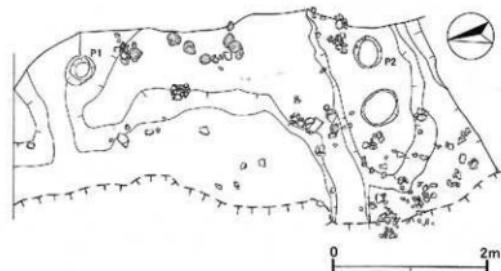
### 15号住居

9号住居の南側で検出され、深さ13cmを測り、方形か長方形プランを呈すと思われる。東側を8号溝に切られ、南部を擾乱される。主柱穴はP4を検出し、深さ38cmを測る。北壁から西壁にかけて、幅56cm、深さ5cmの壁帶溝を検出した。現状での東側上部で、焼土と大形の焼けた軽石を検出した。遺物は上部から底面までまんべんなく出土した。

239～269は土師器である。239～249は甕である。239、242、243、244はいずれも丸く張った胴を持ち、胴部最大径が最大径となる。250～253は壺である。250は扁球状の胴で、胴部中位が張り、口縁部は短く直立する。251は扁球状の胴部で肩が張る。250、251は外面にミガキが施してある。252は頸部に突審が巡らしてある。253は平底で木葉底を呈する。254～260は高壺である。259は透かし孔を持つ。261～268は壺である。261は内面に卜文字のヘラ記号を有する。269はミニチュアである。270～276は須恵器である。270、271は甕である。272～274は高壺である。272は壺部で下半部に波状文が施してある。273、274は透かし孔を有し、273はカキメが施してある。275、276は壺である。いずれも立ち上がりがくの字に内傾し、275は半球状の底部を呈す。277は頁岩製の敲石である。278は不明軽石製品である。この他、顎の牛角取っ手が出土した。



第24図 9号住居出土遺物実測図



第25図 10号住居実測図

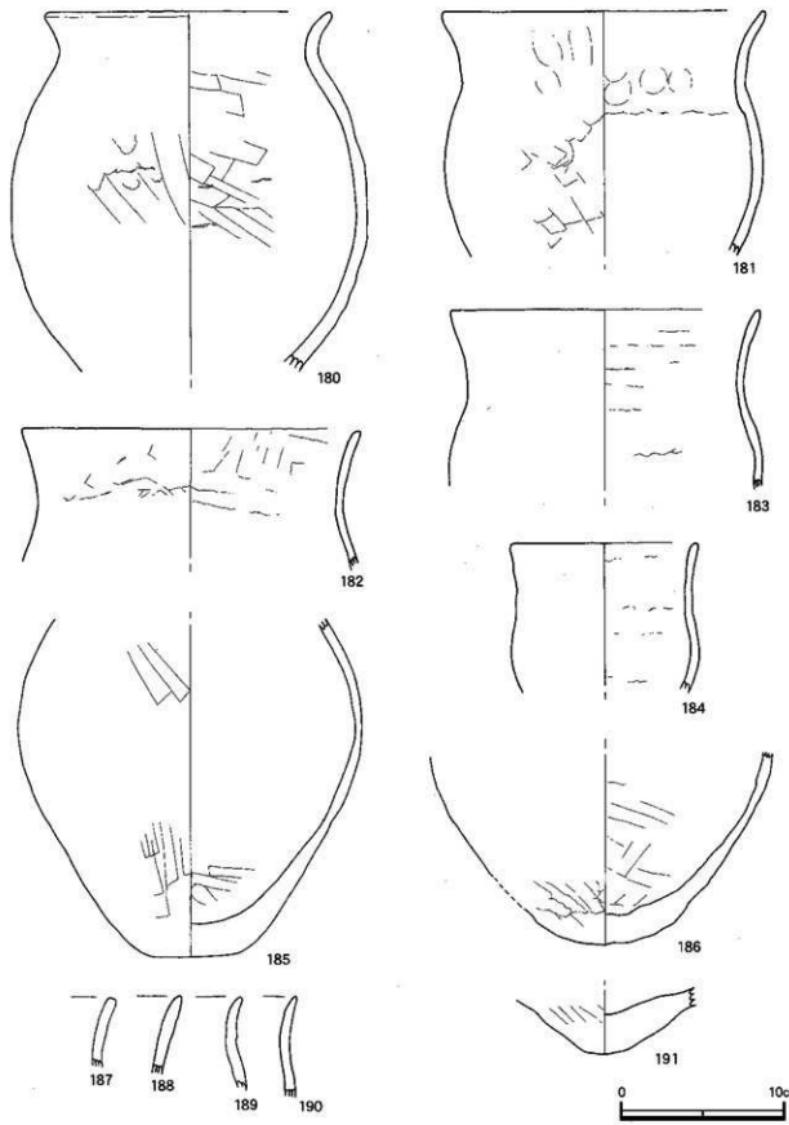


第26図 11号住居実測図

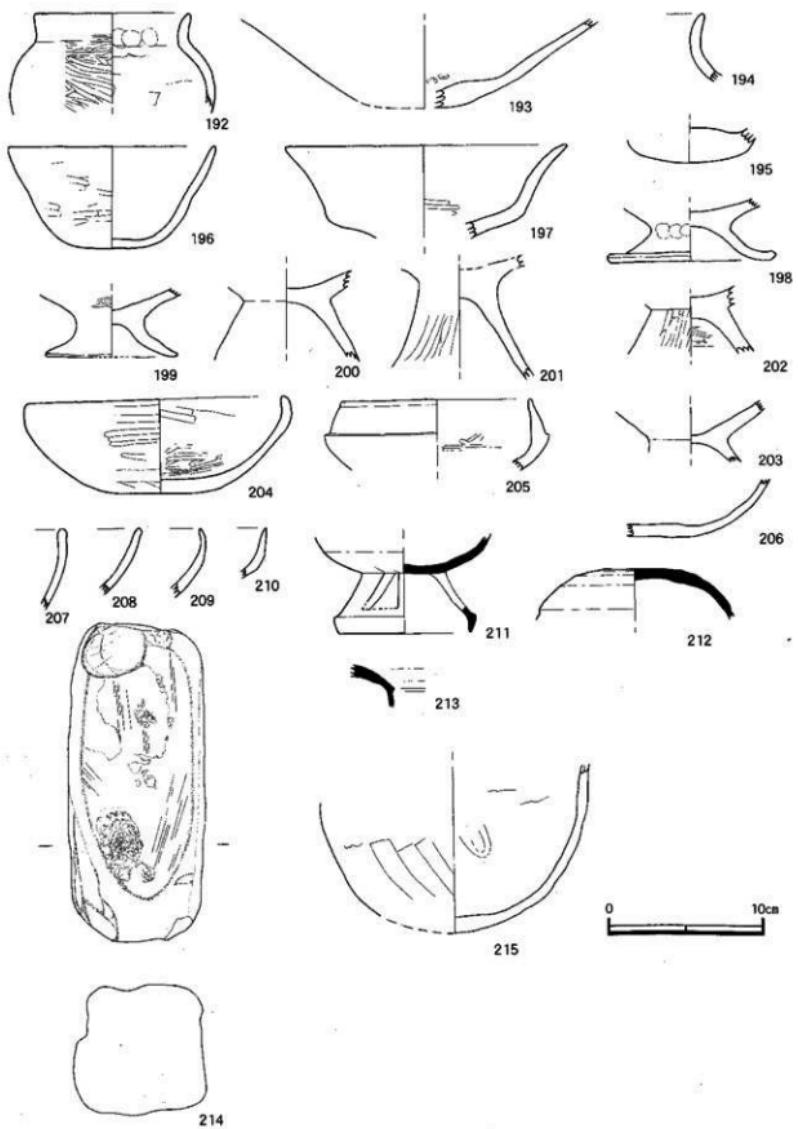
### 16号住居

調査区北側、4号住居の西側で検出され、深さ30cmを測る。西側を2号地下式横穴墓と切りあう。住居のほとんどは調査区外に出る。遺物はまとまって大量に出土した。

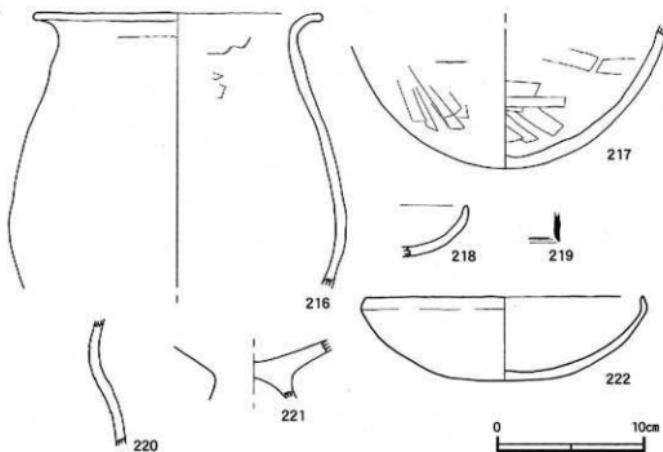
279~324は土師器である。279~294は甌である。279~283は丸く張った洞を持ち、頸部は不明瞭で緩やかに外傾する口縁部もつ。284、286は洞の張りが弱く、頸部も不明瞭で、284は口縁部がごく僅かに外傾する。295~300は甌である。295は平底で木葉底を呈し、丸く張った洞から極短い口縁部が直立する。296は肩が張る。297は丸く張った洞をもち、頸部には突帯が巡る。301は鉢である。302~316は壺である。303は外面底部付近に十文字のヘラ記号を有する。308は内面底部付近にヘラ記号を有する。317~323は高杯である。324は土錘で、埋土上部から出土した。



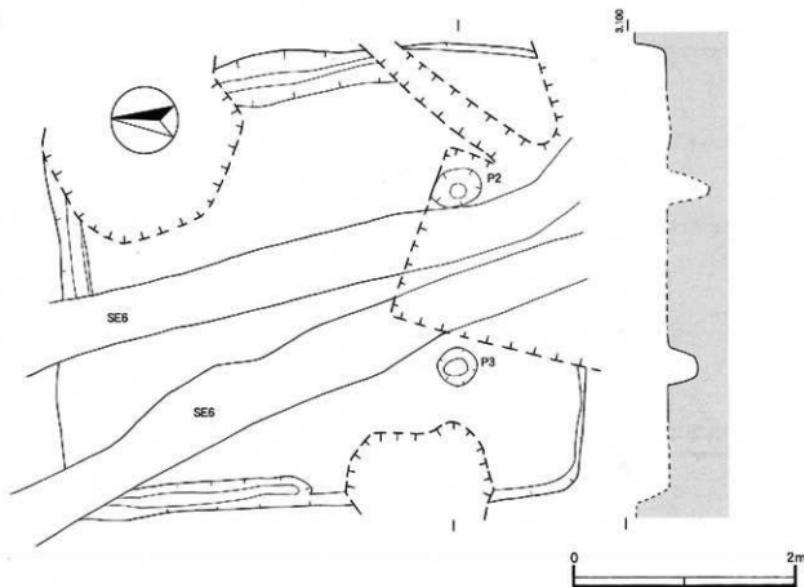
第27図 10号住居出土遺物実測図(1)



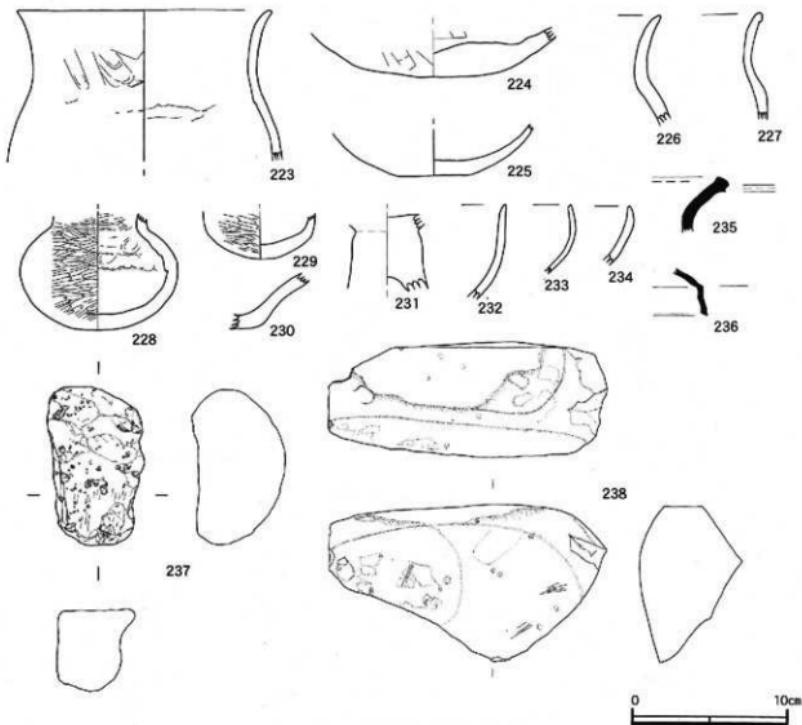
第28図 10号(2)・11号住居出土遺物実測図



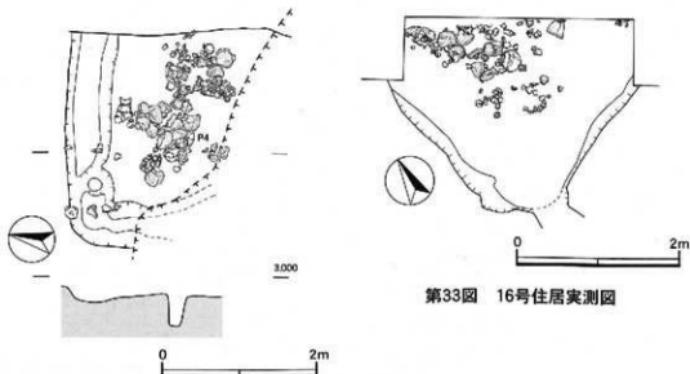
第29図 12号・13号住居出土遺物実測図



第30図 14号住居実測図



第31図 14号住居出土遺物実測図



第32図 15号住居実測図

### 第3節 土坑

#### 1号土坑

調査区のほぼ中央で検出され、6号住居、7号住居を切る。長径2.1m、短径1.75m、深さ37cmを測り、断面形はすり鉢状を呈す。遺物は少量であったが、埋土上部より須恵器、土師器が出土した。

325は土師器の壺で、口縁部が短く外反し、端部を摘んである。326は土錘である。327は須恵器の壺である。

### 第4節 溝状遺構

#### 1号溝状遺構

調査区東側で検出され、東西方向から南北方向へほぼ直角に折れる。幅133cm、深さ36cmを測り、断面形は台形を呈す。

328～331は土師器である。328は壺である。329、330は壺である。331は壺である。332は須恵器の壺である。333は軽石製の砥石（？）である。334は刀子である。331が埋土上部、334が床面から出土し、その他は埋土中位より出土した。

#### 2号溝状遺構

調査区のほぼ中央で検出され、南北方向に走る。7号住居、1号地下式横穴墓、4号地下式横穴墓、7号溝状遺構を切る。幅196cm、深さ45cmを測り、断面形は台形を呈す。

335は土師器の壺で、木葉底を有する。336、337は須恵器である。338～342は磁器の碗である。343、344は皿で、343は陶器、344は磁器である。345は磁器の小杯である。346は陶器の水指である。347は軽石製の用途不明石器である。

#### 3号溝状遺構

調査区のほぼ中央、2号溝東側で検出され、2号溝に平行して走る。幅58cm、深さ11cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。遺物は出土しなかった。

#### 4号溝状遺構

調査区東側、1号溝の西側で検出された。幅30cm、深さ25cmを測り、断面形はU字型を呈す。北側の端は徐々に浅くなり立ち消える。遺物は出土しなかった。

#### 5号溝状遺構

調査区の北側で検出され、2号溝状遺構、6号溝状遺構と切りあう。幅45cm、深さ13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。遺物は出土しなかった。

#### 6号溝状遺構

調査区の北側、5号溝状遺構の北側で検出され、14号住居、10号地下式横穴墓、2号溝状遺構と切りあう。幅85cm、深さ20cmを測り、断面形は台形を呈す。

348は土師器の壺で手づくね成形である。349は磁器の碗である。350は敲石で石材は砂岩である。

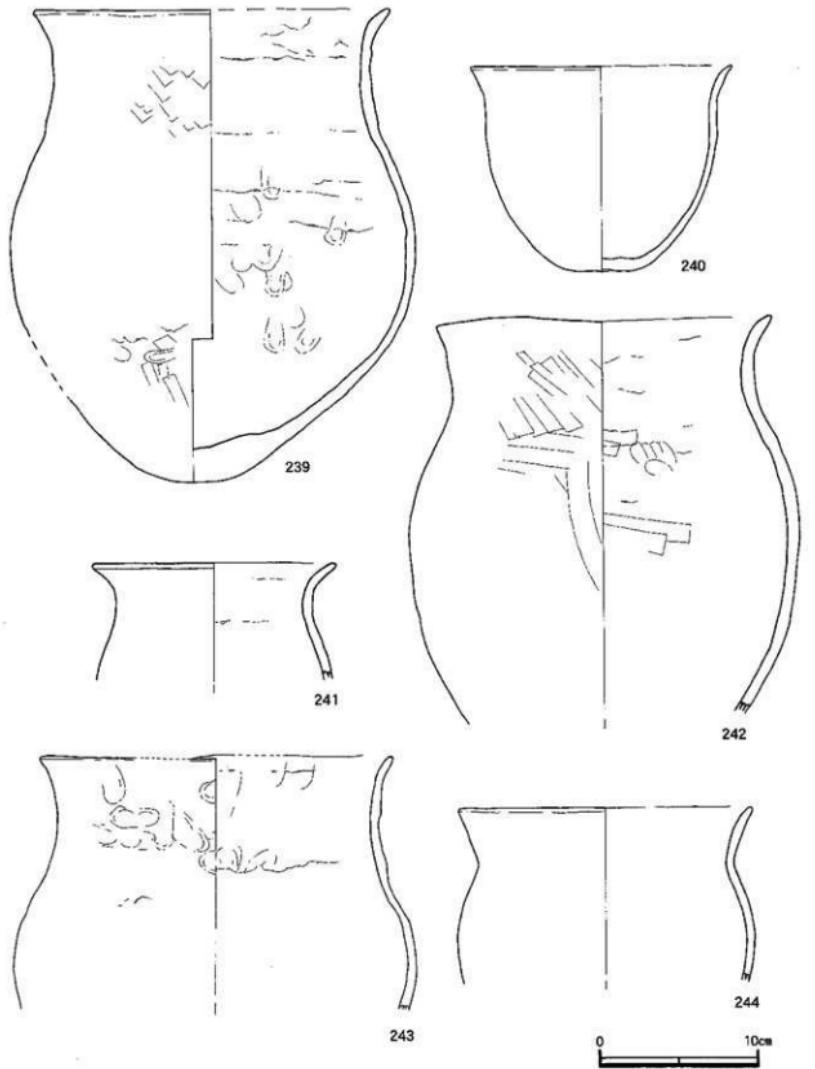
#### 7号溝状遺構

調査区の北側から中央にかけて検出され、10号住居、2号地下式横穴墓を切り、2号溝状遺構を切る。幅94cm、深さ84cmを測り、断面形は台形を呈す。

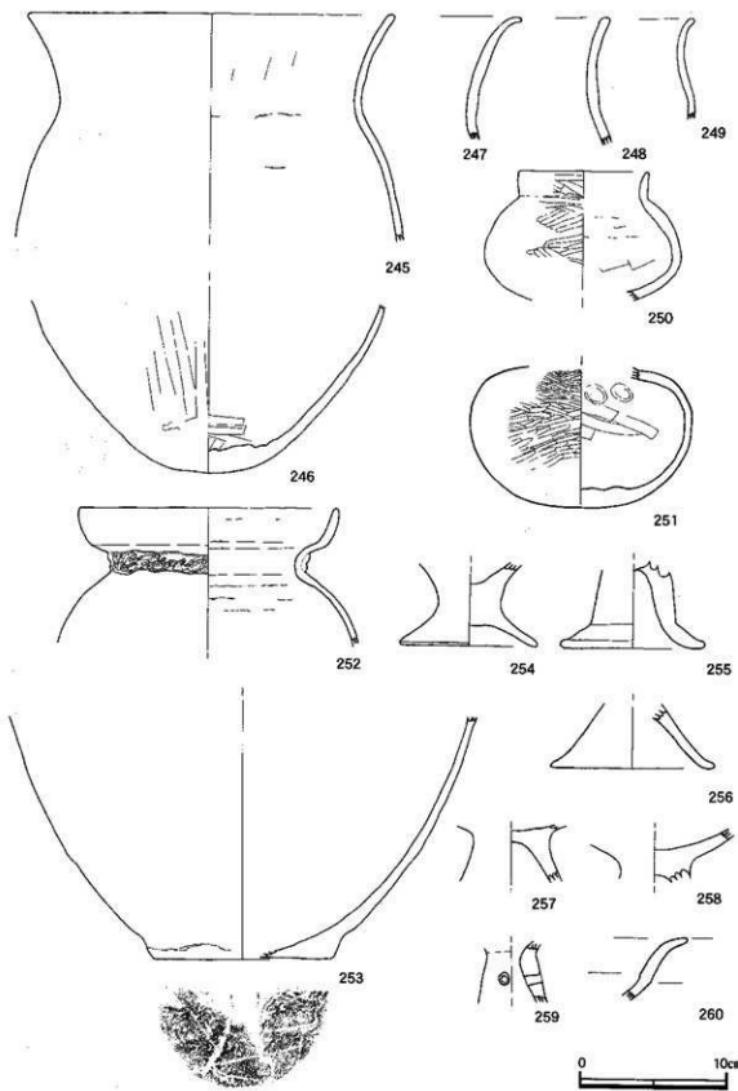
351は土師器の高壺である。352～354は磁器の皿である。355は陶器の瓶である。356は敲石で石材は砂岩である。

#### 8号溝状遺構

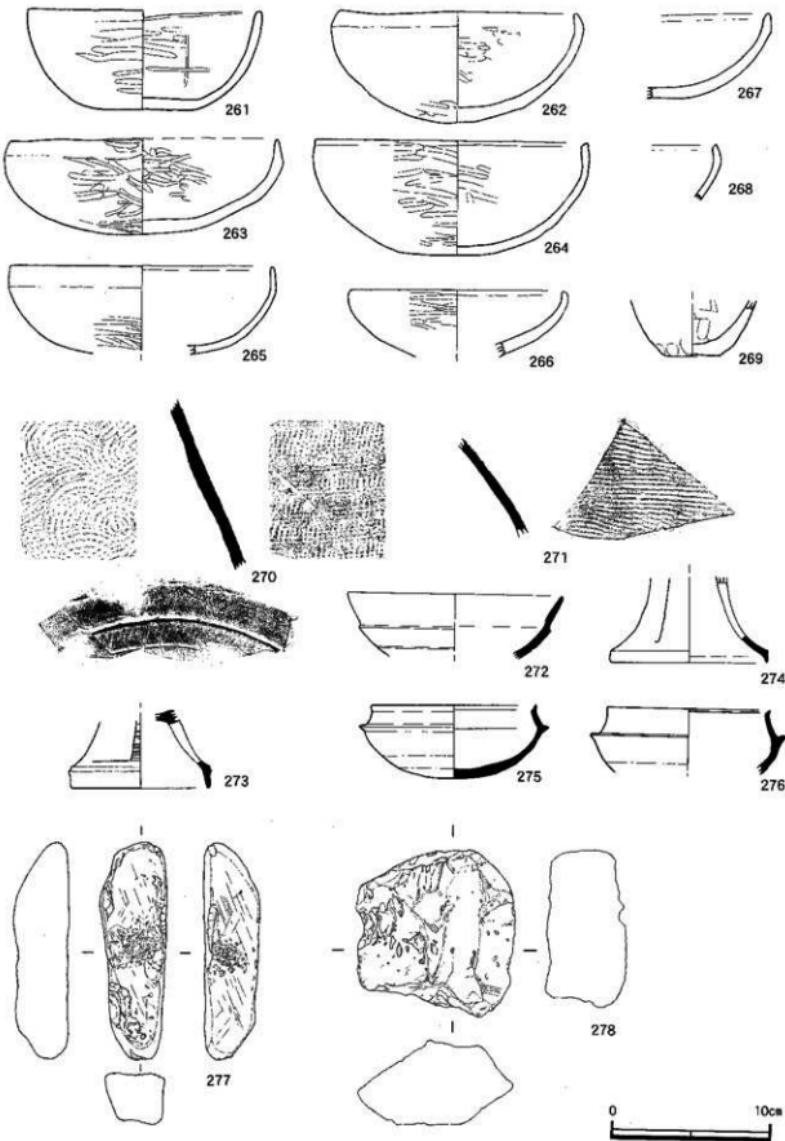
調査区の北側、7号溝状遺構の西側で検出され、9号住居、15号住居、7号溝状遺構を切り、7号溝状遺構と平行に走る。幅170cm、深さ80cmを測り、断面形は台形を呈す。遺物は出土しなかった。



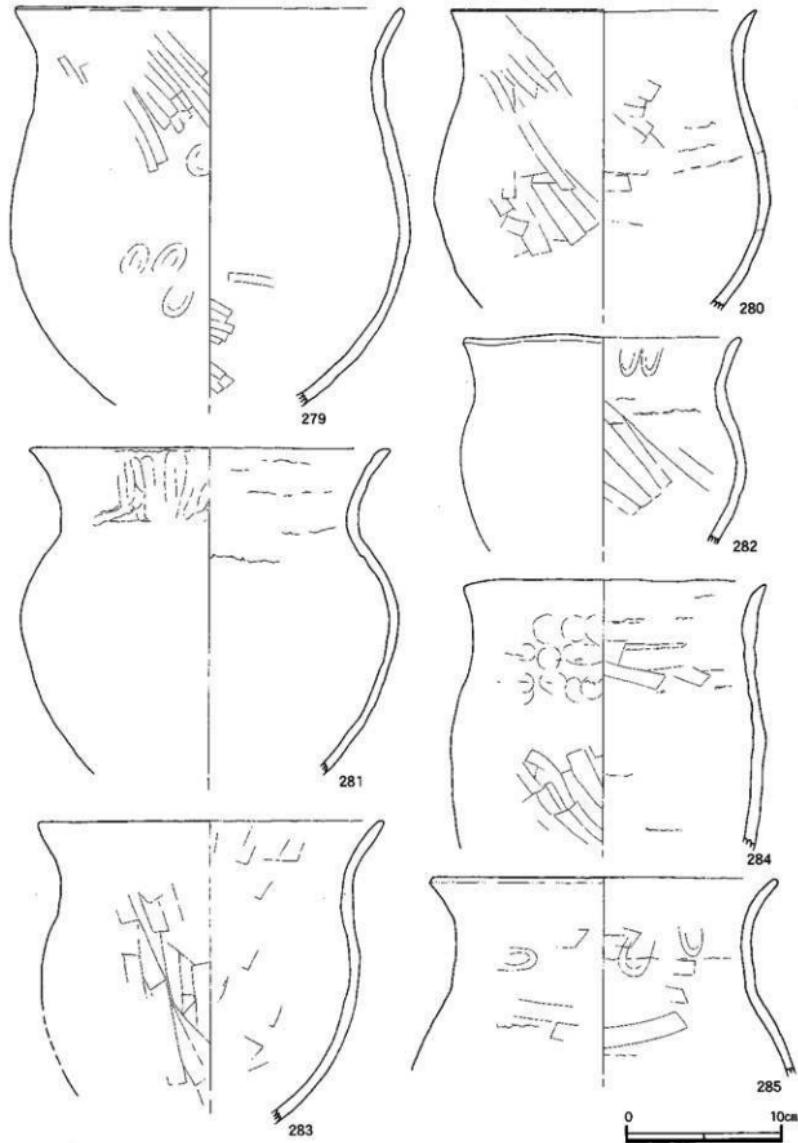
第34図 15号住居出土遺物実測図(1)



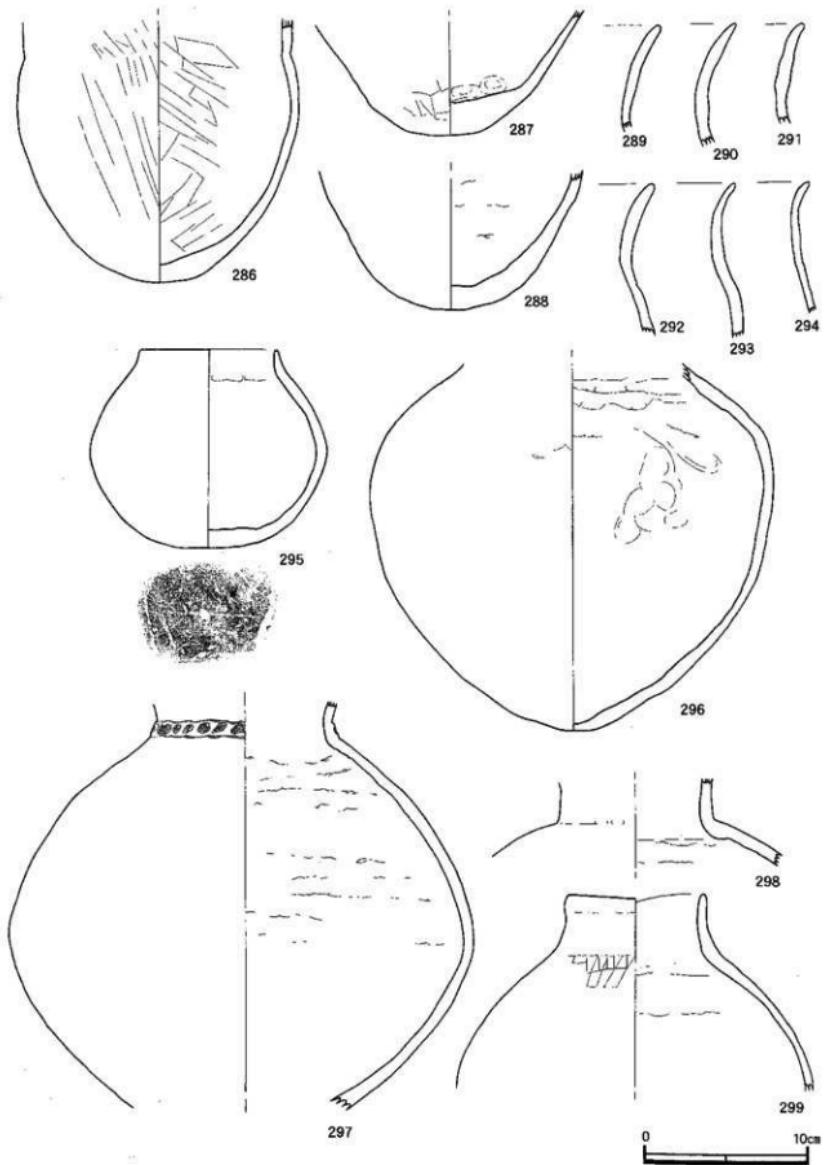
第35図 15号住居出土遺物実測図(2)



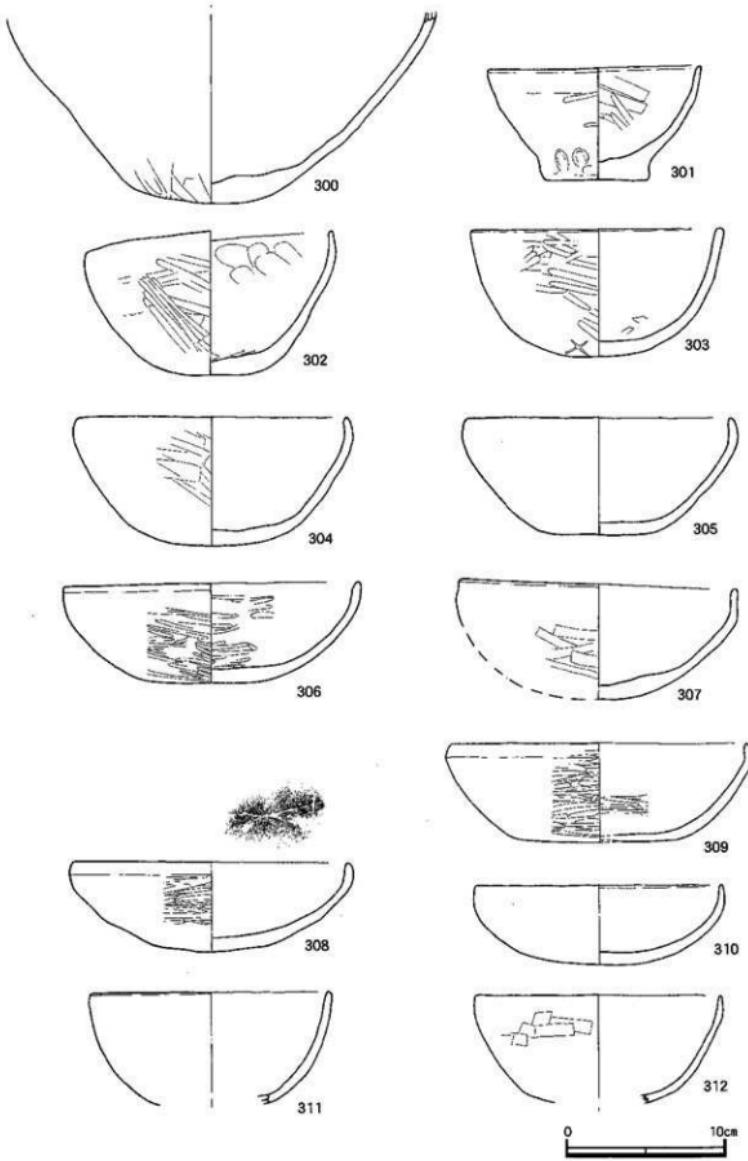
第36図 15号住居出土遺物実測図(3)



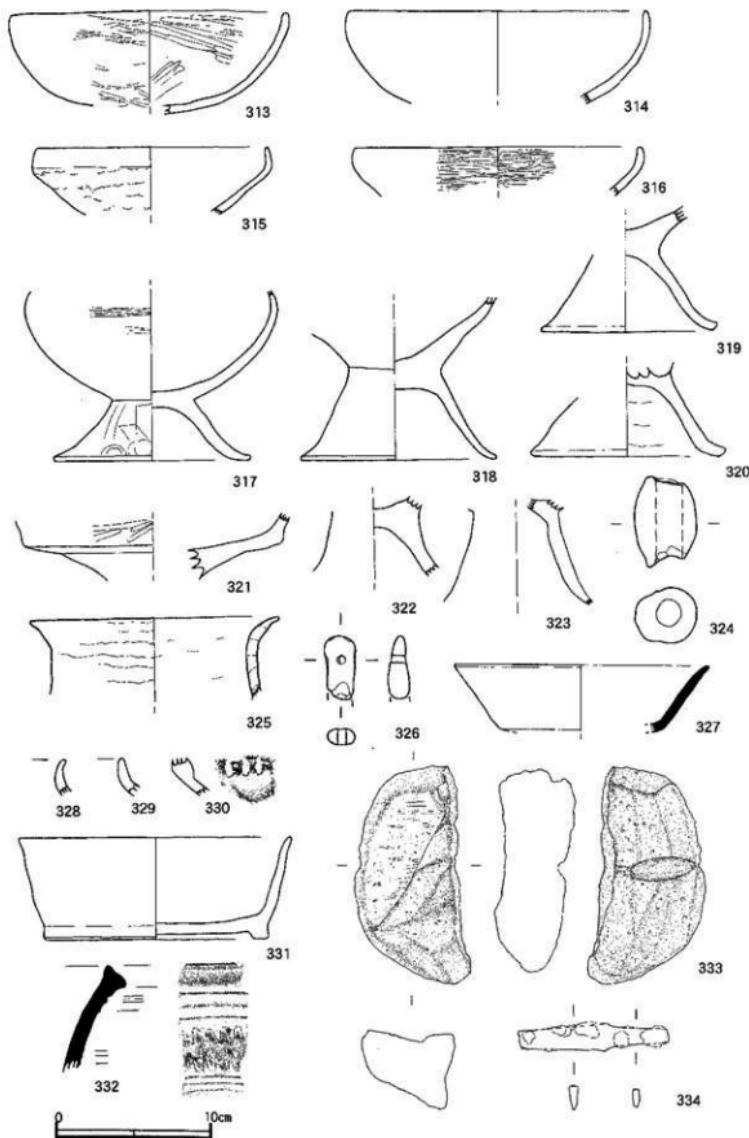
第37図 16号住居出土遺物実測図(1)



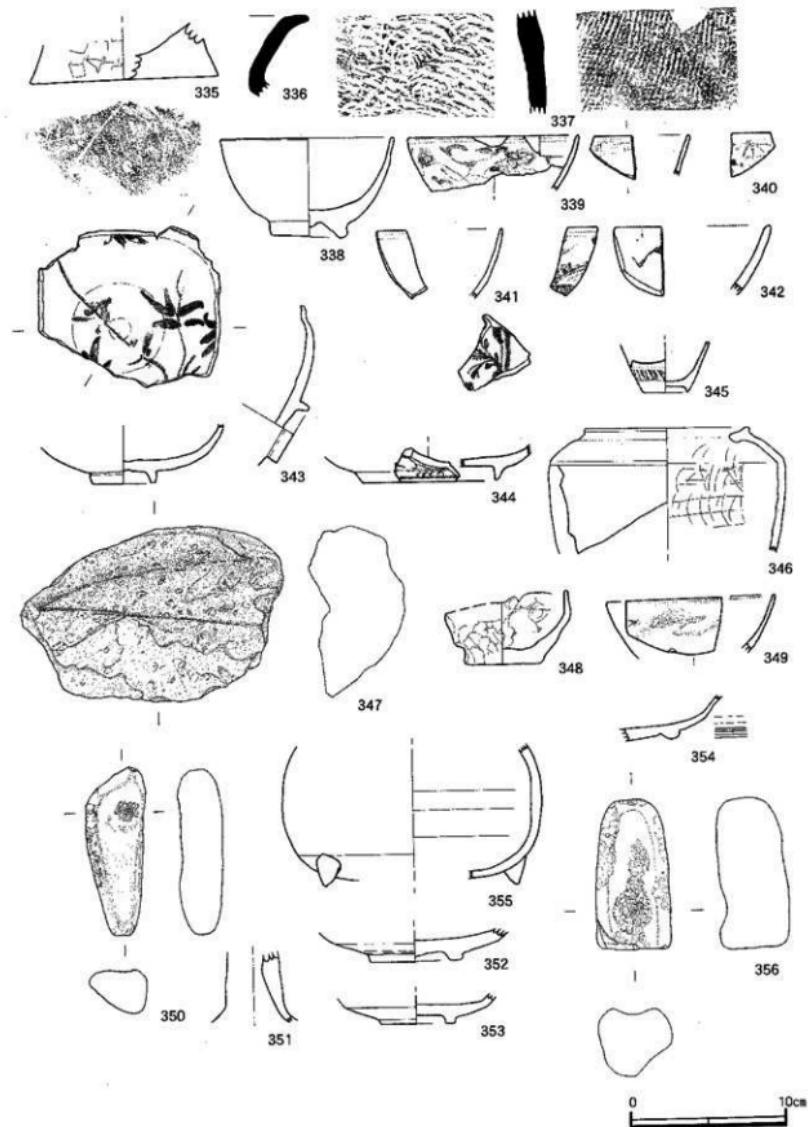
第38図 16号住居出土遺物実測図(2)



第39図 16号住居出土遺物実測図(3)



第40図 16号住居(4)、1号土坑、1号溝状遺構出土遺物実測図



第41図 2号・6号・7号溝状造構出土遺物実測図

### 9号溝状遺構

調査区北側で検出され、4号住居、8号地下式横穴墓を切る。幅60cm、深さ15cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。溝の両端は徐々に浅くなり立ち消える。遺物は出土しなかった。

### 10号溝状遺構

調査区西側で検出され、11号住居、3号地下式横穴墓を切る。幅20cm、深さ5cmを測り、断面形はU字型を呈す。溝の両端は浅くなり立ち消える。遺物は出土しなかった。

## 第5節 地下式横穴墓

### 1号地下式横穴墓

調査区中央や北側で検出され、堅坑部分を2号溝に切られる。現状上面での規模は、縦1.60m、横1.08m、深さ20cmを測る隅丸方形プランを呈す。羨道は堅坑より15cm程低くなり、幅54cm、長さ48cmをはかる。玄室は平入り楕円形平天井を呈し、長さ1.46m、奥行き0.78m、高さ42cmを測る。玄室内に空間は存在せず、閉塞の跡を確認することはできなかった。

遺物は玄室埋土中より上師器小片が出土したのみである。

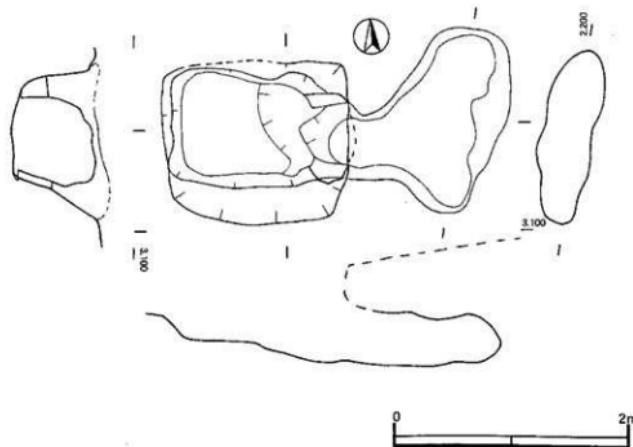
### 2号地下式横穴墓

調査区北側で検出され、西側を7号溝に切られ、東側を16号住居と切りあう。擾乱が著しく明確なプランをつかむことができなかつたが、玄室と思われる部分では、長さ0.62m、奥行き0.70mを測る。

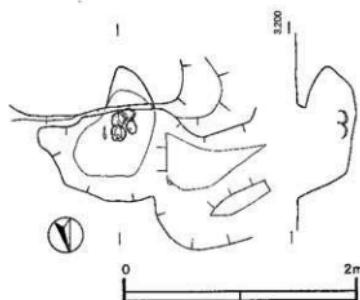
357～360は土師器である。357は壺である。丸く張った胴部を持ち、口縁部は短く直立する。外面と、口縁部内面にミガキが施してある。358～360は坏で、いずれも内外面共にミガキが施してあり、359は丹塗も観察された。361は刀子である。柄に木製部品が残る。357～360は重なりあって出土した。

### 3号地下式横穴墓

調査区西側で検出され、11号住居の北壁を切る。堅坑の平面形は縦1.35m、横1.45m深さ87cmを測る隅丸方形プランを呈す。羨道は幅120cm、長さ80cmを測る。玄室は平入り楕円形を呈し、長さ1.43m、奥行き0.47m、高さ60cm以上を測る。天井はすでに崩落しており、閉塞の跡等は確認できなかつた。



第42図 1号地下式横穴墓実測図



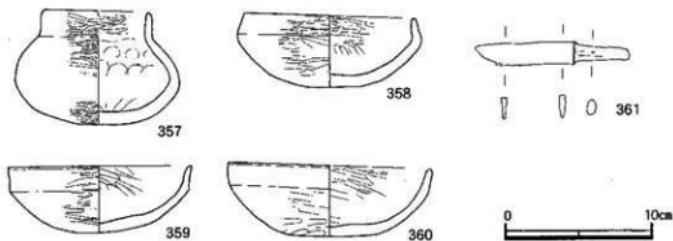
第43図 2号地下式横穴墓実測図

362は土師器の壺である。荒く削った表面を磨いてあり、粘土の縫目も観察され、やや雑な印象を受ける。玄室西側より出土した。363は刀子である。玄室中央付近のやや北側より出土した。

#### 4号地下式横穴墓

調査区ほぼ中央で検出され、上部を2号、7号溝に切られる。堅坑の平面形は現状で縦1.33m、横1.15m、深さ65cmを測る方形を呈す。玄室は平入り楕円形を呈し、長さ1.7m、奥行き0.5m、高さ65cm以上を測る。

364は上師器の壺蓋である。内外面共にミガキが施してある。365、366は須恵器である。365は壺蓋で天井部と口縁部の境はなくなり、湾曲しながら口縁部へのびる。ヘラケズリは1/2程である。366は壺で口縁部は短く内傾し、ヘラケズリは1/4程である。365、366



第44図 2号地下式横穴墓出土遺物実測図

にセット関係は認められなかった。すべての遺物は玄室北側で出土し、364が仰向け、365、366が伏せた状態で出土した。

#### 5号地下式横穴墓

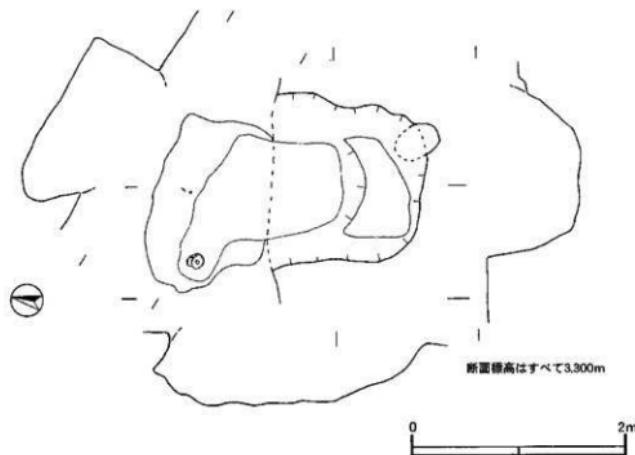
調査区東側で検出された。堅坑の南側を攪乱され、西側一部が3号住居を切る。堅坑の平面形は縦1.65m、横1.47m、深さ1.25mを測る方形を呈す。羨道は幅63cm、長さ30cmを測る。玄室は妻入りドーム型を呈し、長さ1.23m、奥行き1.00m、高さ36cmを測る。玄室内に空間は確認できず、閉塞の跡も確認できなかった。

367、368は須恵器である。367は直口壺で頸部から胸部上半にかけてカキメが施してある。368は壺蓋で、天井と口縁部の境、口縁部端部には鈍くはあるものの、一段の段を有す。ヘラケズリは3/4程である。

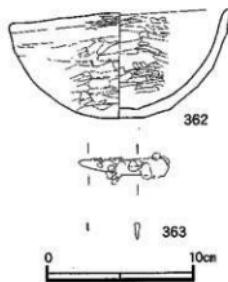
#### 6号地下式横穴墓

調査区ほぼ中央で検出され、玄室西側を攪乱される。堅坑は縦1.68m、横1.47m、深さ125cmを測る方形を呈す。羨道は幅80cm、長さ74cmを測る。玄室は妻入り型で長さ1.3m以上、奥行き1.14m高さ80cm以上を測る。天井はすでに崩落していた。羨門から玄室に向かって拳大程度の軽石が倒れ込むように検出され、玄室内からは軽石の間から遺物が出土した。この状況から軽石による閉塞を行っていた可能性も考えられる。

369は土師器の壺で、丸く張った胴を持ち、境目の不明瞭な頸部から短い口縁部が外傾する。内外面共にミガキが施してあり、丹塗が残る部分もある。370～380は須恵器である。371～375は壺蓋である。371は天井部と口縁部の境に浅いくぼみを有し、口縁部端部にも一段の段を有する。ヘラケズリは1/2程である。372は天井部と口縁部の境は不明瞭で、口縁部端部に一段の段を有するが、



第45図 3号地下式横穴墓実測図



第46図 3号地下式横穴墓出土遺物実測図

きわめて鈍い。ヘラケズリは1/2程である。内外面共に赤彩が残り、一部自然釉も認められる。373は天井部と口縁部の境の肩が張り、天井部にはヘラ記号を有する。ヘラケズリは1/3程である。外面のごく一部に赤彩が残る。374は天井部と口縁部の境に僅かなくぼみを設け、口縁部端部には一段の段を有するが鈍い。ヘラケズリは1/2程である。内外面共に赤彩が残る。375は天井部と口縁部の境はヘラケズリによってできた稜である。内外面共に赤彩が残る。376～380は壺である。376は底部外面にヘラ記号を有し、口縁部は短く内傾し、丸くおさめる。口縁部外面に僅かに赤彩が残る。ヘラケズリは1/4程である。377は内外面共に赤彩が残る。378は口縁部は短く内傾し端部は丸くおさめる。底部外面にはヘラ記号を有する。内外面共に赤彩がごく僅かに認められる。ヘラケズリは1/2程である。379は口縁部は短く直立気味に内傾し、端部を丸くおさめる。底部外面にヘラ記号を有する。ヘラケズリは1/2程である。外面に赤彩がごく僅かに認められる。380は口縁部は短く内傾し、端部は丸くおさめる。内外面共に赤彩が残る。381は鉄剣である。382は耳環である。383は玉である。遺物は玄室の北西部にまとまって出土したが、381、382、383は玄室のほぼ中央で出土した。須恵器壺、壺蓋は371が玄室中央で出土した以外は重なり合うように出土したが、すべて仰向けの状態で出土し、セット関係は認められなかった。

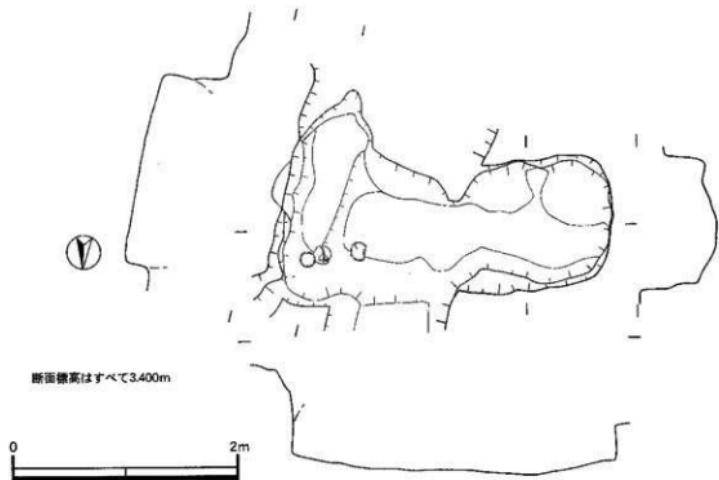
### 7号地下式横穴墓

調査区西側、3号地下式横穴墓の東で検出された。堅坑の平面形は縦1.2m、横0.85m、深さ38cmを測る隅丸方形を呈す。羨道は幅86cm、長さ50cmを測る。玄室は平入り楕円形を呈し、長さ1.3m、奥行き0.4m、高さ45cm以上を測る平入り楕円形を呈す。天井はすでに崩落しており、閉塞の跡も確認されなかった。

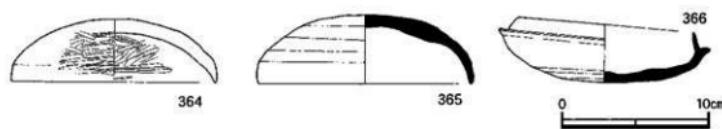
384は土師器の高壺で内外面共にミガキ、粘土の維ぎ目が観察される。玄室の東側で出土した。

### 8号地下式横穴墓

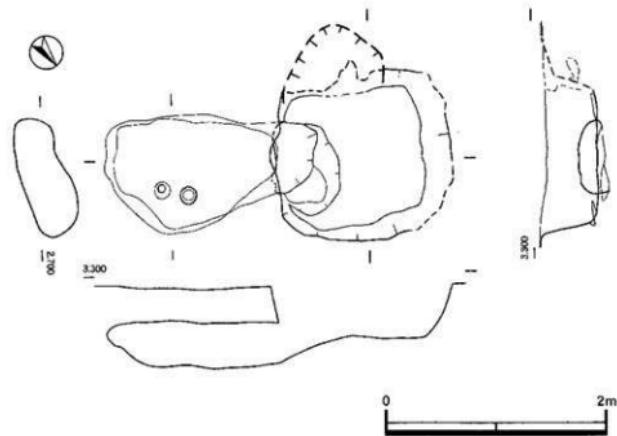
調査区北側で検出され、4号住居の西壁を切り、玄室上部を9号溝にきられる。堅坑の平面形は縦



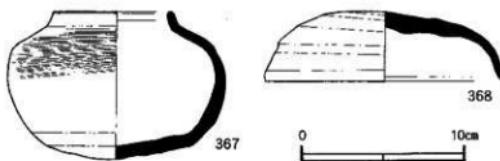
第47図 4号地下式横穴墓実測図



第48図 4号地下式横穴墓出土遺物実測図



第49図 5号地下式横穴墓実測図



第50図 5号地下式横穴墓出土遺物実測図

1.7m、横1.4m、深さ20cmを測る隅丸方形を呈す。羨道は幅0.8m、長さ1.0mを測る。玄室は平入り構円形を呈し、長さ1.86m、奥行き0.66m、高さ54cmを測る。天井はすでに崩落しており、閉塞の跡も確認されなかった。

385は土師器の壺蓋で、天井部と口縁部の境には明瞭な稜を持ち、外反しながら延びる。内外共にミガキが施してある。386、387は須恵器である。386は壺蓋で、全体的に丸みを帯びるが、口縁部端部付近をやや直立させてある。ヘラケズリは1/4程である。387は壺で、口縁部は短く直立気味に内傾する。受け部と立ち上がりには、成型時に残った粘土が1/2周ほど残る。底部外面にはヘラ記号を有す。ヘラケズリは1/2程である。388は刀子で、柄に木質が残る。389、390は鉄鏃で、いずれも方頭式で、茎には樹皮が巻いてある。388が玄室中央やや西よりで出土した以外は、南側でまとめて出土した。

#### 9号地下式横穴墓

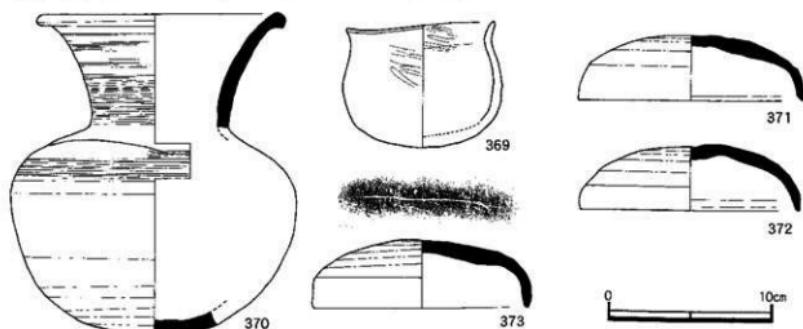
調査区北側で検出され、12号住居の西壁を切り、玄室上部を攪乱される。堅坑の平面形は縦1.4m、横1.3m、深さ40cmの構円形を呈す。羨道は幅62cm、長さ60cmを測る。玄室は妻入り型を呈し、長さ0.62m、奥行き0.72m、高さ80cm以上を測る。

391、392は土師器である。391は甕で、木葉底を有し、胴下半部が僅かに張り、口縁部は短く頸部から緩やかに外傾する。調整はケズリ、ユビオサエを主体とするが、口縁部付近はナデである。392は壺で高台を有す。外面は風化のためはっきりしないが、内面にはミガキ、丹塗が確認される。393は須恵器の壺で受け部が小さく口縁部は短く内傾する。ヘラケズリは1/3程である。内面のごく一部に赤彩が認められる。

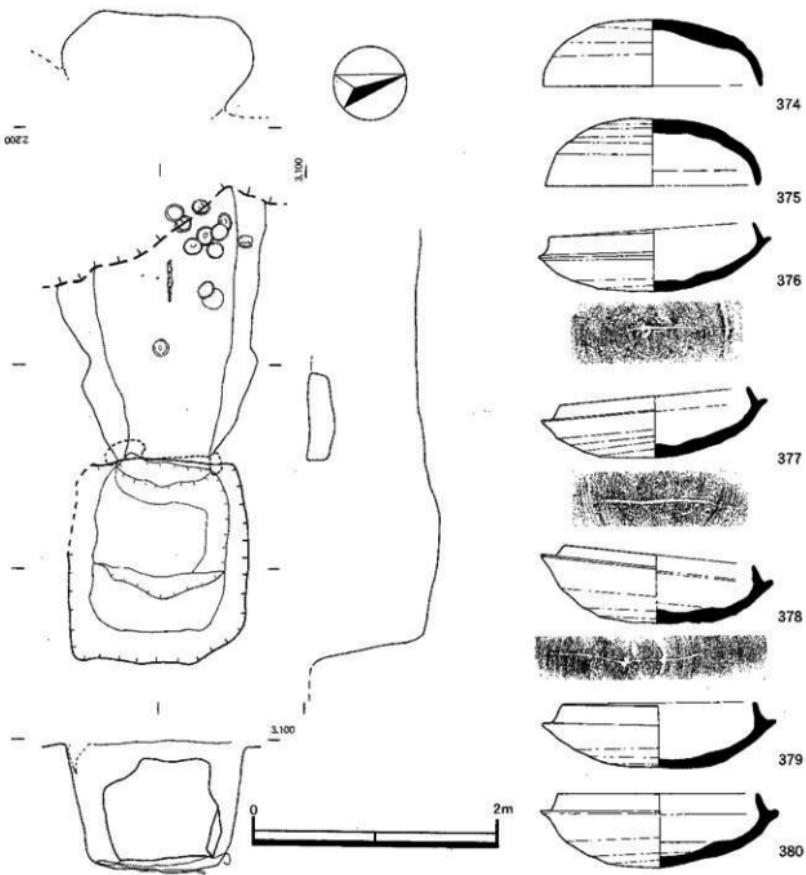
#### 10号地下式横穴墓

調査区北東側で検出され、6号溝に切られる。周囲の攪乱も著しく、堅坑、玄室共にプラン不明であるが、玄室と想定される部分は長さ0.72m、奥行き0.35m、高さ35cm以上をはかる。

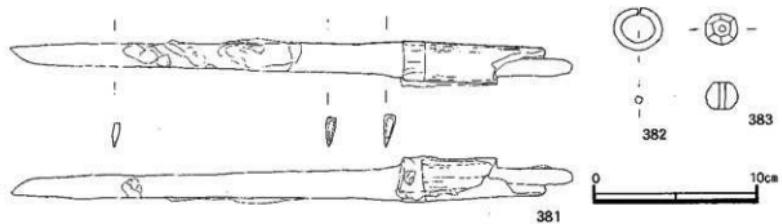
遺物は埋土中より394（勾玉）が出土したのみであった。



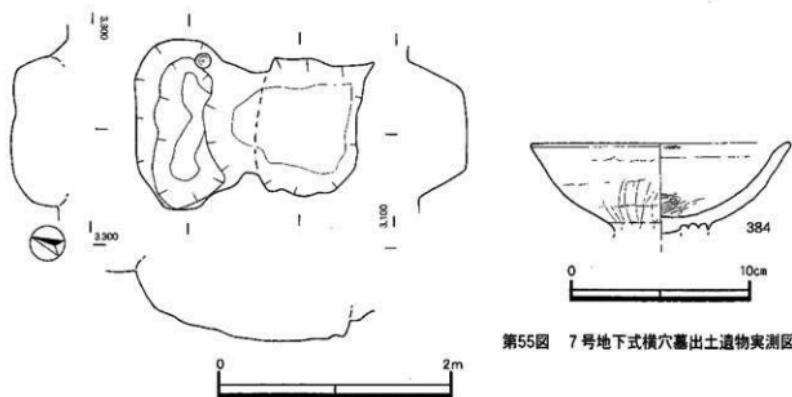
第51図 6号地下式横穴墓出土遺物実測図(1)



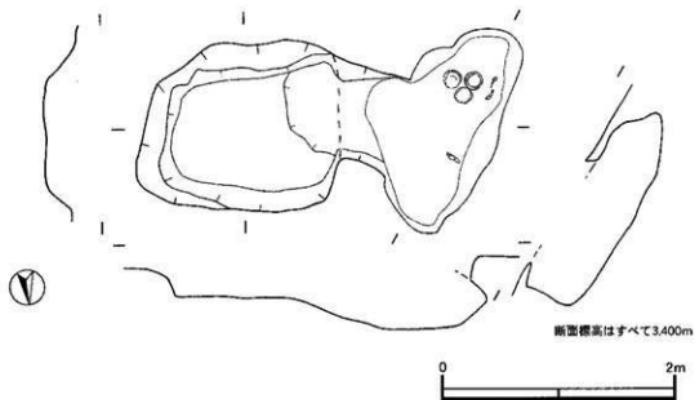
第52図 6号地下式横穴墓実測図



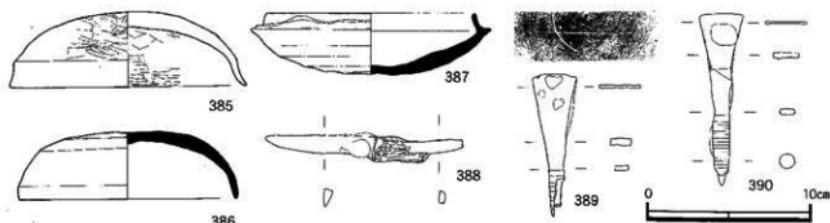
第53図 6号地下式横穴墓出土遺物実測図(2)



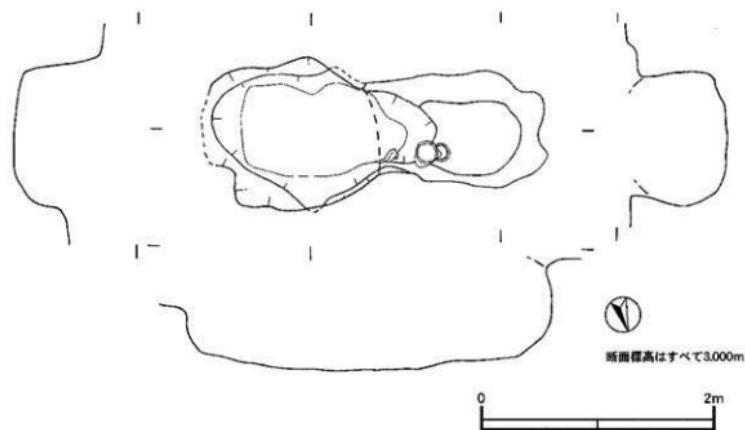
第54図 7号地下式横穴墓実測図



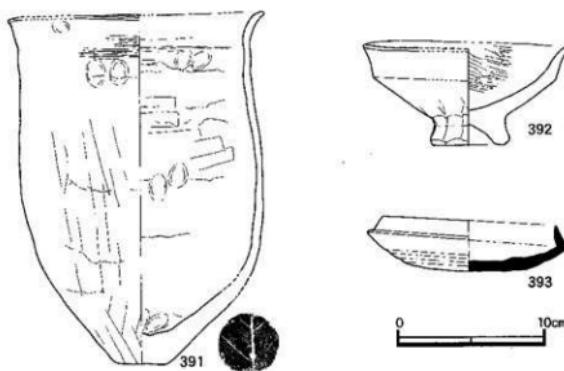
第55図 7号地下式横穴墓出土遺物実測図



第57図 8号地下式横穴墓出土遺物実測図



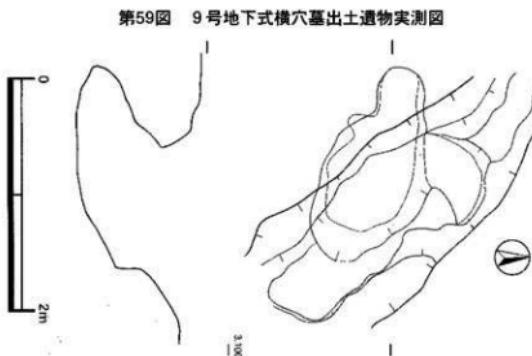
第58図 9号地下式横穴墓実測図



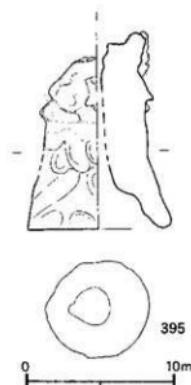
第59図 9号地下式横穴墓出土遺物実測図



第61図 10号地下式横穴墓出土遺物実測図



第60図 10号地下式横穴墓実測図



第62図 1号Pit出土遺物実測図

遺物観察表1 土器

出土遺物	No.	種別 検査	法量cm括弧内は推定 器高 H径 底径			調 整 内 外	色 色 調 調 内 外	胎 七	備 考
			器高	H径	底径				
1号住居	1	土師器 高环	(11.6)	ミガキ	櫻	櫻	0.5mm以下の赤褐色の砂粒を含み、光る反光をわずかに含む		
	2	土師器 高环		ナデ	櫻	櫻	1mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明の光る砂粒を含む		
	3	土師器 高环		ナデ、ケズリ	純い櫻、櫻	純い櫻	2mm以下の赤褐色・灰褐色の砂粒を含み、透明の光る砂粒を含む		
	4	土師器 高环	(12.5)	ナデ	櫻	櫻	1mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明の光る砂粒を含む		
	5	土師器 高环		ミガキ ミガキ、ナデ	櫻	櫻	3mm以下の褐色の砂粒を含む		
	6	須恵器 环		ナデ	灰	灰	1mm以下の白い砂粒を含む		自然釉
	7	須恵器 环		ナデ	灰オリーブ	灰	1mm以下の白と灰色の砂粒を含む		波状文・沈線
2号住居	8	土師器 束		ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	櫻、赤褐	櫻、赤褐	6mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を含む		
	9	土師器 束		ナデ、ユビオサエ後ナデ ケズリ、ナデ	櫻、明赤褐	櫻、明赤褐	7mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を含む		
	10	土師器 束	(5.5) (16.3)	ケズリ、ユビオサエ、ナデ ケズリ、ナデ	櫻、黄	櫻、黄	1mm以下の黒・褐色・透明の砂粒を含む		
	11	土師器 束	(15.2)	ミガキ ミガキ	灰、黑 櫻、純い黄	灰、黑 櫻、純い黄	1mm以下の褐色の砂粒・黒雲母・石英を含む		風化
	12	須恵器 束		ナデ ナデ、タカキ	灰白 灰白	灰白 灰白	6mm以下の黄灰の砂粒・砂粒・細砂粒を含む		
	13	須恵器 环		ナデ ハラケズリ、ナデ	灰 灰	灰 灰	4mm以下の灰の砂粒・砂粒・細砂粒を含む		
	14	土師器 束	24.35	23.2	ケズリ、ユビオサエ、ナデ ケズリ、ハケメ、ミガキ	褐灰、純い赤褐、赤褐 赤灰、純い褐、黑、櫻	3mm以下の褐色の砂粒、微細な砂粒を多く含む		
3号住居	15	土師器 束	(21.8) (22.4)	ユビオサエ、ケズリ、ナデ ケズリ、ナデ	褐褐 明褐	褐褐 明褐	1~3mmの赤褐色の砂粒を含む		煤付着
	16	土師器 束	25.7 (23.8)	ケズリ、ナデ ケズリ、ナデ	純い櫻、櫻 純い櫻、櫻	純い櫻、櫻	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む		
	17	土師器 束	23.8 17.8	ケズリ、ハケメ、ナデ ケズリ、ハケメ	櫻 櫻、淡黄褐	櫻 櫻、淡黄褐	5mm以下の白・黒・褐色・灰色の砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む		
	18	土師器 束	(17.8)	ハケメ ハケメ、ナデ	純い黄 純い黄	純い黄 純い黄	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒を含む		風化
	19	土師器 高环	(9.9) (16.0)	ナデ ナデ	櫻	櫻	1mm以下の白・黒・灰色の砂粒を含む		風化
	20	土師器 高环		ナデ	櫻	櫻	2mm以下の白・黒・灰色の砂粒・細砂粒を含む		風化
	21	土師器 环	5.5 15	ナデ	櫻 明赤褐、櫻、純い黄 明赤褐、櫻、純い黄	櫻 明赤褐、櫻、純い黄	1mm以下の黒・褐色・灰色の砂粒・細砂粒を多く含む		風化
4号住居	22	土師器 环	6.1 17.5	5.0	ナデ ナデ、ユビオサエ	純い黄 純い黄、明赤褐	2mm以下の白・灰色の砂粒を含み、赤褐色の砂粒を含む		風化
	23	土師器 环	10 (13.6)	ケズリ、ユビオサエ、ナデ ケズリ、ナデ	櫻、明黄褐、暗赤褐 純い黄、明黄褐、暗赤褐	櫻、明黄褐、暗赤褐 純い黄、明黄褐、暗赤褐	2.5mm以下の黒・褐色・灰色の砂粒と石英を多く含む		
	24	土師器 环	(7.6) (16.1)	(6.2)	ケズリ、ナデ ユビオサエ、ナデ	櫻 櫻、純い櫻	3mm以下の白・黒の砂粒を含む		
	25	須恵器 环		ナデ ナデ、ハラケズリ	灰 灰	灰 灰	1mm以下の白・灰色の細砂粒を含む		
	26	須恵器 环		ナデ ナデ	灰 灰	灰 灰	1mm以下の白・黒・灰色の細砂粒を含む		
	27	須恵器 环		ナデ ナデ	灰 灰	オリーブ・灰 オリーブ・灰	2mm以下の白・黒・灰色の砂粒・細砂粒を含む		自然釉
	28	土師器 束		ナデ ケズリ後ナデ	純い櫻 純い櫻	純い櫻 純い櫻	6mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
4号住居	29	土師器 束		ナデ ケズリ後ナデ	純い櫻 純い櫻	純い櫻 純い櫻	3mm以下の赤褐色の砂粒・微細な砂粒を含む		
	30	土師器 束		ナデ ケズリ後ナデ	純い櫻 純い櫻	純い櫻 純い櫻	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
	31	土師器 束	18.1	ケズリ後ナデ ナデ、ケズリ	純い櫻 純い櫻	純い櫻 純い櫻	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
	32	土師器 束	(23.3)	ナデ ケズリ、ハケ後ナデ	淡黄褐 淡黄褐、純い櫻	淡黄褐 淡黄褐、純い櫻	3mm以下の黒・褐色・灰色の砂粒・細砂粒を多く含む		煤付着・風化
	33	土師器 束	18.3	ケズリ後ナデ、ユビオサエ ナデ	灰青、櫻 純い櫻、櫻	灰青、櫻 純い櫻、櫻	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
	34	土師器 束	(19.1)	ナデ、ユビオサエ ケズリ後ナデ、ナデ	灰青 純い黄	灰青 純い黄	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む		煤付着
	35	土師器 束	(20.1)	ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	純い黄 純い黄	純い黄 純い黄	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む		煤付着

出土遺物	No.	法量cm断面内は推定			調査内外	色調内外	胎土	備考
		横径	豊高	11径				
	36		(15.4)		ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	橙 橙	3mm以下の白・黒・褐色・灰色の砂粒・砂紋を多く含む	
	37		(18.8)		ナデ、ケズリ ナデ、ケズリ後ナデ	鈍い黄橙 鈍い黄橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	38		(15.6)		ナデ、ケズリ ナデ	鈍い黄橙 鈍い黄橙	2.5mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	39		19.5		ケズリ、ナデ ケズリ、ナデ	鈍い橙 橙	7mm以下の白・褐色の砂礫・砂粒・細砂粒、光る粒を含む	焼付着
	40		(16.5)		ケズリ、ナデ	浅黄橙 浅黄橙	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を多く含む	風化
	41		(18.8)			鈍い橙 鈍い橙	1~2mmの赤褐色の砂粒を多く含む	風化
	42		(18.6)		ユビオサエ、ナデ ナデ	黄橙 橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み、砂礫をわずかに含む	
	43				黄橙、明黄褐 明黄褐	4mm以下の白・褐色・灰色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む		風化
	44				ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	浅黄橙 黄橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	45				ケズリ、ナデ ケズリ後ナデ	橙 明赤褐	4mm以下の白・褐色・灰色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	
	46				ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	鈍い黄橙 鈍い黄橙	2.5mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	47				ナデ	橙 橙	6mm以下の褐色の砂礫を含む	風化
	48				ケズリ後ナデ ハケ後ナデ	橙 橙	白・黒・褐色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	焼付着
	49				ナデ ユビオサエ、ナデ	浅黄橙 鈍い黄橙	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	50				ナデ	赤褐、橙 赤褐、橙	2mm以下の赤褐色・灰色の砂粒を含む	風化
	51				ハケ後ナデ ハケ後ナデ	橙 橙	5.5mm以下の褐色・灰色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	風化
	52				ケズリ後ナデ、ナデ ナデ	灰黄 鈍い橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み、黒く光る粒をわずかに含む	
	53				ナデ ナデ	鈍い黄橙 鈍い黄橙	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	54				ナデ ハケメ、ナデ	橙 橙	4mm以下の白・褐色・灰色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	
	55				ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	鈍い青 鈍い黄橙	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む	内外ともに 焼付着
	56				ケズリ ケズリ後ナデ	橙 橙	3mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を多く含む	
	57				ナデ	黒 鈍い黄橙	3mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を多く含む	風化
	58				ナデ ナデ	黒、灰黄褐 橙、黒	5mm以下の白・黒・褐色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	
	59		5.0		ユビオサエ、ケズリ ケズリ	橙 赤褐、鈍い黄褐	4mm以下の白・黒・褐色の砂礫・砂粒・細砂粒を多く含む	本葉底
	60		31.8	13.8	ナデ、ケズリ後ナデ ナデ、ケズリ後ナデ	橙 橙、浅黄橙	3mm以下の赤褐色の砂粒、光る粒を含む	割込み突起
	61		9.9	(8.0)	ケズリ、ナデ、ユビオサエ ミガキ	橙 橙、小粒 橙、黑	3mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む	
	62			(11.3)	ユビオサエ、ナデ ナデ	鈍い橙 鈍い橙	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	63		24	27.7	ミガキ ミガキ、ナデ	橙 橙	2mm以下の白・褐色の砂粒・細砂粒を多く含む	風化
	64		9.8	16	ミガキ、ケズリ ミガキ、ナデ	赤褐 赤褐、橙	2mm以下の褐色の砂粒、透明の光る粒を含む	赤彩?
	65				ナデ ミガキ、ナデ	黄橙、鈍い橙 鈍い橙	1mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を含む	風化
	66				ケズリ後ナデ ミガキ		1mm以下の赤褐色の砂粒、透明の光る粒を含む	
	67				ナデ ナデ	橙 橙	4mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む	風化
	68				ミガキ、ナデ	橙 橙	白・灰色の細砂粒をわずかに含む	風化

出上邊機	No.	種別 機械	法量cm括弧内は推定 器高 口径 底径			調整 内外 調 調	色調 内 外 調 調	監 士	備 考
			器高	口径	底径				
4分住居	69	土師器 环	6.2	17.6		ケズリ、ミガキ ナデ	橙、黃橙 橙	2mm以下の白・黒・褐色の 砂粒・細砂粒を含む	風化
	70	土師器 环	7.2	(18.0)	4	ケズリ後ナデ ミガキ、ケズリ	橙 橙	2.5mm以下の黒・褐色の砂粒 ・細砂粒を含む	木葉底
	71	土師器 环	7.4	17.2		ナデ ケズリ後ナデ	浅黄橙、橙 純い橙	5mm以下の黒・褐色の粒、 光る粒を含む	風化
	72	土師器 环	8.1	13.3	2.4	ケズリ、ナデ ミガキ	橙、黒 橙	1mm以下の褐色の砂粒を含 む	
	73	土師器 环			(15.7)		浅黄橙 浅黄橙	1mm以下の黒・褐色の細砂 粒を含む	風化
	74	土師器 环				ミガキ ミガキ	明赤褐 明赤褐	1mm以下の赤褐色の細砂粒 を含む	風化
	75	土師器 环				ナデ ナデ	淡橙 淡橙	赤褐色の砂粒、光る微細粒 を含む	
	76	土師器 上紙							穿孔
	77	須恵器 壺				タタキ、ナデ タタキ	灰 暗青灰	1mm以下の白・灰色の細砂 粒を多く含む	自然釉
	78	須恵器 壺				タタキ タタキ	灰オーラブ 灰	2mm以下の白・褐色の砂粒 をわずかに含む	波状文
	79	須恵器 壺				ナデ、タタキ タタキ、ナデ	暗青灰 暗青灰	白い細砂粒を含む	自然釉 カキメ
	80	須恵器 壺				ナデ ナデ	黑灰 灰	2mm以下の白い砂粒をわ ずかに含む	
	81	須恵器 壺				ナデ ナデ	暗青灰 暗青灰	2.5mm以下の白い細砂粒を含 む	自然釉
	82	須恵器 壺蓋	3.9	(11.7)		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	3mm以下の白・黒・灰色の 砂粒をわずかに含む	
	83	須恵器 壺蓋				ナデ ナデ	青灰 暗青灰	1mm以下の白・褐色の細砂 粒を含む	
	84	須恵器 壺蓋				ナデ ナデ	暗青灰 青灰	精良	
5号住居	85	土師器 壺				ナデ、ユビオサエ ナデ、ユビオサエ	浅黄橙 純い黄橙	2mm以下の白・褐色の砂粒 ・細砂粒を多く含む	
	89	土師器 鉢	11.4	16.8	(7.3)	ケズリ、ナデ ナデ、ユビオサエ	明赤褐 引出褐	2mm以下の白・褐色の砂粒を含 み、 1mm以下の光る粒をわずかに含む	
	90	土師器 高坏			(11.0)	ナデ ミガキ	橙 橙	1mm以下の赤褐色の細砂粒 を含む	
	91	土師器 环	6.6	15.1		ナデ	橙 橙	褐色の微細粒、黒雲母・石 英を含む	黒隕
	92	須恵器 壺			(13.5)	ナデ	灰、暗綠灰、オリーブ 灰、暗灰	1mm以下の白・灰色の細砂 粒を含む	自然釉 波状文
	93	須恵器 高坏			(18.7)	ナデ ナデ	灰オーラブ 灰	白・黒・灰色の細砂粒を含 む	透かし孔
	94	土師器 高坏			(20.6)	ミガキ ミガキ、ナデ	橙、明赤褐 橙	5mm以下の砂粒、砂粒をわ ずかに含み、 黒雲母・石英を多く含む	
	95	土師器 高坏			(19.5)	ミガキ	橙 橙	1mm以下の白・黒・灰色の 細砂粒を含む	風化
6号住居	96	土師器 环					純い橙 純い橙	1mm以下の褐色の砂粒を含 む	風化
	97	土師器 环	6.6	(16.6)		ミガキ	純い橙、明赤褐 純い橙	1mm以下の白・灰色の細砂 粒を含む	風化
	98	土師器 环			(14.7)		浅黄橙 浅黄橙	1mm以下の白・黒・褐色の 細砂粒を含む	風化
	99	須恵器 壺				ナデ ナデ	灰 灰	2mm以下の白・黒の砂粒を 含む	透かし孔
	100	須恵器 壺				ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	1mm以下の白・黒の砂粒を 含む	
	101	須恵器 环				ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰オーラブ	1mm以下の白・黒の砂粒を 含む	自然釉
	102	土師器 壺			7.4	ナデ、ケズリ後ナデ ユビオサエ、ナデ	暗灰黄、純い黄橙 純い橙	3mm以下の褐色の砂粒を含 む	木葉底、埋甃
	103	土師器 环	7	17.2		ケズリ後ナデ ナデ	純い橙、灰 橙、純い橙	3mm位の褐色の砂粒をわ ずかに、1mm 以下の砂粒・細砂粒を多く含む	
7号住居	104	須恵器 环			9.2	ナデ ナデ、ケズリ	灰 灰	3mm以下の白・灰色の砂粒 ・細砂粒を含む	

出土遺構	No.	種別	法量cm折張内は推定			調 整 内 外	色 色 調 内 外	胎 士	備 考
			機種	器高	口径				
	105	土師器 甕	30	26.6		ハケメ、ナデ ハケメ、ナデ	黄い黒、黄い白、黄い黄褐色、黒 黄褐色、黄い白、黄い白	2mm以下の黒・褐色、灰の 砂粒を含む	連続剥片・ 火垂
	106	土師器 甕	27.1	23.7		ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ	褐、赤、明黄褐色、黒 明黄褐色、赤、暗赤褐色、黒	8mm以下の白・黒・褐色の 砂粒・砂粒を多く	煤付着
	107	土師器 甕		(18.2)		ハケ後ナデ、ナデ ハケ後ナデ	棕 純い棕	3mm以下の赤褐色の砂粒を 多く含む	煤付着
	108	土師器 甕		(24.5)		ナデ ハケ後ナデ	純い棕 純い棕	1mm以下の褐色の砂粒を含 む	
	109	土師器 甕				ナデ ナデ	純い棕 純い棕	5mm以下の赤褐色の砂粒を含 み、褐色の砂粒を多く含む	
	110	土師器 甕				ケズリ後ナデ ナデ	純い青褐色 黒、純い黄褐色	2mm以下の赤褐色・黒の砂 粒を含む	
	111	土師器 甕					純い黄褐色 浅青褐色	3mm以下の白・褐色の砂粒 を多く含む	風化
	112	土師器 甕				ナデ ナデ	棕 棕	1mm以下の褐色の砂粒をわ ずかに含む	
	113	土師器 甕				ナデ ハケ後ナデ	純い黄褐色 純い褐	2mm以下の赤褐色・白の砂粒を含 み、無色透明の液をわずかに含む	
	114	土師器 甕				ナデ ハケ後ナデ	純い棕 棕	2mm以下の赤褐色・黒の砂 粒を含む	
	115	土師器 甕					純い棕 純い棕	3mm以下の白・褐色の砂粒 を多く含む	風化
	116	土師器 甕				ナデ ナデ	純い青褐色 純い黄褐色	2mm以下の赤褐色の砂粒を 多く含む	
	117	土師器 甕				ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	純い棕 浅青褐色	白・黒・褐色の砂粒を多く 含む	
	118	土師器 甕				ユビオサエ、ナデ ケズリ後ナデ	棕 純い黄褐色	5mm以下の白・褐色の砂粒を多 く含む、細砂粒を含む	
	119	土師器 甕	25.55	(13.3)		ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ユビオサエ、ハケ後ナデ	純い黄褐色、褐、黒 褐、純い黄褐色、黒	4mm以下の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を含む	煤付着
8号住居	120	土師器 甕	10.2	6.6	3.8	ユビオサエ、ハケメ ミガキ	棕 棕、明赤褐色	5mm以下の赤褐色の砂粒を含む、 無色透明の液をわずかに含む	風化
	121	土師器 甕				ハケ後ナデ、ナデ ハケ後ナデ	棕 純い棕 純い黄褐色、棕	5mm以下の黒・黒・褐色の 砂粒・砂粒を多く含む	
	122	土師器 甕				ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	浅青褐色 棕	2mm以下の褐色の砂粒を含 む	
	123	土師器 甕				ケズリ後ナデ ミガキ	純い棕 棕	赤褐色の砂粒を含み、無色透 明の細砂粒をわずかに含む	風化
	124	土師器 甕					棕 棕	1mm以下の褐色・乳白色の 砂粒を含む	風化
	125	土師器 甕				ミガキ ミガキ	棕 棕	1mm以下の白・褐色の砂粒 を含む	
	126	土師器 甕			(8.6)	ナデ ケズリ後ナデ	浅青褐色 純い黄褐色	黒・褐色の砂粒を多く含む	
	127	土師器 甕			(3.5)	ユビオサエ、ケズリ後ナデ ハケ後ナデ	純い棕 純い棕	5mm以下の黒・黒・褐色の 砂粒・砂粒を多く含む	小葉底
	128	土師器 甕			3.8	ケズリ ミガキ	棕 棕	1mm以下の白・黒・褐色の砂 粒・細砂粒を含む	風化
	129	土師器 甕				ミガキ ミガキ	棕 純い棕	2mm以下の白・褐色の砂粒 を含む	風化
	130	土師器 甕				ナデ	棕 棕	2mm以下の褐色の砂粒を含 み、充てん細砂粒を多く含む	風化
	131	土師器 甕				ナデ ナデ	棕 棕	2mm以下の白・褐色の砂粒 を含む	風化
	132	土師器 甕	8	16.5		ミガキ ミガキ	棕 明黄褐色	2mm以下の黒・褐色の砂粒 をわずかに含む	ヘラ記号
	133	土師器 甕	6.2	(17.0)		ミガキ ミガキ	純い棕、純い黄褐色 棕	2mm以下の赤褐色の砂粒を含 み、無色透明の液をわずかに含む	ヘラ記号
	134	土師器 甕	(6.2)	(17.4)	(5.85)	ケズリ ケズリ後ナデ	純い黄褐色、棕 純い棕	3mm以下の暗褐色の砂粒を 含む	
	135	土師器 甕		16.3		ミガキ ミガキ	純い棕、明褐色 純い棕、浅青褐色	3mm以下の白・黒・灰・褐 色の砂粒・細砂粒を含む	
	136	土師器 甕		(16.0)		ミガキ、ナデ ミガキ	棕、灰白、黑 灰白、灰白	3mm以下の白・黒・灰・褐 色の砂粒・細砂粒を含む	
	137	土師器 甕		(13.2)		ミガキ ミガキ	棕 棕	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒を含 み、無色透明の液をわずかに含む	

出土遺構	No.	種別 機種			法量cm括弧内は推定 器高・口径・底径	調 整 内 外	色 色 調 調 内 外	胎 上	備 考	
		器高	口径	底径						
8号住居	138	上部器 坏				接 接	1mm以下の褐色・白の砂粒、光る透明の粒子が多く含む		風化	
	139	上部器 坏			ナデ ミガキ	接 接	3mm以下の褐色の砂粒・細砂粒を含む		風化	
	140	上部器 坏				接 接	3mm以下の白・褐色の砂粒を含み、微細粒を多く含む		風化	
	141	上部器 坏			ナデ ミガキ	錆 錆・黒 黒	1mm以下の白・黒・褐色の細砂粒を含む			
	142	上部器 坏			ナデ ナデ	粉 粉・褐	1mm以下の白・黒・褐色の細砂粒を多く含む			
	143	土師器 坏				錆 錆・錆	白・褐色の粒を多く、光る石英をわずかに含む			
	144	土師器 坏			ミガキ ミガキ	接 接	1mm以下の黒く光る砂粒を含む			
	145	土師器 坏			ミガキ ミガキ	粉、赤橙 赤橙	3mm以下の白・褐色の砂粒を含む		風化	
	146	土師器 坏				赤褐 錆・錆・黄 錆・黄	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒を含む		ヘラ記号	
	147	土師器 ミネコア	4	8.9	35	ミガキ ミガキ	錆・黄 錆・黄	1mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を含む		
	148	土師器 土釜							穿孔	
	149	須恵器 壺			ナデ ナデ	灰 暗灰	1mm以下の白・灰の砂粒を含む		自然釉	
	150	須恵器 壺			ナデ ナデ	灰白 灰白	1mm以下の白い砂粒をわずかに含む		自然釉	
	151	須恵器 高坏			ナデ ナデ・ケズリ	灰 灰	精良			
	152	須恵器 坏		(10.6)	ナデ ナデ・ケズリ	灰 灰	1mm以下の白い砂粒を多く含む	LJ脛部沈線		
9号住居	156	上部器 壺				城、明黄褐 城、明黄褐	6mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多く含む		風化	
	157	上部器 壺			ナデ ユビオサエ、ナデ	接 錆	褐色の細砂粒を多く含む			
	158	土師器 壺			ナデ ナデ	接 接	4mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多く含む			
	159	土師器 壺			ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	接 接・赤	6mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多く含む			
	160	土師器 壺			ナデ ナデ	赤褐 接	褐色の細砂粒を含む		口脣部沈線	
	161	土師器 壺			ナデ	明黄褐 明黄褐	2mm以下の褐色・灰灰の砂粒・細砂粒を多く含む		風化	
	162	土師器 壺			ナデ	接 接	黒・褐色の細砂粒を多く含む		風化	
	163	土師器 壺			ナデ ナデ	浅黄褐 浅黄褐	3mm以下の褐色の砂粒を含む			
	164	土師器 壺			ナデ、ユビオサエ ケズリ後ナデ	錆・青、明赤褐 錆・青、明赤褐	5mm以下の赤褐色の砂砾を含む		煤付着	
	165	土師器 壺			ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	接 錆	2mm以下の褐色の砂粒を含む			
	166	土師器 壺			ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	接 錆・黄褐	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を含む			
	167	土師器 壺			ケズリ後ナデ ミガキ	錆 接	白や褐色の微細粒を多く含む		風化	
	168	土師器 壺			ユビオサエ、ナデ ナデ	接 明黄褐、浅黄褐	1mm以下の白・黒・褐色・光る粒を多く含む		剥み目穴帶	
	169	土師器 高坏			ナデ ミガキ、ナデ	錆 錆	白・黒・褐色の細砂粒を含む			
	170	土師器 高坏				暗褐、灰褐、 接	褐色の微細粒を多く含む		風化	
	171	土師器 高坏				接 接	1mm以下の黒・灰・透明の微細粒をわずかに含む		風化	
	172	土師器 高坏			ユビオサエ、ナデ ナデ	浅黄、灰 錆・黄褐	1mm以下の黒・褐色の細砂粒を含む			
	173	土師器 高坏		(10.4)	ケズリ、ナデ ケズリ、ミガキ	錆 黑	2mm以下の光る粒・黒・褐色の細砂粒を含む			

出土遺物	No	種別	法量cm括弧内は推定			調整 内 外	色 調 色 調 調	胎 土	備考
			機種	器高	口径				
9号住居	174	土師器 环				ナデ ミガキ	橙 橙	白や褐色の微細粒を多く含む	風化
	175	土師器 环				ミガキ ミガキ	純い黄橙	1mm以下の光る粒、褐色の細砂粒を含む	
	176	土師器 环				タタキ タタキ	灰 灰	白い細砂粒をわずかに含む	
	177	土師器 环	(11.5)			ナデ ケズリ、ナデ	灰 灰	稍良	
	180	土師器 环	(17.2)			ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ、ナデ	橙、純い橙	6mm以下の黒・褐色の砂礫・砂粒を多く含む	煤付着
	181	土師器 环	(19.7)			ナデ、ユビオサエ ケズリ後ナデ、ユビオサエ	純い橙 純い橙	3mm以下の褐色の砂粒と石英を含む	煤付着
	182	土師器 环	(20.8)			ナデ ナデ	橙 橙	3mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
10号住居	183	土師器 环	(18.8)			ナデ ケズリ後ナデ	純い橙 純い橙、純い黄橙	4mm以下の黒・褐色の砂礫・砂粒を多く含む	
	184	土師器 环	(11.2)			ナデ ナデ	橙 赤褐	3mm以下の白・黒の砂粒を含む	煤付着
	185	土師器 环	3.5			ユビオサエ、ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	純い黄橙、橙 純い黄橙、浅黄橙	6mm以下の黒・褐色・灰色の砂礫・砂粒を多く含む	煤付着
	186	土師器 环				ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	明褐 純い褐、明赤褐	5mm以下の白・黒・褐色の砂礫・砂粒を含む	風化
	187	土師器 环				ナデ ナデ	純い橙、橙 純い橙	3mm以下の白・黒の砂粒を含む	煤付着
	188	土師器 环				ナデ ナデ	純い橙、灰黄	5mm以下の白・黒・褐色の砂礫・砂粒を多く含む	
	189	土師器 环				ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	橙 橙	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒を多く含む	
10号住居	190	土師器 环				ナデ	橙 橙	7mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多く含む	風化
	191	土師器 环				ユビオサエ、ナデ ケズリ後ナデ、ケズリ	純い褐、灰褐 純い黄橙	1mm以下の砂粒・細砂粒を含む	
	192	土師器 环	(9.9)			ケズリ、ユビオサエ ミガキ	橙 橙	1mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	193	土師器 环				ユビオサエ ナデ	橙 浅黄褐、灰、橙	3mm以下の褐色の砂粒を多く含む	風化
	194	土師器 环				ナデ ナデ	浅黄橙 純い橙	3mm以下の灰褐の砂礫・細砂粒を多く含む	
	195	土師器 环				ケズリ後ナデ ナデ	灰青褐、黑 純い黄橙	4mm以下の黒・褐色の砂礫・砂粒を多く含む	
	196	土師器 环	6.5	(13.4)		ミガキ ケズリ、ミガキ	橙 橙	1mm以下の褐色の砂粒・微細粒を含む	風化
10号住居	197	土師器 环				ミガキ ミガキ	橙 橙	2mm以下の褐色の砂粒をわずかに含む	風化
	198	土師器 环		(10.4)		ミガキ ミガキ、ナデ	橙 橙	1mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	199	土師器 环				ユビオサエ、ナデ ミガキ、ナデ	純い黄橙 純い黄橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	200	土師器 环					橙 黄橙、浅黄	1mm以下の乳白色の粒を含む	風化
	201	土師器 环				ミガキ、ナデ ミガキ	黄橙 橙	1mm以下の黒や無色透明の光る粒を含む	風化
	202	土師器 环				ミガキ ミガキ	橙 橙、明赤褐	褐色、乳白色の微細粒を含む	
	203	土師器 环					橙、灰 橙	1mm以下の黒い細砂粒を含む	風化
10号住居	204	土師器 环	6	(16.6)		ミガキ、ケズリ、ナデ ケズリ、ミガキ	橙、青褐、黑 橙、黄橙、黑	5mmの砂礫をわずかに、白・黒・褐色の砂粒を多く含む	
	205	土師器 环		(12.1)		ミガキ	橙 浅黄橙、橙、浅黄	1mm以下の黒・無色透明・乳白色の粒を含む	風化
	206	土師器 环				ナデ	橙 橙	2mm以下の白・褐色の砂粒・光る粒を含む	風化
	207	土師器 环					橙 橙	白やにぶい赤褐の微細粒を含む	風化
	208	土師器 环				ミガキ、ナデ	橙、黄橙 橙、黄橙	1mm以下の白・褐色の細砂粒を含む	風化

出上遺構	No.	種別 機械		法量cm 器高 口径 底径	調 整 内 外	色 調 内 外	粘 土	備 考
		上傳器 杯	上傳器 杯					
10号住居	209				ミガキ	橙 橙	1mm以下の白やにぶい赤褐色の微細粒を含む	風化
	210				ミガキ ミガキ	橙 鈍い橙	4mm以下の黒・褐色の砂粒を含む	風化
	211	須恵器 杯		(8.5)	ナデ ケズリ、ナデ	灰 灰	2mm以下の白い砂粒・細砂粒をわずかに含む	透かし孔
	212	須恵器 杯			ナデ ケズリ、ナデ	灰 灰	3mm以下の白・灰色の砂粒・細砂粒を多く含む	自然釉
	213	土師器 甕			ユビオサエ、ナデ ケズリ後ナデ	灰褐 灰白	1mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を含む	内部漆付着
	215	土師器 甕			ユビオサエ、ケズリ後ナデ ナデ、ケズリ後ナデ	橙、褐 橙、鈍い橙	4mm以下の黒・褐色の砂粒・砂粒を含む	埋甕
11号住居	216	土師器 甕		(19.4)	ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ、ナデ	明黄褐 橙	3mm以下の褐色の砂粒を含む	塗付着
	217	土師器 甕			ケズリ ケズリ	赤、褐 橙、鈍い黄橙	6mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多く含む	埋甕
	218	土師器 杯				浅黃褐 鈍い黄橙	精良	
	219	須恵器 杯			ナデ ナデ	灰 灰	白い砂粒を含む	
	220	上傳器 甕			ハケヌ、ナデ ハケヌ、ナデ	橙、鈍い褐 橙	4mm以下の黒・褐色の砂粒を多く含む	
13号住居	221	上傳器 杯			ミガキ ミガキ	橙 黄橙	光る砂粒をわずかに含む	風化
	222	上傳器 杯		(5.8) (18.9)	ナデ	橙	3mm以下の白・褐色の砂粒・細砂粒を含む	風化・赤彩
	223	土師器 甕		(16.0)	ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ユビオサエ、ナデ	鈍い橙 橙、鈍い橙	3mm以下の褐色・灰・乳白色の砂粒を多く含む	塗付着
14号住居	224	土師器 甕			ケズリ ケズリ後ナデ	橙、褐 橙、鈍い黄橙、黒	1mm以下の黒・光る・褐色・透明の砂粒・砂謙也を含む	
	225	土師器 甕		4.4		橙、褐 橙	5mm以下の白・褐色の砂粒・砂粒を含む	風化
	226	土師器 甕			ナデ	橙 橙	4mm以下の灰褐・赤褐色の砂粒・砂粒を含む	風化
	227	土師器 甕			ナデ ナデ	鈍い橙、橙 鈍い橙	4mm以下の褐色・暗褐色の砂粒を含む	塗付着
	228	土師器 甕		(15)	ナデ、ユビオサエ、ミガキ ミガキ	灰黄褐 橙、灰黄褐	1mm以下の白・褐色の細砂粒をわずかに含む	
	229	土師器 甕		1.6	ナデ ミガキ	明黄褐、灰 橙	1mm以下の黒・褐色の粒を含む	
	230	土師器 杯			ミガキ	橙 橙	黒い砂粒をわずかに含む	風化
	231	土師器 杯				鈍い橙 橙	1mm以下の黒い細砂粒を含む	風化
	232	土師器 杯				橙 橙	白や褐色の細砂粒をわずかに含む	風化
	233	土師器 杯			ナデ	橙 橙	2mm以下の黒い砂粒を含む	風化
15号住居	234	土師器 杯			ミガキ ミガキ		白や褐色の微細粒を多く含む	
	235	須恵器 甕			ナデ ナデ	灰、灰オリーブ 灰、暗灰	2mm以下の白・黒・灰の砂粒・細砂粒を含む	自然釉
	236	須恵器 杯			ナデ ナデ	灰 灰	1mm以下の白・黒・灰の細砂粒を含む	
	239	土師器 甕	(29.8) (21.8)		ユビオサエ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	褐 淡黄褐 鈍い黄橙、赤褐	5mm以下の褐色の砂粒・砂粒を多く含む	塗付着
	240	土師器 甕			ナデ ナデ	鈍い黄 鈍い橙	4mm以下の白・褐色の砂粒・砂粒を多く含む	
	241	土師器 甕		15.0	ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	橙 明赤褐	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む	
	242	土師器 甕		(21.0)	ケズリ後ナデ、ユビオサエ ケズリ、ケズリ後ナデ、ナデ	橙、鈍い黄 鈍い橙、明赤褐、褐	5mm以下の白・黑・褐色の砂粒・砂粒を多く含む	
15号住居	243	土師器 甕		(21.8)	ケズリ後ナデ、ナデ、ユビオサエ ユビオサエ、ナデ	暗灰 鈍い黄 黒	6mm以下の褐色の砂粒を多く含む	
	244	土師器 甕		(18.1)	ユビオサエ後ナデ ナデ	鈍い黄褐 鈍い黄橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む	風化

出土遺物	No.	種別	法量cm(括弧内は推定)			調査範囲内外	色調 内外	胎土	備考
			機種	器高	口径 底径				
15号住居	245	土師器 壺	(24.2)	ナデ ナデ	純い橙 純い橙	4mm以下の赤褐色の砂礫を含む			
	246	土師器 壺		ケズリ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	橙、純い橙、黒 純い赤褐、赤褐、黒	6mm未満の白・黒・褐色の砂礫・砂粒を多く含む			
	247	土師器 壺		ナデ ナデ	橙 橙	3mm以下の褐色の砂粒を多く含む			
	248	土師器 壺		ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	橙 橙	5mm以下の褐色の砂粒を多く含む			
	249	土師器 壺		ハケ後ナデ、ナデ ナデ、ケズリ後ナデ	浅黄橙 浅黄橙	3mm以下の褐色の砂粒を含む			
	250	土師器 壺	(8.6)	ケズリ後ナデ ミガキ	橙 橙、黃橙	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を多く含む			
	251	土師器 壺		ユビオサエ、ケズリ、ナデ ミガキ	オリーブ黒 橙	1mm以下の白・褐色・灰の砂粒・細砂粒を含む			
	252	土師器 壺	(17.2)		橙、純い橙、赤橙 橙、純い橙、赤橙	5mm以下の白・褐・灰の砂粒・砂粒を多く含む			剥み目突帯 風化
	253	土師器 壺		ケズリ後ナデ、ナデ ナデ	黒褐 純い橙、橙	0.5~1mm以下の白・黒・褐 白の砂粒・細砂粒を多く含む			木炭底
	254	土師器 壺	(9.4)	ナデ ナデ	橙 純い橙、橙	2mm以下の墨・褐色の砂粒を含む			
	255	土師器 壺		ナデ ナデ	橙 橙、純い橙	1mm以下の白・黒の細砂粒を含む			
	256	土師器 壺	(10.6)	ナデ	橙 橙	2mm以下の黒い砂粒を含む			風化
	257	土師器 壺		ナデ ナデ	橙 純い橙、橙	1mm以下の黒い細砂粒を含む			
	258	土師器 壺		ナデ ナデ	純い橙 純い橙	1mm以下の黒い細砂粒を含む			風化
	259	土師器 壺		ナデ	赤橙、橙 赤橙、橙	1mm以下の白・褐色の細砂粒を含む			透かし孔・ 風化
	260	土師器 壺		ナデ ナデ	橙 橙	2mm以下の黒い砂粒を含む			
	261	土師器 壺	6.3	14.5	5.5	ミガキ ミガキ、ナデ	2mm以下の黒・褐色の砂粒・細砂粒を含む	内面ヘラ記 号	
	262	土師器 壺	7.0	15		ミガキ ケズリ後ナデ	純い赤褐、暗赤褐、黒 純い赤褐、暗赤褐、黒 砂粒を含む		赤彩
	263	土師器 壺	6.0	16.5		ミガキ ミガキ	5mm以下の褐色・灰色の砂粒を含む		黒斑
	264	土師器 壺				ミガキ ミガキ	5mm以下の黒・褐色の砂粒を含む		
	265	土師器 壺	(16.6)			ミガキ	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み 灰色の砂粒をわずかに含む		風化
	266	土師器 壺				ミガキ ミガキ	1mm以下の赤褐色の砂粒を含む		風化
	267	土師器 壺				ミガキ	4mm以下の白・黒の砂粒を含む		風化
	268	土師器 壺				ミガキ	2mm以下の黒い砂粒を含む		
	269	土師器 壺	3.5			ナデ ナデ	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み 透明な光沢をわざかに含む		
	270	須恵器 壺		ケズリ後ナデ ユビオサエ、ケズリ後ナデ	赤橙 赤橙、明黄褐	5mm以下の灰・乳白色の砂 礫を含む			自然釉
	271	須恵器 壺		タタキ タタキ	暗灰褐、灰 灰	1mm以下の白い細砂粒を含む			
	272	須恵器 壺		ナデ ナデ	灰 灰	1mm以下の白い細砂粒をわ ざかに含む			自然釉
	273	須恵器 壺	(13.6)	ナデ ナデ	灰、黑 灰、黑	1mm以上の白・褐色の細砂 粒を含む			自然釉・波 状文
	274	須恵器 壺		ナデ ナデ	灰 灰	2mm以下の白・褐・黒の砂粒を わずかに含む			透かし孔・ カキメ
	275	須恵器 壺	4.6	(10.4)	ナデ ケズリ、ナデ	灰 灰	1mm以下の白・黒・灰の砂 粒・細砂粒を含む		
	276	須恵器 壺		ナデ ケズリ、ナデ	青灰 青灰	3mm以下の白・褐色の砂粒・ 細砂粒を含む			
	279	土師器 壺	(24.5)	ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	橙、純い橙 純い橙	8mm以下の黒・褐色の砂礫・ 砂粒を多く含む			煤付着

出土遺構	No.	法量cm括弧内は推定			調査 調査 外	色 調査 内 外	胎 上	備考	
		機種	器高	口径					
	280	土師器 壺	(19.4)		ナデ、ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	緑、灰褐色、鈍い橙 鈍い黄褐色、灰赤	6mm未満の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を多く含む	焼付着	
	281	土師器 壺	(22.0)		ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色	2mm以下の中赤褐色の砂粒を 含む		
	282	土師器 壺	(17.6)		ケズリ後ナデ、ナデ、ユビオサエ	浅黃褐色、橙 鈍い褐色	4mm以下の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を多く含む	焼付着	
	283	土師器 壺	(21.6)		ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ	灰黃褐色 鈍い褐色	6mm以下の赤褐色の砂粒を 含む		
	284	土師器 壺	19		ケズリ後ナデ、ナデ、 ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ	鈍い褐色、鈍い橙 鈍い黄褐色	4mm以下の褐色・灰の砂粒 を多く含む	焼付着	
	285	土師器 壺	(22.1)		ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ	鈍い褐色 鈍い褐色、褐色	5mm以下の黒・褐色のされ ・砂粒を含む		
	286	土師器 壺			ケズリ ケズリ後ナデ	鈍い褐色 鈍い褐色	4mm以下の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を含む		
	287	土師器 壺			ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	3mm以下の褐色・灰白の砂 粒・細砂粒を多く含む			
	288	土師器 壺			ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	橙 橙	2mm以下の黒・褐色・灰色 の砂粒・細砂粒を多く含む		
	289	土師器 壺			ナデ ナデ	橙 橙	4mm以上の黒・灰色の砂 粒・細砂粒を多く含む	風化	
	290	土師器 壺			ナデ	鈍い黄褐色、鈍い橙 鈍い褐色	3mm以上の白・黒・褐色の 砂粒を多く含む	風化	
	291	土師器 壺			ナデ ユビオサエ	橙 橙	6mm未満の黒・褐色の砂粒・ 砂粒を含む	風化	
	292	土師器 壺			ナデ ケズリ後ナデ	橙 橙	4mm以下の灰・黒・褐色の砂 粒・砂粒を多く含む		
	293	土師器 壺			ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	橙、鈍い橙 鈍い褐色	5mm以下の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を多く含む	焼付着	
	294	土師器 壺			ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	鈍い褐色 鈍い黄褐色	8mm以下の黒・褐色の砂粒 ・砂粒を含む		
	295	土師器 壺	12.1	(8.4)	ユビオサエ、ケズリ後ナデ	橙 橙、鈍い褐色	3mm以下の白・黒の砂粒を 含む	木製底	
16号住居	296	土師器 壺		1.6	ナデ、ユビオサエ、 ケズリ後ナデ	橙、灰褐色、鈍い褐色 鈍褐色、黃褐色	4mm以下の褐色・灰・乳白色の 砂粒・砂粒を多く含む		
	297	土師器 壺			ナデ	鈍い黄褐色、灰黃褐色 橙	6mm以下の赤褐色の砂粒を 含む	割込み突端	
	298	土師器 壺			ナデ ユビオサエ	橙 橙	黒・褐色の微細粒を含む	風化	
	299	土師器 壺		8.2	ケズリ後ナデ、ナデ	橙 橙	6mm以上の白・黒・褐色の 砂粒・砂粒を多く含む	風化	
	300	土師器 壺			ユビオサエ、ナデ	橙 橙、褐色	黒・褐色の微細粒をわずかに 含む	風化	
	301	土師器 壺	7.2	13.3	6.3	ケズリ後ナデ、ミガキ ユビオサエ、ナデ、ミガキ	黒 黑	2mm以下の白・黒・褐色の 砂粒を含む	
	302	土師器 壺	9.1	15.3		ユビオサエ、ケズリ後ナデ、ナデ ミガキ	橙、赤 橙、赤、鈍い黄褐色、黑	3mm未満の白・黒・褐色の 砂粒・細砂粒を含む	
	303	土師器 壺	8.0	15.4		ケズリ後ナデ、ナデ ミガキ	橙、明黄褐色 橙、明黄褐色、黑、灰赤	0.5mm以下の白・黒・乳白色 ・光る砂粒・細砂粒を含む	ヘラ記号
	304	土師器 壺	(8.1)	(16.7)		ナデ ケズリ後ナデ	鈍い褐色 鈍い褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒 を含む	
	305	土師器 壺	7.4	(16.4)	5.0		鈍い褐色 鈍い褐色	1mm以下の褐色・灰色の砂粒を 含み、透明な細粒をわずかに含む	内面赤彩？ ・風化
	306	土師器 壺	6.3	18.7		ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	橙 橙	2mm以下の白・黒・褐色の 砂粒を含む	
	307	土師器 壺		(17.5)		ケズリ後ナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	鈍い橙 鈍い橙、鈍い赤褐色	2mm以下の白・黒・褐色の 砂粒を含む	焼付着・風化
	308	土師器 壺	5.7	(17.0)		ミガキ ミガキ	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色	2mm以下の黒・褐色の砂粒を を含む	内面ヘラ記号？
	309	土師器 壺	6.2	(18.5)	(6.8)	ケズリ、ミガキ ミガキ	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色	2mm以下の赤褐色の砂粒を 含む	赤彩？
	310	土師器 壺	5.0	15.5		ナデ ナデ	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色	2mm以下の黒・褐色の砂粒 を含む	風化
	311	土師器 壺		(15.0)		ナデ	橙 橙、黃褐色	2mm以下の白・褐色・灰の 砂粒を含む	風化
	312	土師器 壺		(15.3)		ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	橙、褐灰 鈍い黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒を含 む	

出土遺物	No.	種別 機械	法量cm括弧内は推定			調 整 内 外	色 調 内 外	胎 上	備 考
			器高	口径	底径				
16号作居	313	土師器 环	(17.8)			ミガキ ケズリ後ミガキ	赤褐色 純い赤褐色	2mm以下の黒褐色・灰白の砂粒を含み、透明の微細粒を多く含む	赤彩
	314	土師器 环	(19.0)				橙 黄橙	1mm以下の黒・赤褐色の砂粒を含み、透明の粒をわずかに含む	風化
	315	土師器 环	(14.8)			ナデ、ユビオサエ ユビオサエ、ナデ	純い黄褐色 純い褐	1mm以下の赤褐色の砂粒、光る微細粒をわずかに含む	
	316	土師器 环	(17.8)			ミガキ ミガキ	純い橙 明赤褐色	1mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明の粒を含む	
	317	土師器 环坏		12.4		ナデ、ミガキ ミガキ、ユビオサエ、	純い褐色 橙	2mm以下の褐色の砂粒、透明の粒を含む	
	318	土師器 环坏		12.4		ナデ ケズリ後ナデ、ナデ	明黄褐色 橙	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明の砂粒を含む	
	319	土師器 环坏		11.0		ユビオサエ	橙 橙	3mm以下の黒・褐色・白灰色の砂粒・細砂粒を含む	風化
	320	土師器 环坏		11.2			橙、浅黄橙 橙、浅黄橙、明赤褐色	1mm以下の白・黒・褐色の砂粒を多く含む	風化
	321	土師器 环坏				ミガキ、ケズリ後ナデ	純い黄褐色 橙、浅黄橙	6mm未満の白・黒・褐色灰の砂粒・砂粒を含む	風化
	322	土師器 环坏					橙 黄橙、純い黄橙、褐色	4mm以下の黒・褐色・灰色の砂粒・砂粒を多く含む	風化
	323	土師器 环坏					橙 橙	2mm以下の黒・褐色・灰色の砂粒・細砂粒を含む	風化
	324	土師器 土塗							穿孔
1号土坑	325	土師器 壺	(16.2)			ナデ ナデ	純い黄橙 灰黄橙、純い黄橙	3mm以下の黒・褐色の砂粒を含む	塗付着
	326	土師器 土塗							
	327	須恵器 环	(16.6)			ナデ ハラケズリ、ナデ	灰 灰	白・灰の砂粒を含む	
1号溝状遺構	328	土師器 壺				ナデ ナデ	明褐色 純い橙	3mm以下の褐色の砂粒を含む	
	329	土師器 壺				ナデ ナデ	橙 橙	2mm以下の砂粒・細砂粒を含む	
	330	土師器 壺				ナデ ナデ	純い橙 橙	3mm以下の灰白・黒褐・明赤褐色の砂粒を含む	割目突帯
	331	土師器 高台付环	6.6	(17.5)	(13.8)	ナデ	純い黄橙 純い黄橙	2mm以下の灰褐色・赤褐色の砂粒・細砂粒を含む	
	332	須恵器 壺				ナデ ナデ	黄灰 灰	1mm以下の灰色の砂粒を含む	自然軸・波状文
2号溝状遺構	335	土師器 壺		(12.3)		ナデ ケズリ後ナデ	橙 橙	5mm以下の黒・褐色の砂粒を多く含み、光る粒を含む	木炭底
	336	須恵器 壺				ナデ ナデ	灰白 灰白	1mm以下の褐色の砂粒を含む	
	337	須恵器 壺				タタキ タタキ	褐灰 灰	3mm以下の灰白・褐色の砂粒を含む	
6号溝状遺構	348	土師器 鉢?	4.7		4.9	ユビオサエ ユビオサエ	純い黄橙 純い黄橙	3mm未満の黒・褐色・乳白色の砂粒を含む	手づくね
7号溝状遺構	351	土師器 环坏				ナデ ナデ	橙 橙	褐色・灰の微細粒を含む	
2号地下式横穴墓	357	土師器 壺	7.9	(7.0)		ミガキ、ケズリ、ユビオサエ ミガキ、ミガキ	橙、純い黄橙 橙	2mm以下の褐色の砂粒を含み、透明の粒を含む	
	358	土師器 环	4.9	11.5		ミガキ ミガキ	橙 橙	石英の微細粒を多く含む	風化
	359	土師器 环	4.6	12.7		ミガキ、ナデ ミガキ	橙 橙、明赤褐色	2mm以下の白・黒の砂粒を含む	丹塗り
	360	土師器 环	4.8	14.0		ミガキ ミガキ、ナデ	橙 純い橙	石英の微細粒を多く含み、2mm以下の褐色の砂粒を含む	風化
3号地下式横穴墓	362	土師器 环	7.2	15.0		ケズリ、ミガキ ミガキ、ナデ	橙、純い黄橙 橙、明赤褐色	白・褐色の微細粒をわずかに含む	
4号地下式横穴墓	364	土師器 环坏	4.3	14.2		ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	純い赤褐色 明赤褐色	1mm以下の白・黒の砂粒を含む	
	365	須恵器 环坏	4.7	14.7		ナデ ハラケズリ、ナデ	灰 灰	4mm以下の白い砂塵・砂粒を含む	
	366	須恵器 环	3.9	12.0		ナデ ハラケズリ、ナデ	灰 灰	5mm以下の白・褐色の砂塵・砂粒を含む	

出土遺構	No.	種別	法式cm括弧内は推定			調査内外	色調内外	船上	備考
			根柢	器高	口径				
5号地下式横穴墓	367	須恵器 壺	9.1	7.3		ナデ ケズリ、カキメ	灰 黒、灰、鈍い黄	白・黒・灰の砂粒・細砂粒 をわずかに含む	自然釉
	368	須恵器 壺	4.4	14.8		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	5mm以下の白・黒・灰の砂 粒・砂粒をわずかに含む	自然釉
6号地下式横穴墓	369	土師器 壺	7.5	9.2		ミガキ、ナデ ケズリ、ミガキ、ナデ	鈍い緑	2mm以下の白・黒の砂粒 を含む	丹塗り
	370	須恵器 壺	20	14.0		ナデ ケズリ、ナデ、カキメ	黄灰、黒褐、褐灰、灰褐 黒褐、黄灰、灰褐	6mm以下の黒・乳白色の砂 粒を含む	練割
	371	須恵器 壺	4.1	13.8		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰、一部黒	1mm未満の白く不透明な粒 をわずかに含む	自然釉
	372	須恵器 壺	4.2	13.3		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰、灰オリーブ 灰、灰オリーブ	3mm以下の白・黒の砂粒 を含む	ヘラ記号・ 赤彩
	373	須恵器 壺	3.9	13.6		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	6mm以下の白・黒の砂粒・ 砂粒を含む	赤彩
	374	須恵器 壺	4.1	13.6		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰、灰黄 灰	6mm以下の白・褐色の砂粒、 灰白の細砂粒を含む	赤彩
	375	須恵器 壺	4.1	13.2		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	3mm以下の白・黒の砂粒 を含む	赤彩
	376	須恵器 壺	3.6	12.4		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	精良	ヘラ記号・ 赤彩
	377	須恵器 壺	3.8	11.9		ナデ ヘラケズリ、ナデ	オリーブ灰 オリーブ灰	4mm以下の白い砂粒を含む	赤彩
	378	須恵器 壺	4.2	12.0		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	4mm以下の白い砂粒・砂粒 を含む	ヘラ記号・ 赤彩
7号地下式横穴墓	379	須恵器 壺	3.8	11.3		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰、黄い赤棕	3mm以下の白・乳白色の砂 粒を含む	赤彩
	380	須恵器 壺	4.5	12.4		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	3mm以下の白・黑・褐色の砂粒 を含み、褐色の砂粒を含む	赤彩
8号地下式横穴墓	384	土師器 高杯		14.3		ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	鈍い黄緑 鈍い黄緑	2mm以下の褐色の砂粒を含 み、透明の粒をわずかに含む	風化
	385	土師器 平盤	4.6	14.5		ケズリ、ミガキ ミガキ、ナデ	緑	石英の微細粒を多く含む	
	386	須恵器 壺	4.1	13.5		ナデ ヘラケズリ、ナデ	褐灰 灰	4mm以下の褐色の砂粒・砂 粒を多く含む	
9号地下式横穴墓	387	須恵器 壺	3.8	12.5		ナデ ヘラケズリ、ナデ	暗紫灰 暗青灰	2mm以下の白・黒の砂粒を 含む	
	391	土師器 壺	24	17.2	3.3	ケズリ、ユビオサエ、ナデ ケズリ、ユビオサエ、ナデ	青 明赤褐	6mm以下の白・黒・褐色の砂 粒・砂粒・砂粒を含む	木葉底
	392	土師器 台付杯	6.5	14	5	ミガキ、ナデ ユビオサエ、ミガキ、ナデ	桜、黄橙 桜	黒・褐色・灰の細砂粒を含 む	丹塗り
1号Pit	393	須恵器 壺	3.5	12		ナデ ヘラケズリ、ナデ	灰 灰	白・黒の細砂粒を含む	赤彩
	395	上部22 編			8.4	ナデ ユビオサエ	鈍い緑 鈍い緑、灰、淡黄緑	0.2mm以下の褐色の微細粒 をわずかに含む	

遺物観察表2 金属器

出土遺構	No.	種別	幅(cm)	長(cm)	厚(cm)	重(cm)	備考
1号溝状遺構	334	刀子	1.9	9.7	0.55	24.55	
2号地下式横穴墓	361	刀子	1.5	10.6	0.40	17.55	木質残存
3号地下式横穴墓	363	刀子	5.8	12.5	0.35	5.53	
6号地下式横穴墓	381	劍	19.5(刃)27(柄)	34.6	0.55(刃)27(柄)	106.09	木質残存
	382	金環	2.0	1.8	3.00	3.5	
8号地下式横穴墓	388	刀子	12.2	1	0.50	18.19	木質残存
	389	鎌	10.3	2.7	4.00	16.99	樹皮残存
	390	鎌	2.27	8.6	3.80	15.40	樹皮残存

遺物觀察表3 石器

出土遺構	揭露	機種	長	幅	厚	重	石材
3号住居	28	敲石	11.4	8.9	4.8	705	砂岩
	29	不明	16.9	12.2	8.5	580	輕石
4号住居	85	擦石	12.2	11.3	6.1	127	凝灰岩
	86	敲石	9.4	3.8	3.3	205	砂岩
	87	砥石	8.7	3.3	0.6	25.03	砂岩
8号住居	153	砥石	10.7	6.2	8.4	70	輕石
	154	凹石	6.6	4.15	3.45	175	砂岩
	155		23.85	23.15	11.35	1150	輕石
9号住居	178	敲石	9.1	5.35	4.1	280	砂岩
	179	砥石	6.1	5.1	3.7	24.09	輕石
10号住居	214	凹石	20.4	8.8	8.5	2580	砂岩
14号住居	237	砥石	10.2	6.1	5.56	51	輕石
	238	台石	18	10.5	6.5	1190	砂岩
15号住居	277	敲石	13.7	4.2	3.5	270	頁岩
	278		10.4	10	5.4	100	輕石
1号溝状遺構	333	砥石?	14	6.8	5.5	100	輕石
2号溝状遺構	347		16.3	11.1	6.3	217	輕石
6号溝状遺構	350	敲石	10.9	3.7	2.8	180	砂岩
7号溝状遺構	356	凹石	9.7	4.8	4.5	300	砂岩
6号地下式横穴墓	383	玉				0.33	
10号地下式横穴墓	394	勾玉				2.61	

遺物觀察表4 陶器・磁器

出土遺構	No	種類	機種	口径	底径	器高	裝飾			底面・内底	产地	備考		
							繪付・鈴蓋	文様						
								外面	内面	見込				
2号溝状遺構	338	陶器	碗								砂目付着			
	339	磁器	碗	10.8				二重圓線・花唐草	二重圓線					
	340	磁器	碗											
	341	磁器	碗					二重圓線	二重圓線					
	342	陶器	碗								唐津			
	343	陶器	皿	4.0							蛇口釉羽	唐津		
	344	磁器	皿								貢人・露胎			
	345	磁器	小杯		12.85						砂目付着	呂付釉調		
6号溝状遺構	346	陶器	水指 (10.6)											
7号溝状遺構	349	磁器	碗				二重圓線	圓線				貢人		
	352	陶器	皿	5.3							胎上目	唐津		
	353	陶器	皿	4.7							唐津	露胎		
	354	陶器	皿								蛇口釉羽	鳥越?		
	355	陶器	瓶								露胎			

### 第三章 まとめ

#### 集落

北中遺跡で確認された16基の竪穴住居からは、上部器を中心とした遺物が大量に出土した。その多くは古墳時代中期～後期にかけてのものであり、当時の集落を考える上で貴重な発見となった。当遺跡出土資料と類似した資料が出土した宮崎市「上の原第3遺跡」と、新富町「上園遺跡A・B・C・E・F地区」出土資料と出土須恵器を参考に当遺跡の集落を検討したい。

1号住居出土の高坏（1, 3, 4）は同一個体の可能性が高い。坏部が深く、体部には稜を持たず口縁が直線的に開き、脚柱部と裾部は稜を持たずに開く。同様の資料は江田原第3遺跡出土資料にも見られ、江田原第3遺跡ではTK208段階に比定される須恵器の脇が共伴している。

4号住居出土須恵器壺蓋（82）は、口縁部端部内側の段などからTK23～TK47に相当する。8号住居出土須恵器壺（152）はTK23～TK47段階、15号住居出土須恵器壺（275, 76）は、鋭い稜、口縁端部の外反、内側の段、ヘラケズリの高さからTK47に相当する。4号、15号住居と同様の脇は10号、16号住居出土遺物にもみられ、口縁部と胴部の境に稜を持たずに外反するもの、丸く張った脇をもち、短い口縁部が外反するものが含まれる。8号住居から出土した脇には、最大径を胴部最大径にもち、内外面共にハケメ調整を施し、頭部に貼り付け突帯を持つもの（105）と、口縁部と胴部の境に不明瞭な稜を持ち、口径と胴部最大径がほぼ同じになるもの（106）があり、106は古相を示す。105は胎土も精良で非常に丁寧に仕上げられている。この他、外反する口縁部を持つ古相を示す脇は、30, 32, 181, 182, 183がある。脇は大型のもの（150）の他に、小型で扁球の脇をもち、極短い口縁が直口するもの（250）が見られる。この他突帯をもつ複合口縁壺（252）、小型丸底壺の系譜を引く小型壺（120）が見られる。高坏は、大型で著しく深い坏部をもち、わずかにエンタシス状の脚柱部から明瞭な稜をもって直線的に開く裾部をもつもの（63）が見られる。

北中遺跡では、3基の住居から埋甕炉が確認された。7号住居で確認された埋甕（102）は、木葉底を有する平底を呈し、長脇で内外面に粘土の輪積み痕が観察される。同様の資料は大町遺跡、問越遺跡、浮士江遺跡といった古墳時代後期の集落において多数確認されており、TK43～TK209段階頃と考えられる。11号、12号住居で確認された埋甕（215, 217）は、いずれも丸底であることから7号住居に先行するが、TK10段階の集落である源藤遺跡では埋甕炉が出現していないことから、TK43段階よりやや古い時期と考えられる。この他、同時期の住居として9号住居がある。

13号住居から出土した遺物は極めて少量であるが、4号、12号住居との切りあいの関係から4号住居に後出し、12号住居に先行する。

平成9年度調査区において、明確にできなかった集落としての北中遺跡が今回の調査によって明らかになったことは成果の一つであるが、集落も墓域も東側を中心として展開している点が疑問として残る。調査によって明らかにできなかったIH地形や、調査区外への集落の展開も含めて検討してゆく必要があろう。

#### 大町遺跡との関係

当遺跡の南西約600mの微高地縁辺部に立地する大町遺跡では、6世紀中葉から集落の構築を始め、6世紀末～7世紀前半にピークに達し、その後急速に衰退した比較的の短期間しか継続しなかった集落と考えられている。

大町遺跡での集落のピーク（6世紀末～7世紀前半）時の住居は、当遺跡では7号住居の1軒だけが明らかになっただけで、その頃には北中では集落が廃絶し、なんらかの理由で大町遺跡へと集落が移動したと考えられる。

北中遺跡で確認された住居からは、相当量の軽石が出土した。しかし、そのすべてに加工痕が認められる訳ではなく、加工痕があるものに関して用途は判然としないものが多い。軽石について注目すべき点は、人頭大よりやや小ぶりの軽石がまとめて出土したことである。出土状況からは明確な

組み形等を確認できなかつた為、図面等は割愛したが、後述する鉄生産との関連も考え、今後の類例の増加に期待したい。

### 溝状遺構

北中遺跡で確認された溝状遺構の多くからは、陶磁器が出土した。出土した陶磁器は中世末と近世にそれぞれ比定される。中世末の遺物としては、2号溝状遺構より出土した342、343、7号溝状遺構より出土した352、353がある。これらは1594年頃～1610年代に佐賀で生産された古唐津である。ここでは若干ではあるが北中遺跡の中世～近世頃の周辺の環境に触れ、同地域の歴史理解の一助とした。

北中遺跡を含む吉村地区には、永承年間（1046～1053）、宇佐神宮領宮崎荘の別符である竹崎別符が存在した（『宇佐神宮領大鏡』）。鎌倉時代の建久八年（1197）に作られた『口向国団帳』には、宇佐宮領の中に「竹崎別付四十五丁、右郡（那珂）内、弁済使字三郎、不知實名」とあり、荘園期には地域の支配層が現れてくる状況が伺える。中世～戦国期には主に、宮崎地方進出を果たした伊東氏領となり、後に島津氏の支配下にあったと思われる。秀吉の九州征伐後には、延岡領（高橋氏）となり、『日向地誌』の「吉村」の管轄沿革に「上別府村ト同シ但徳川氏ノ時幕領タリ江田村ト同シ」とあるように、江戸期には幕府領となっていく。以下述べるように、この間の史料はわずかであり、具体的な支配体制はつまびらかではないが、宮崎地方でも重要な地域であったと思われる。

吉村の南には下別府村が存在し、吉村と同じく中世荘園期は宇佐宮領竹崎別符が存在した。寛文二年の大地震では、大津波によって田畠の多くは水没したと言われ、その被害地域は下別府村から南方海岸一帯に及んだと伝えられる。この頃、下別府村に小戸神社が鎮座していた。宮崎県史跡調査第一輯、小戸神社の項に「古傳ニ曰ク本社ハ人皇十二代景行天皇ノ勅ニ依リテヲ創造スト云フ文明五年癸巳三月十八日造営其後延祐二年庚戌壬八月八日修復爾後天文十五年丙午四月十四日改造又永保九年丙寅十二月廿六日改造シ奉ル（中略）其後寛文二年九月十九日西海大地震ノ際下別府神宮ニ至ルマデ潮水皆没シテ海底トナル故ニ本社ヲ以テ上別府大瀬ノ上ニ奉還ス（以下略）」とある。このことから、下別府地方が、小戸神社の鎮座の地であったということがうかがいしれる。また有馬直純が領内に設けた出入貨物に分銀を徴収する那珂郡下別府津口番所が存在することから、この地域の中心は下別府地方であったと考えられる。その他、島津の有力武将であった上井覺兼の日記に、「下別府衆」の名（天正十一年：1583）や、宮崎地頭の「与力衆」（天正十三年：1585）といった節が見られる。与力衆とは、中世から近世にかけて、より有力な武士や制度上の上司に加勢、または付属する武士であることから、下別府地方の後背地である北中遺跡周辺には、この与力衆の居館等が存在したことも想定される。北中遺跡からの出土陶器に天日茶碗（H 9年度）、水差し（346）といった茶器が見られること、平成9年度調査区の2号溝状遺構と今回の調査区の7号溝状遺構がその規模から、環状、もしくは「コ」の字型に巡ることも予想でき、居館の存在の可能性が考えられるが、調査区内において、掘立柱建物といった直接関連する施設の確認はできなかった。

### 地下式横穴墓

北中遺跡で確認された10基の地下式横穴墓について若干の考察をしてみたい。

形態的な部分からみると妻入り型に属する地下式横穴墓は5号、6号、9号である。出土須恵器から5号、6号はTK43段階平行、9号はTK209段階平行期に築造されたものと思われる。従来、妻入り型の地下式横穴墓はTK209まで下ることはないとされていたが、今回の調査で妻入り型の地下式横穴墓がTK209段階まで下ることが確認された。5号地下式横穴墓では、羨道は竪坑から玄室へスロープ状に造られており、埋葬の手間を軽減する造りをしている。6号地下式横穴墓は北中遺跡最大にして最も多くの遺物が出土した地下式横穴墓である。当該地域においても比較的有力者の墓と考えられる。紙面の都合上やむを得ず図面を割愛したが、6号地下式横穴墓では、大量の軽石が玄室内部で確認され、その分布は羨門付近が最も密度が高く、玄室の奥に進む程に低くなっていた。明確な

確証は無いが、軽石による羨門閉塞の可能性がある。9号地下式横穴墓は住居の壁を利用するという工法も特異なものであるが、豊坑の造りも粗い。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、玄室内に持ち込みず、羨道の豊坑から向かって右壁に配置してある。

平入り型に属する地下式横穴墓は1号、3号、4号、7号、8号で、そのうち須恵器が出土したのは4号、8号でTK43段階平行と考えられる。1号地下式横穴墓から出土した遺物は、土師器の細片が1点のみであった。3号、4号、8号地下式横穴墓では豊坑から向かって左側に遺物が集中し、3号、8号では玄室中央付近から刀子が出土するなど、埋葬時における副葬品の配置に何らかのルールが適用されていることを窺わせる。

プランが不明なものは2号、10号である。2号地下式横穴墓は土師器が重なり合って出土しており、出土土師器から6世紀中～後半に比定できる。埋葬施設ではなく、埋葬施設にともなう施設の可能性も考えられる。10号は、後世の溝状遺構と攪乱によって切られており、豊坑、玄室共に不明な点が多い。勾正(394)が出土しているが、埋上中からの出土であるため、単純に10号地下式横穴墓川土とするには疑問が残る。

3号、8号、9号地下式横穴墓は廃絶住居に寄生する形で築造されている。具体的には、住居が廃絶され、ある程度、もしくは完全に埋まってからその住居の跡を利用して豊坑を掘り込み、住居の外に玄室を設けるという工法を採用している。

同様な地下式横穴墓の例として、大町遺跡で確認された3基がある。同遺跡の報告書では、地下式横穴状遺構と報告されているが、平成11年度調査の間越遺跡、今回の北中遺跡の調査によって大町遺跡の地下式横穴状遺構は地下式横穴墓であると確認された。大町遺跡では、1軒の住居に小型の地下式横穴墓が3基掘り込まれている。いずれの3基も平面形は平入り楕円形プランを呈し、玄室内から隼上リII形式の須恵器、土師器が出土しており、7世紀前半の築造と考えられる。寄生する住居との時期差は埋上の状況から認められないことから、住居廃絶直後に築造されたものであろう。

3号地下式横穴墓の場合、寄生する11号住居は上部を大きく削平されており、住居の深さも6cm程しか残存していないかったが、検出時に3号地下式横穴墓のプランが検出できたことから、少なくとも6cmは住居が埋没した状態で、豊坑を掘り込んでいる。

8号地下式横穴墓の場合、寄生する4号住居は住居廃絶後に大量の上器を投棄しており、8号地下式横穴墓の豊坑部分のみ遺物が入っていないかった状況と、4号住居出土遺物とは時期差があることから7号地下式横穴墓同様に住居跡を利用した工法を採用していると言える。

住居と地下式横穴墓との時間的隔たりは、11号住居が6世紀中頃で3号地下式横穴墓が6世紀後半と比較的の近接している。4号住居が5世紀後半頃で8号地下式横穴墓がTK43段階と約1世紀という大きな隔たりを持ち、12号住居が6世紀中頃で9号地下式横穴墓がTK209段階と比較的の近接している。集落の墓域への転換は比較的よく見られる現象ではあるが、偶然ではなく明らかに住居のある壁面を利用して地下式横穴墓を構築していることに注目したい。

北中遺跡同様、集落の中に墓域を設けている遺跡として大町遺跡、間越遺跡がある。大町遺跡の場合は、先述のとおり、住居と地下式横穴墓との時間的隔たりはなく、住居の壁を利用して地下式横穴墓を構築するという特異な工法においても酷似している。間越遺跡の場合、住居を利用した工法を採用しておらず、集落構成員の特殊な状況下での死に伴うものと考えられている。大町遺跡に関しては住居と時間的な隔たりが認められること、規模も小さいことから小児の埋葬やなにかしらの特殊な要因によって構築された墓であると考えられる。

北中遺跡で確認された10基の地下式横穴墓からは明確な群構造を確認することはできなかった。しかし、平成9年度に調査を実施した西側部分では1基も確認されていないため、今回の調査区自体を群として存在すると捉える必要も認められる。調査では、古墳の周溝といった関連する構造は確認されず、円配列や直線配列といった特別な配置も確認されなかったが、6号地下式横穴墓といった比較的豊富な遺物を持つ地下式横穴墓を中心とした社会階層の存在の一端を垣間見ることができた。

西都原においては、堂ヶ島第2遺跡で確認された地下式横穴墓から酒元之上横穴墓への移行が確認

されている。しかしながら、大淀川沖積地においては、大町遺跡のように、埠上りⅡ形式まで地下式横穴墓が存続しており、同地域での墓制を考える上で貴重な例である。また、北中遺跡においても、堅坑の墓道化といった現象は確認されず、西都・児湯地域と宮崎市域では古墳時代終末期における墓制の様相は異なっていることを暗示している。宮崎平野部における同時期の他の墓制との関係を考える上でも今後の類例の増加に期待したい。

## 鉄

平成9年度の調査においても2号堅穴状遺構から相当量の鉄滓が出土し、今回の調査でも3号、4号、6号、10号、14号、15号、16号住居、1号Pitから鉄滓、鉄塊が出土している。中でも14号住居においては、炉底滓（重さ930g、557g）が出土した。14号住居に近接する1号Pitは直径45cm、深さ30cmを測り、ハグチと鉄塊が出土した。1号Pitからはほぼ完形のハグチ（395）とは別に、ハグチの一部や鉄塊も一緒に出土しているため、使用したハグチや余った鉄塊を1号Pitに廃棄したものと考えられる。本遺跡で確認された堅穴住居からは、炉跡といった製鉄、鉄器生産遺構を確認することはできなかつたが、3号住居床面に広がる炭化物や、炉に用いられたハグチ、炉底滓が出土したことから、平成9年度分調査報告書で示された鉄に関する生産活動の可能性がより一層高まつたといえる。

## 成分分析

6号地下式横穴墓から出土した鉄刀（381）と1号Pitから出土した鉄塊について株式会社古田生物研究所に成分分析を依頼した。紙面の都合上、詳細な内容は割愛させていただくが、報告された分析結果をまとめた表を掲載した。

資料について島津エネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-700を用い、11Na～92Uまでの元素を表1に示した条件で測定した。ClについてはRhL $\alpha$ の重なりがあるので、Alフィルターを使ってNa～Scとは別条件で測定した。同様にRu～CdについてもRhK $\alpha$ の重なりがあるので、Zrフィルターを使ってTi～Uとは別条件で測定した。資料の定性分析結果、検出されたピークのリスト、及びFP法による半定量分析の結果から、検出された元素とそれらの定量値をまとめて表2として示した。蛍光X線分析の特性上、測定範囲は表面から数十μmまでである。なお、装置の特性上、10Ne以下の軽元素の測定はできない。

この結果、鉄刀（381）については、ほぼ純鉄であるといえ、非常に精度の高い鉄を用いて生産されたことが分かる。鉄塊についても鉄刀ほどではないが、非常に純度が高く、表面の錆等の劣化を考えると純鉄であるといえる。したがって、北中遺跡には材料としての鉄塊が持ち込まれていたことが確認された。

最後になりましたが、寒風の中作業に従事してくださった作業員の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

表1 測定条件

元素	Ti・U	Na・Sc	Cl	Ru・Cd
スペクトル	Ka, La...	Ka, La...	Ka	Ka
X線管	Rhターゲット			
管電圧	50kV	50kV	15kV	50kV
管電流	自動制御			
積分時間	300秒	300秒	300秒	300秒
デッドタイム	25%			
1次フィルタ	なし	なし	Al	Zr
検出器	Si(Li)半導体検出器			
X線照射径	5mmΦ			
雰囲気	真空			

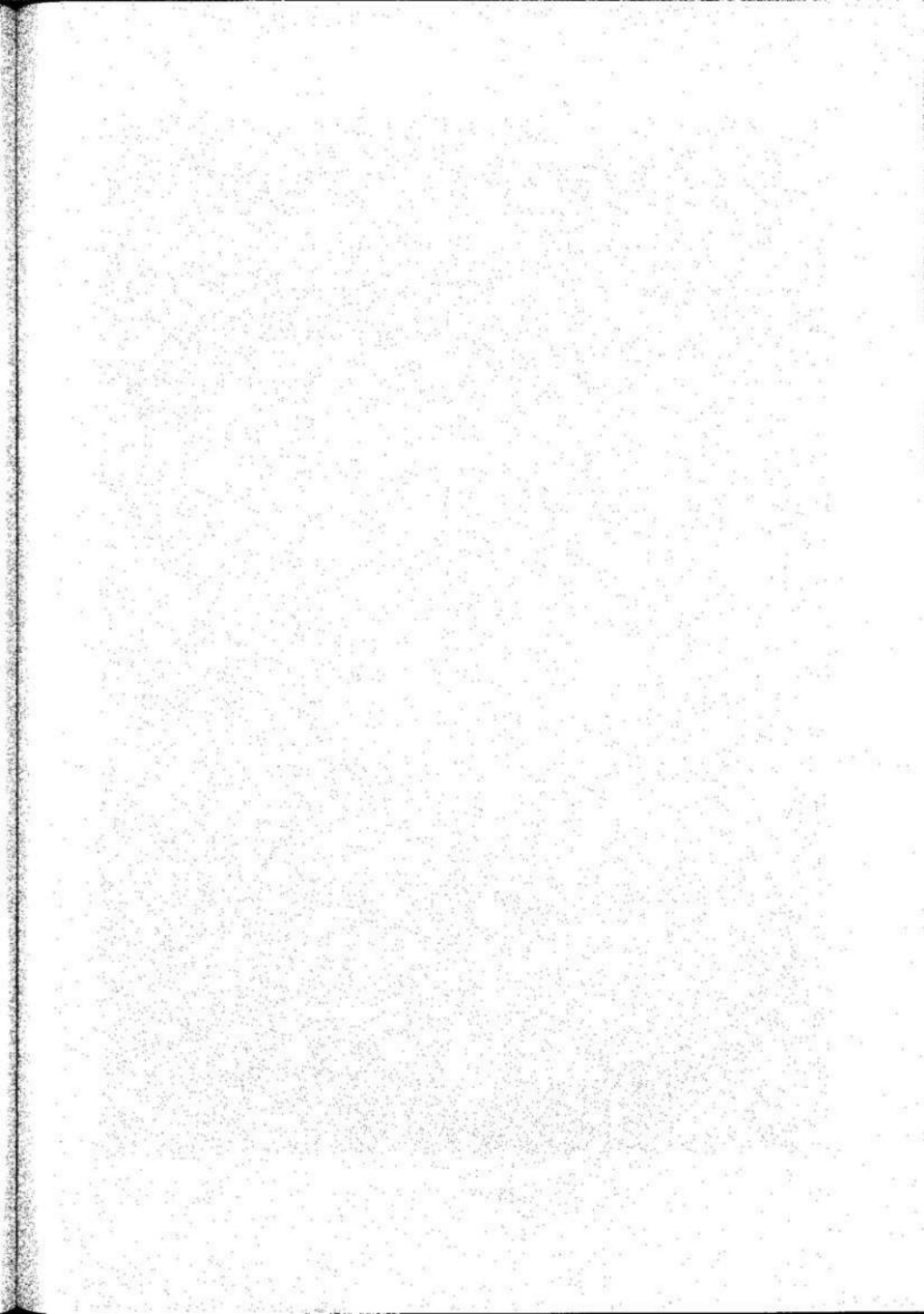
表2 北中遺跡出土品のFP法による判定量分析結果(%)

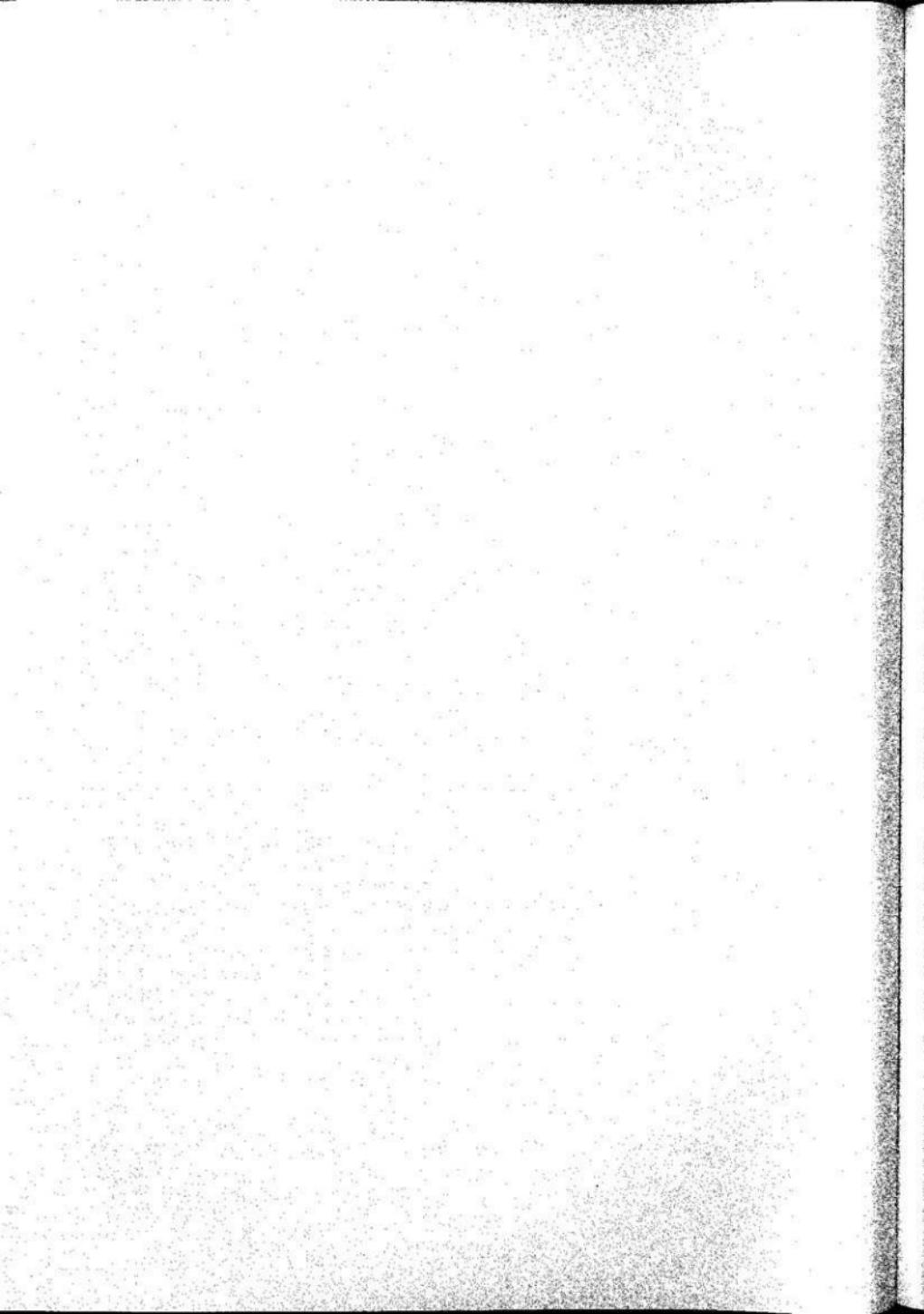
元素	北中遺跡	
	鉄剣(381)	1号Pit鉄塊
Al	1.048	4.775
Si	3.240	13.850
P	2.150	0.590
K	—	1.253
Ca	0.633	2.026
Mn	0.203	0.155
Fe	92.730	77.230
Cu	—	0.066
Sr	—	0.032
Zr	—	0.025

- : 未検出

## 【参考文献】

- 宮崎県 1993 『宮崎県史』 資料編 考古2  
 宮崎県 1994 『宮崎県史』 史料編 中世2  
 宮崎県埋文センター 1999 『上の原第3遺跡』  
 新宮町教育委員会 1995 『上園遺跡F地区・溜水第2遺跡』  
 新宮町教育委員会 1996 『上園遺跡A・B・C・E』  
 宮崎市教育委員会 1998 『大町遺跡』  
 宮崎市教育委員会 2001 『間越遺跡』  
 宮崎市教育委員会 2002 『江田原第3遺跡』  
 宮崎市教育委員会 1999 『北中遺跡』  
 九州前方後円墳研究会 2001 『九州の横穴墓と地下式横穴墓』 第4巻・備分冊  
 檍地区郷土史編さん委員会 1990 『檍郷土史』  
 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』  
 宮崎県内務部 1980 (復刻) 『宮崎縣史跡調査第一輯』 西日本図書館コンサルタント協会  
 平部福南 1976 (復刻) 『口向地誌』 青潮社  
 大田区立郷土博物館編 2001 『ものづくりの考古学 - 原始・古代の人々との知恵と工夫 - 』 東京美術  
 東京大学史料編纂所 1957 『上井党兼川記』『大日本古記録』 岩波書店  
 田畠昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店







図版1 北中遺跡遠景



圖版2 北中遺跡全景

图版3

- fig 1 1号住居完掘  
fig 2 1号住居遺物出土状况  
fig 3 1号住居焼土検出状况  
fig 4 2号住居完掘  
fig 5 2号住居遺物出土状况  
fig 6 2号住居出土状况2



fig 4

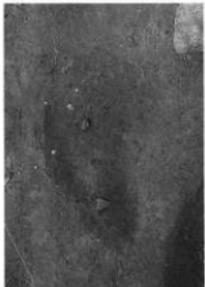


fig 5

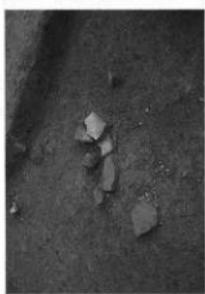


fig 6



fig 1

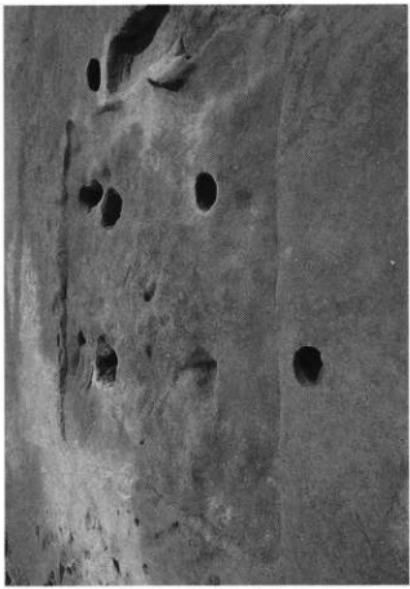


fig 2



fig 3



fig 4

图版 4

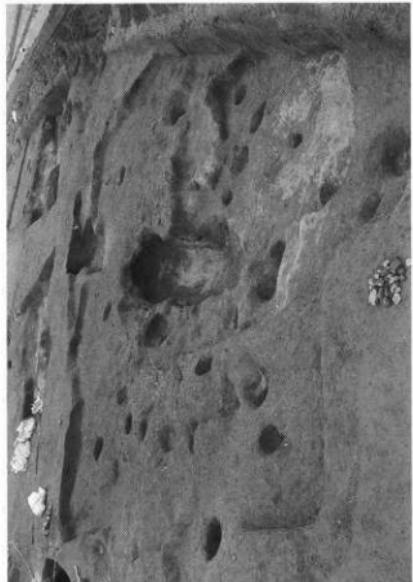


fig 7



fig 7



fig 9



fig 10

fig 10



fig 11

fig 11

fig 12

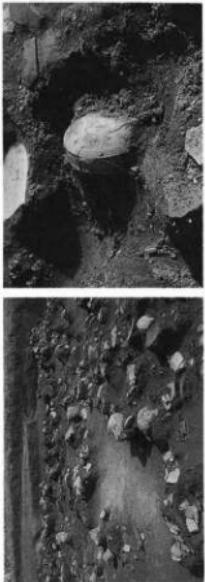


fig 12

fig 12

- fig 7 3号住居空掘  
fig 8 3号住居遺物出土状況  
fig 9 3号住居遺物出土状況 2  
fig 10 4・12・13号住居空掘  
fig 11 4号住居遺物出土状況  
fig 12 4号住居遺物出土状況 2